

ServerView Suite ServerView Event Manager

ServerView Operations Manager V5.0

製品名称の表記

本書では、本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記	
Microsoft® Windows Server® 2008 Standard Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter Microsoft® Windows Server® 2008 Foundation Microsoft® Windows® Small Business Server 2008 Standard Microsoft® Windows® Small Business Server 2008 Premium	Windows Server 2008	Windows
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Foundation Microsoft® Windows® Web Server 2008 R2	Windows Server 2008 R2	
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems Microsoft® Windows® Small Business Server 2003	Windows Server 2003	
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003 x64	
Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise Edition Microsoft® Windows® Small Business Server 2003 R2 Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Standard Edition	Windows Server 2003 R2	
Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard x64 Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003 R2 x64 または Windows Server 2003 R2	

製品名称	本文中の表記	
Red Hat Enterprise Linux 5	Red Hat Linux	Linux
	RHEL5	
Red Hat Enterprise Linux AS (v.4)	RHEL4	
Red Hat Enterprise Linux ES (v.4)		
SUSE Linux Enterprise Server 11	SuSE Linux	
	SuSE Linux SLES11 または SLES11	
SUSE Linux Enterprise Server 10	SuSE Linux SLES10 または SLES10	
VMware ESX 4	ESX4	VMware
VMware ESX 3.5	ESX3.5	

著作権および商標

Copyright © 2010 Fujitsu Technology Solutions GmbH.

All rights reserved

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Red Hat および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。

BrightStor、ARCserve は、CA, Inc の登録商標です。

VMware、VMware ロゴ、VMware ESXi、VMware SMP および VMotion は VMware, Inc の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

目次

1	はじめに	9
1.1	前バージョンからの変更点	10
1.2	本書の表記	11
1.3	ServerView Suite のマニュアル	12
2	イベントマネージャ	13
2.1	イベントマネージャのインストール	14
2.2	イベントマネージャの起動	15
2.3	アイコン	18
3	アラームモニタ	21
3.1	アラームの表示	21
3.2	サーバのアラームの表示	25
3.3	アラームエントリの処理	25
3.3.1	アラームの確認	25
3.3.2	アラームの除外	26
3.3.3	アラーム除外のリセット	26
3.3.4	アラームの削除	26
3.4	接続のテスト	27
3.5	その他の設定	28
3.5.1	1 ページに表示するアラーム数の設定	28
3.5.2	ローカルノートの編集	28
3.6	アラームリストの管理	29
3.7	サーバ情報の表示	31
3.8	SC2 MIB トラップとしてリレーされる iRMC S2 SEL エントリ	32

4	アラーム設定	39
4.1	アラームルール	41
4.1.1	アラームルールの管理	41
4.1.2	サーバの割り当て	45
4.1.3	アラームの割り当て	47
4.1.4	アクションの割り当て	51
4.2	フィルタルール	54
4.2.1	サーバのフィルタ	55
4.2.2	アラームのフィルタ処理	55
4.3	共通設定	57
4.4	全般的なメール転送	58
4.5	サービスプロバイダへのメール転送（ 本機能は未サポートです）	62
4.6	ポップアップの設定	65
4.7	ポケットベル設定／COM ポートとモデム （本機能は未サポートです）	68
4.8	実行プログラムの設定	71
4.9	ブロードキャストの設定	72
4.10	トラップの設定	74
4.11	マクロ	76
5	トラップ	77
5.1	トラップ情報の表示	77
5.2	Windows のイベントログにトラップを表示する	79
5.3	トラップの概要	80
5.3.1	Adaptec からのトラップ (Duralink.mib)	86
5.3.2	APC からのトラップ (Powernet.mib)	86
5.3.3	ブレードシステムからのトラップ (s31.mib)	89
5.3.4	クラスターからのトラップ (NTCluster.mib)	94
5.3.5	DPT からのトラップ (dptscsi.mib)	97
5.3.6	DuplexDataManager からのトラップ (Ddm.mib)	99
5.3.7	DuplexWrite からのトラップ (DW.mib)	102
5.3.8	ハードディスク (S.M.A.R.T.) からのトラップ (Hd.mib)	104
5.3.9	SNMP 標準トラップ	105

5.3.10	MultiPath からのトラップ (mp.mib)	105
5.3.11	Mylex からのトラップ (Mylex.mib)	107
5.3.12	PCI HotPlug からのトラップ (pcihotplug.mib)	112
5.3.13	PRIMEPOWER からのトラップ	112
5.3.14	PXRE からのトラップ (dec.mib)	119
5.3.15	RAID Adapter からのトラップ (Megaraid.mib)	123
5.3.16	RomPilot からのトラップ (Rompilot.mib)	126
5.3.17	ServerControl からのトラップ (SC.mib)	127
5.3.18	ServerControl からのトラップ (SC2.mib)	134
5.3.19	ServerView からのトラップ (ServerView.mib)	141
5.3.20	ServerView ステータスからのトラップ (Status.mib)	141
5.3.21	テープドライブからのトラップ (tapealrt.mib)	142
5.3.22	teamserver (Fujitsu) からのトラップ	156
5.3.23	スレッショールドからのトラップ (Trap.mib)	159
5.3.24	UPS からのトラップ (Upsman.mib)	165
6	MIB の統合	169
7	補足	173
7.1	「4 アラーム設定」の補足記事	173
7.2	「4.1 アラームルール」の補足記事	175
8	トラブルシューティング	177
索引	183

1 はじめに

ServerView イベントマネージャ (以降、**イベントマネージャ**) は、**ServerView Suite** (システム統合管理) のイベント管理コンポーネントです。インストール後は、**Windows** のスタートメニューと **ServerView Operations Manager** (以降、**Operations Manager** と称す) の両方から、このコンポーネントを起動できます。

イベントマネージャ機能には、使い勝手の良い **Web** ベースのグラフィカルユーザインターフェース (**GUI**) が提供されていて、システム障害について、信頼性の高い安全な情報を迅速に入手できます。

受信したい実行結果や運用状態のアラームメッセージは、ユーザが定義できます。ネットワークにおけるサーバの可用性はきわめて重要です。ネットワークにおけるサーバの可用性はきわめて重要な要因であるため、サーバの可用性が損なわれる可能性のあるすべての動作状態が通知されるようにイベントマネージャを設定します。

ブレードシステムでは、イベントマネージャにより、ブレードシステム本体と個々のサーバブレードの両方からアラームメッセージを受信して、表示できます。デフォルトでは、アラームはブレードシステム全体に割り当てられます。この設定は、任意に変更できます。

イベントマネージャは次のように動作します。予期しないイベントが発生すると、エージェントから **SNMP** 経由でイベントマネージャにアラーム (トラップ) が送信され、管理用サーバに通知されます。予期しないイベントとは、エラーレポートや、しきい値の超過によるステータス変更などです。

トラップには重要度レベルが割り当てられます。**critical**、**major**、**minor**、および **informational** です。トラップによって起動される動作は、重要度レベルごと、サーバごとに個別に割り当てることができます。アラームの重要度レベルが **critical** のイベントは、常にログファイルのアラームログに記録されます。



エージェントのインストール時に、アラームメッセージが **Windows** イベントログに送信されるように指定することもできます。

1.1 前バージョンからの変更点

本版のマニュアルは **ServerView V5.00** のイベントマネージャに適用されるもので、**ServerView V4.91**, 2009 年 9 月度版 のイベントマネージャオンラインマニュアルの更新版です。

次の内容が追加されています。

- このマニュアルでは、次の追加点について説明します。このバージョンでは、**ServerView Operations Manager** は Web サーバとして **JBoss** を使用します。**JBoss Web** サーバは、**ServerView Operations Manager** ソフトウェアのインストール時に自動的にインストールされます。**JBoss** は、新しいユーザおよびセキュリティコンセプトを **ServerView Suite** に提供します。そのため、手始めに以下の変更が **ServerView** イベントマネージャに対して行われました。
 - 通信は、(ポート 3170 との) **SSL 保護 (Secure Socket Layer)** 接続を介してのみ行われます。
 - セキュア接続の場合は、証明書が必要です。この証明書はインストール時に生成され、セルフサインされます。
 - **ServerView Operations Manager** を起動するための **Web** アドレスは、完全修飾名 (システム名 . ドメイン名) で指定する必要があります。
 - 起動時に、**Central Authentication Service** のログインウィンドウが開きます。このウィンドウを使用して **ServerView Operations Manager** にログインする必要があります。
 - 割り当てられたユーザ名を使用して **ServerView** イベントマネージャにログインすると、イベントマネージャのみがインストールされているか、あるいはサインオンのユーザにどのような権限が割り当てられているかによって、すべての機能を使用できる場合と、一部の機能しか使用できない場合があります。使用を許可されていない機能は無効 (グレー表示) になるか、リストされません。
- 「アラームのタイプ」ダイアログは新規です。このダイアログボックスでは、選択したアラームルールに対してどのような種類のアラームを転送するか定義できます。「アラームの割り当て」の項を参照してくださいの [「Assigning alarms」の項](#)。

1.2 本書の表記

本マニュアルでは次の表記が使用されます。


注意	この記号は、人的傷害、データ消失、機材破損の危険性を示しています。
	この記号は、重要な情報やヒントを強調しています。
▶	この記号は、操作を続行するために行わなければならない手順を示しています。
斜体	コマンド、ファイル名、およびパス名は 斜体 で表記されています。
固定フォント	システム出力は、固定フォントで表記されています。
太字の固定フォント	キーボードから入力する必要があるコマンドは、太字の固定フォントで表記されています。
<abc>	山カッコは実数値に置き換えられる変数を囲っています。
Key symbols	<p>キーは、キーボード上の該当するキーを表しています。また大文字を入力する必要がある場合は、シフトキーも表示されています。</p> <p>例：大文字 A の場合、SHIFT - A</p> <p>2 つのキーを同時に押す必要がある場合は、それぞれのキー記号の間にハイフンが表示されています。</p>

表 1: 本書の表記

マニュアル内の本文や項を参照する場合は、章や項の見出しを参照先として示し、その章や項が始まるページを記載しています。

画面出力

画面出力は、使用するシステムによってある程度異なります。そのため、お使いのシステムで表示される出力は、本マニュアルの記載と若干異なる可能性があります。また、利用できるメニュー項目もシステムによって異なる場合があります。

1.3 ServerView Suite のマニュアル

ServerView Suite のマニュアルは、各サーバシステムに付属の ServerView Suite DVD 2 に収録されています。

また、インターネットからも無料でダウンロードできます。オンラインドキュメントは、<http://manuals.ts.fujitsu.com> にアクセスし、「Industry standard servers」リンクをクリックすると入手できます。

2 イベントマネージャ

イベントマネージャでは、アラームメッセージをフィルタ処理して転送したり、メッセージの表示方法を指定できます。

監視するには、監視対象のサーバに **ServerView** エージェントをインストールする必要があります。異常な運用状態が発生すると、**ServerView** エージェントにより、管理用サーバに対してアラーム (トラップ) が自動的に送信されます。トラップの送信先となる管理用サーバは、**ServerView** エージェントのインストール時に定義します。管理用サーバでの **SNMP** サービスの設定時に、トラップを受信する監視対象サーバを定義します。



イベントマネージャは、**SNMPv1** 準拠のトラップのみをサポートします。

イベントマネージャのインストール後、最初にアラームの表示方法と処理方法を設定する必要があります。これには、アラーム設定コンポーネントでアラームルールとフィルタルールを定義します。アラームルールでは、どのサーバから、どのアラームを、どのアクションに対して転送するかを指定します。フィルタルールでは、どのサーバからの、どのアラームを除外するかを指定できます。アラーム設定について、詳しくは、[39 ページ](#) の「**アラーム設定**」の章をご覧ください。

アラームモニタコンポーネントには、設定内容に応じて、受信したアラームが表示されます。アラームモニタにより、アラームリストの編集や、アラーム表示の追加フィルタを指定できます。例えば、どのサーバからの、どのアラームをアラームリストに表示しないか、などを指定できます。アラームモニタについて、詳しくは、[21 ページ](#) の「**アラームモニタ**」の章をご覧ください。

ServerView には一連の **MIB** があり、イベントマネージャに統合されています。これらの **MIB** からのトラップを受信して、イベントマネージャで処理できます。既存の **MIB** を補いたい場合は、サードパーティの **MIB** をイベントマネージャに追加して統合できます。追加した **MIB** のトラップも、**MIB** を有効にしておけば、イベントマネージャで表示できます。

MIB を統合するには、**MIB Manager** を使用します。**MIB Manager** は、**Windows** または **Linux** にイベントマネージャをインストールする際に追加されます。このツールについての詳細は、[169 ページ](#) の「**MIB の統合**」の章をご覧ください。

2.1 イベントマネージャのインストール

イベントマネージャは、ServerView ソフトウェアの一部で、ServerView Suite DVD 1 に含まれています (Select ServerView Software Products で選択します)。このソフトウェアは、Windows と Linux (SuSE または Red Hat) オペレーティングシステムにインストールできます。ServerView ソフトウェアのインストール方法については、「ServerView インストールガイド」をご覧ください。

2.2 イベントマネージャの起動

Windows ベースの管理用サーバにイベントマネージャがインストールされている場合、Windows のスタートメニューからイベントマネージャを直接起動できます。

- ▶ スタート – すべてのプログラム – Fujitsu ServerView Suite – イベントマネージャ – イベントマネージャの順に選択します。

イベントマネージャが Linux ベースの管理用サーバにインストールされている場合は、適合する Web ブラウザを使用して、以下の Web アドレスにより ServerView イベントマネージャを起動できます。

- ▶ SSL 保護 (Secure Socket Layer) 通信用に、次の Web アドレスを入力します。

https://<system_name>.<domainname>[:3170]/AlarmService

起動時に、Central Authentication Service のログインウィンドウが表示されます。



サーバの IP アドレスが IPv6 アドレスの場合、ポート番号を指定するには角カッコで囲んで入力する必要があります。

2.2 イベントマネージャの起動



図 1: Central Authentication Service のログインウィンドウ

このウィンドウで、**Operations Manager** の使用権限を付与されている ID のユーザ名とパスワードを入力します。

イベントマネージャを起動すると、次のスタートページが表示されます。



図 2: イベントマネージャの起動画面

i イベントマネージャのみがインストールされているか、あるいは上記サインオンのユーザにどのような権限が割り当てられているかによって、表示されている機能の一部またはすべてにアクセスできます。使用を許可されていない機能は無効（グレー表示）になるか、表示されません。


各自のロールで利用できる機能の概要については、『**User management in ServerView**』マニュアルを参照してください。

インストール後に初めて **ServerView イベントマネージャ** を管理者 (**administrator**) として起動すると、基本設定ウィザードも自動的に起動します。このウィザードに従って、**ServerView Operations Manager** を使用するための初期設定を行います。

イベントマネージャの起動時に基本設定ウィザードが自動的に開かないようにするには、基本設定ウィザードの開始ウィンドウで「次回起動時にこのウィザードを自動的に表示しない」を選択します。基本設定ウィザードを一

度通過すると、その後自動的に起動することはありません。また、このウィザードは、「管理」メニューの「ServerView Operations Manager」を使用していつでも呼び出すことができます。

詳細は、基本設定ウィザードの別個のドキュメントを参照してください。

 イベントマネージャの起動時に Java からのセキュリティ警告が表示されたら、「いいえ」をクリックして無視できます。

イベントマネージャのコンポーネント (アラームモニタとアラーム設定) を起動するには、イベント管理の下にある各コンポーネントのリンク (アラームモニタまたはアラーム設定) をクリックします。今後このようなメッセージが表示されないようにする方法は、『ServerView Operations Manager Installation Guide for Windows』に記載してあります。

これらのコンポーネントは、ServerView Operations Manager の起動ページからも起動できます。

- ▶ スタート – すべてのプログラム – Fujitsu ServerView Suite – Operations Manager – Operations Manager の順に選択します。

さらに、イベントマネージャの場合と同じように、イベント管理の下にある各コンポーネントのリンク (アラームモニタまたはアラーム設定) をクリックします。

2.3 アイコン

アラームモニタ画面とアラーム設定画面には、アイコンのリストが表示されます。これらのアイコンの意味は、次のとおりです。







	赤のアラーム : critical (危険)
	橙色のアラーム : major (重度)
	黄色のアラーム : minor (軽度)
	青のアラーム : informational (情報)
	灰色のアラーム : unknown
	このアラームがユーザ入力により確認されました。

表 2: アラームモニタおよびアラーム設定画面のアイコン





	このアラームにより他のプログラムが実行されました。
	このアラームについてブロードキャストメッセージが送信されました。
	このアラームについてメールが送信されました。
	このアラームによりポケットベルコールが発信されました。
	このアラームが管理用サーバに転送されます。
	このアラームがローカルシステムのイベントログに転送されません。
	緑：ポケットベル確認済み
	黄色：ポケットベル完了済み
	赤：ポケットベルあり（まだアクティブ）
	緑：転送確認済み
	黄色：転送完了済み
	赤：転送あり（まだアクティブ）
	表のカラムは別の基準でフィルタ処理できます。

表 2: アラームモニタおよびアラーム設定画面のアイコン

3 アラームモニタ

アラームモニタコンポーネントには、Operations Manager のメイン画面で選択されたサーバやサーバグループに関連する、すべての受信アラームが表示されます。

3.1 アラームの表示

アラームモニタを起動するには、イベントマネージャの起動画面 (15 ページをご覧ください) または Operations Manager の起動画面で、イベント管理の下にあるアラームモニタリンクをクリックします。Operations Manager の起動方法については、ServerView Operations Manager のマニュアルをご覧ください。

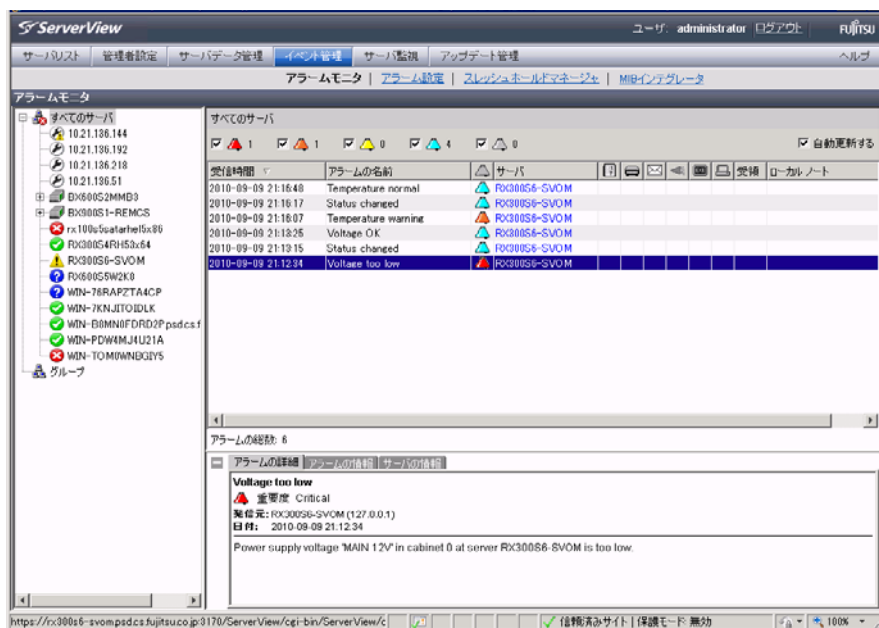


図 3: アラームモニタ

3.1 アラームの表示

アラームモニタ画面は、4つの領域に分かれています。

- タイトルバーの下にあるメニューバーを使用して、**Operations Manager** の各機能を選択できます。
 - サーバリスト
 - 管理
 - サーバデータ管理
 - イベント管理
 - サーバ監視
 - アップデート管理 (Windows のみ)

メニューバーの下に行に、選択したメニューに応じて、対応するメニュー項目が表示されます。

メニューバーのメニューについて、詳しくは、「**ServerView Operations Manager ユーザーズガイド**」をご覧ください。



イベント管理メニュー以外のメニューを使用できるのは、管理用サーバ上に **Operations Manager** がインストールされている場合のみです。

- 画面左側には、サーバとサーバグループを含むファイルツリー構造が表示されます。ここで、アラームまたはサーバリストに表示するサーバを選択します。
- 画面右上には、ファイルツリーで選択したサーバのアラームエントリが表示されます。アラームリストは複数ページで構成されています。

右側のヘッダ部分に表示されるアイコンは、アラームリストのページにある重要度レベル別のアラームエントリ数を示しています。

これらのアイコンを使用して、アラームリストの表示内容を変更できます。アラームメッセージを表示したいアラームレベルを、クリックして選択します。

アラームモニタの表示更新の有効/無効は、自動更新するを使用して設定します。自動更新するを選択すると、アラームがロギングされた時点で表示が自動的に更新されます。選択しない場合は、ロギングされたアラームの総数の表示だけが更新されます。

アラームエントリは、ステータスバーの下に次の情報とともに表示されます。

受信時間

アラームを受信した時刻

アラームの名前

アラームの簡単な説明

アラームアイコン (以降の表をご覧ください)

アラームの重要度を示します。

サーバ

サーバ名。サーバ名をクリックすると、**ServerView [サーバ名]** 画面が表示され、選択したサーバの詳細情報を確認できます。詳しくは、**ServerView Operations Manager** のマニュアルをご覧ください。



ServerView [サーバ名] 画面が表示されるのは、管理用サーバに **Operations Manager** がインストールされている場合だけです。

転送アイコン (以降の表をご覧ください)

アラーム転送のタイプを示しています。

受領

アラームが確認されたかどうかを示します。

ローカルノート

ユーザが入力したメモを表示します。

各アイコンの意味は、次のとおりです。








	アラームレベルを示します。
	このアラームがローカルイベントログに書き込まれました。
	このアラームによりポケットベルコールが発信されました。
	このアラームについてメールが送信されました。
	このアラームについてブロードキャストメッセージが送信されました。
	このアラームによりプログラムが実行されました。
	このアラームが管理用サーバに転送されました。

表 3: アラームモニタのアイコン

3.1 アラームの表示

アラームリストを見やすくするために、表示内容は複数のページに分かれています。別のページに移動するには、該当するページ番号、または矢印をクリックします。1 ページに表示するアラームエントリの数を指定できます。[28 ページ](#) の「[1 ページに表示するアラーム数の設定](#)」の項をご覧ください。

- 画面右下では、アラームリストで選択したアラームエントリの情報を確認できます。2 つまたは 3 つのタブが表示されます。
 - アラームの詳細タブ - アラームリストで選択したアラームエントリの概要が表示されます。
 - アラームの情報タブ - 選択したアラームエントリについて、MIB に保存された詳細情報が表示されます。
 - サーバの情報タブ - 選択したアラームエントリの発信元サーバの情報が含まれています。一般情報には、サーバの全般的な情報 (システム名、IP アドレス、コミュニティ名など) が表示されます。その他には、サーバのプロパティに保管されている追加情報 (管理者、設置場所、モデルなど) が表示されます。

このタブには、対応するサーバが **ServerView** サーバリストに含まれているかどうかにより、リンクが表示されます。

サーバがサーバリストに含まれている場合、設定変更リンクを使用して、このサーバの *サーバのプロパティ* 画面を開き、サーバの設定値を変更できます。

サーバが **ServerView** サーバリストに含まれていない場合は、サーバリストに *追加* リンクを使用して、サーバブラウザを開き、サーバをリストに追加できます。サーバのプロパティとサーバブラウザについての詳細は、「**ServerView Operations Manager ユーザーズガイド**」をご覧ください。



サーバの情報タブを使用できるのは、管理用サーバに **Operations Manager** がインストールされている場合のみです。

3.2 サーバのアラームの表示

特定のサーバについて複数のアラームメッセージを受信している場合、サーバリストには最も重要度の高いメッセージが表示されます。画面下側には、この重要度で受信した最新のアラームメッセージの情報のみが表示されます。

特定のサーバに関するすべてのアラームメッセージの概要を知りたい場合は、そのサーバ専用のアラームモニタ機能に切り替えることができます。

ファイルツリーでサーバを選択し、**Operations Manager** メイン画面のメニューバーからアラームモニタ機能を起動します。

または、サーバリストのアラームアイコン (アラームベル) を使用すると、より迅速に起動できます。アラームアイコンをクリックすると、そのサーバ専用のアラームモニタ機能に切り替わります。この場合、**Operations Manager** メイン画面のリストには、特定のサーバのアラームメッセージのみが表示されます。アラームリストからアラームメッセージを選択すると、受信した各アラームメッセージの詳細情報を表示できます。

3.3 アラームエントリの処理

アラームエントリでは、次の機能を実行できます。

- － アラームの確認
- － アラームの除外
- － アラーム除外のリセット
- － アラームの削除

3.3.1 アラームの確認

受信したアラームを確認済みとしてマークできます。

次の手順を実行します。

- ▶ リストからアラームエントリを選択します。
- ▶ コンテキストメニューからアラームを受信するを選択します。

確認済みになると、受領カラムに次のアイコンが表示されます。



3.3.2 アラームの除外

特定のサーバについて、個々のアラームを除外できます。障害が発生したサーバから管理用サーバに膨大なメッセージが転送されている場合は、この機能が役に立ちます。

次の手順を実行します。

- ▶ リストからアラームエントリを選択します。
- ▶ コンテキストメニューから除外を選択します。

アラームの除外は確認する必要があります。アラームを除外すると、アラームリストからすべてのアラームエントリが削除され、対象サーバからの同じ種類のアラームは、それ以降、リストに追加されなくなります。

この設定をリセットするには、除外アラーム一覧を使用します。詳しくは、[26 ページ](#) の「アラーム除外のリセット」の項をご覧ください。

3.3.3 アラーム除外のリセット

アラーム除外の設定をリセットすることができます。次の手順を実行します。

- ▶ コンテキストメニューから除外アラーム一覧を選択します。

新しいウィンドウにすべてのアラーム除外設定が表示されます。除外設定をリセットするには、次の手順を実行します。

- ▶ リストからリセットしたい除外設定を選択します。
- ▶ 削除ボタンをクリックします。
- ▶ 画面を閉じるには、閉じるボタンをクリックします。

リストからエントリが削除され、アラーム設定が再び有効になります。

3.3.4 アラームの削除

アラームエントリを削除するには、次の手順を実行します。

- ▶ リストからアラームエントリを選択します。
- ▶ コンテキストメニューから削除を選択します。

3.4 接続のテスト

トラップを送信して、特定のサーバへの接続をテストすることができます。次の手順を実行します。

- ▶ コンテキストメニューからテストトラップを選択します。

テストトラップ画面が表示されます。

- ▶ サーバー一覧からサーバを選択します。

または

- ▶ サーバの IP アドレスを入力します。サーバ名を指定することもできます。
- ▶ コミュニティとタイムアウトフィールドで、デフォルト値を使用するか、または任意の値を入力します。
- ▶ テストトラップボタンをクリックして、接続をテストします。

画面に接続状態が表示されます。画面を閉じるには、閉じるボタンをクリックします。



Linux について

ローカルホスト (127.0.0.1/localhost) に対して接続テストを実施すると、テストトラップがタイムアウトになります。システムは、**ServerView Operations Manager** の要求先であるローカルホストの IP アドレスからの応答を待ち合わせますが、トラップによって受信された実際の応答は、**SNMP** マスターエージェントで指定されているサーバの実際の IP アドレスから来るため、タイムアウトが発生します。

3.5 その他の設定

3.5.1 1 ページに表示するアラーム数の設定

1 ページに表示するアラームの数を設定できます。

- ▶ コンテキストメニューからアラーム表示の設定を選択します。

アラーム表示の設定画面が表示されます。

- ▶ 1 ページに表示するアラームエントリの数を入力します。デフォルト値は 30 です。
- ▶ 了解ボタンをクリックして、入力を確定します。

3.5.2 ローカルノートの編集

アラームエントリに表示されるメモを編集できます。

- ▶ 対応するアラームエントリをクリックします。
- ▶ コンテキストメニューからローカルノートの編集を選択します。

ローカルノートの編集画面が表示されます。

- ▶ テキストを入力します。
- ▶ OK ボタンをクリックして、入力を確定します。

3.6 アラームリストの管理

選択したサーバのアラームエントリの表示方法を管理できます。

► コンテキストメニューから選択ウィザードを選択します。

次の画面が表示されます。



図 4: 選択ウィザード

アラーム数

選択数

選択されているアラームの数を示します。

受信数

イベントマネージャが受信したアラームの総数を示します。

3.6 アラームリストの管理

次の 4 つのプロパティを使用して、アラームリストに表示するアラームメッセージを選択できます。

- アラームタイプ
- サーバ
- 時間
- 重要度の選択

これらの選択基準は、必要に応じて組み合わせることができます。

次のボタンを使用できます。

閉じる

画面を閉じます。

アラーム情報

アラームに関する **MIB** の詳細情報画面を表示します。複数のアラームを選択している場合は、すべてのアラームの情報が表示されます。

削除

選択したアラームをアラームリストから削除します。

除外

選択したサーバからの特定のアラームを除外します。この機能は、障害が発生したサーバから管理用サーバに膨大なアラームが転送されている場合に役立ちます。

サーバ情報

サーバ情報画面を表示し、選択したアラームエントリの発信元サーバの情報を表示します。(31 ページ の「サーバ情報の表示」の項をご覧ください。) 複数のサーバからの複数のアラームエントリを選択している場合は、関連するすべてのサーバの情報が表示されます。

3.7 サーバ情報の表示

アラームメッセージの発信元サーバの詳細情報を表示するには、アラームモニタまたは **Alarm Monitor** 選択ウィザード画面を表示し、サーバ情報ボタンをクリックします。サーバ情報画面が表示されます。複数のサーバからの複数のアラームエントリを選択している場合は、関連するすべてのサーバの情報が表示されます。

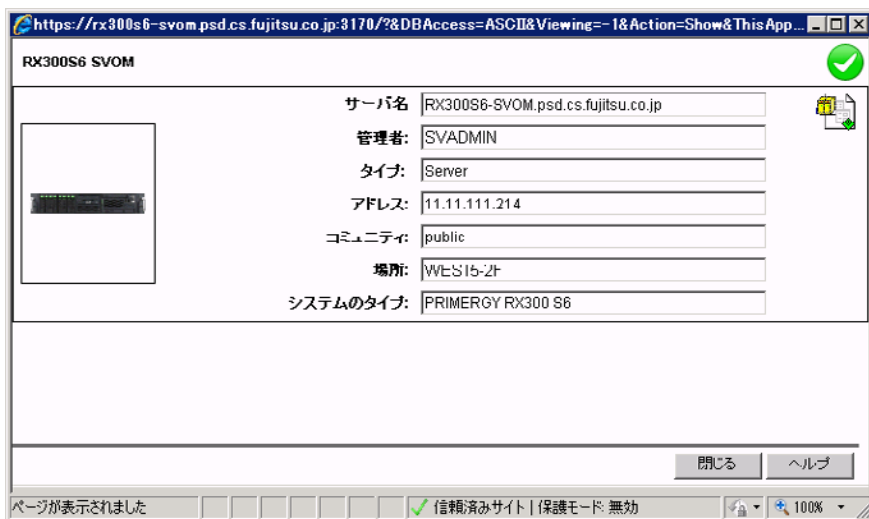


図 5: Server information

ヘッダに、サーバ名と現在のサーバの状態を示すステータスアイコンが表示されます。

ステータスアイコンの下に、サーバがサーバリストに含まれているかどうかを示す別のアイコンが表示されます。



既知のサーバです。このサーバは、**ServerView** サーバリストに存在します。



未知のサーバです。このサーバは、**ServerView** サーバリストに存在しません。

サーバがサーバリストに存在すれば、サーバ情報が表示されます。サーバがサーバリストに存在しなくても、現在の状態が **manageable** であれば、イベントマネージャによりサーバから直接情報が取得されます。



この画面から、選択したサーバに対して **Operations Manager** を起動できます。右上にあるステータスアイコンをクリックします。

ステータス表示、サーバの画像、**Operations Manager** 起動コマンドが有効になるのは、**Operations Manager** がインストールされている場合のみです。

サーバ情報画面を閉じるには、閉じるボタンをクリックします。

3.8 SC2 MIB トラップとしてリレーされる iRMC S2 SEL エントリ



次の表は、2009 年以降に製造された **PRIMERGY** システムに適用されます。

iRMC S2 によりシステムイベントログ (SEL) にイベントが書き込まれると、SNMP トラップが発信されることがあります。次の表に、SEL の iRMC S2 エントリと、発信されるトラップとの関連を示します。



SEL に作成されるすべての iRMC S2 エントリで、SNMP トラップが発信されるわけではありません。また、複数のエントリにより同じトラップが発信されることがあります。

3.8 SC2 MIB トラップとしてリレーされる iRMC S2 SEL エントリ

エラーコード	iRMC S2 SEL エントリ	トラップテキスト	アラーム ID	トラップ名
000011	System event log (SEL) warning threshold exceeded	The System Event Log for cabinet XY at server XY has exceeded XY percent of its capacity.	2101	sc2TrapMessageLogWarning
040000	'FAN XY': Fan failed	Fan 'FAN XY' failed in cabinet XY of server XY.	2014	sc2TrapFanFailed
040001	'FAN XY': Fan is working	Fan 'FAN XY' was added into cabinet XY of server XY.	2010	sc2TrapFanAdded
		Fan 'FAN XY' in cabinet XY of server XY is working again.	2012	sc2TrapFanOk
040002	'FAN XY': Fan prefailure	Fan 'FAN XY' will fail in near future in cabinet XY of server XY.	2013	sc2TrapFanCritical
040003	'FAN XY': Redundant fan failed	The redundant fan 'FAN XY' failed in cabinet XY of server XY. System can become critical if another fan in this group fails.	2015	sc2TrapRedundantFanFailed
040004	'FAN XY': Fan removed	Fan 'FAN XY' was removed from cabinet XY of server XY.	2011	sc2TrapFanRemoved
050001	'Temp XY': Temperature OK	Temperature at sensor 'Temp XY' in cabinet XY of server XY is within normal range.	2020	sc2TrapTempOk

表 4: iRMC S2 SEL エントリ - SC2 MIB トラップ

iRMC S2 SEL エントリと SC2 MIB トラップ

エラーコード	iRMC S2 SEL エントリ	トラップテキスト	アラーム ID	トラップ名
050016	'Temp XY': Temperature warning	Temperature at sensor 'Temp XY' in cabinet XY of server XY has reached the warning level.	2021	sc2TrapTemp Warning
050017	'Temp YX': Temperature critical	Temperature at sensor 'Temp XY' in cabinet XY of server XY has reached the critical level.	2022	sc2TrapTemp Critical
070000	'PSU XY': Power supply removed	Power supply 'PSU XY' in cabinet XY at server XY was removed.	2031	sc2TrapPower Supply Removed
070001	'PSU XY': Power supply OK	Power supply 'PSU XY' in cabinet XY at server XY was added.	2030	sc2TrapPower Supply Added
		Power supply 'PSU XY' in cabinet XY at server XY is working again.	2032	sc2TrapPower Supply Ok
070002	'PSU XY': Power supply failed	Power supply 'PSU XY' in cabinet XY at server failed.	2034	sc2TrapPowerSupply Failed
		Redundant power supply 'PSU XY' in cabinet XY at server XY failed. System can become critical if another power supply fails.	2035	sc2TrapRedundant Power Supply Failed
070003	'PSU XY': Redundant power supply AC failed	AC failure in cabinet XY of server XY.	2040	sc2TrapAc Fail

表 4: iRMC S2 SEL エントリ - SC2 MIB トラップ

3.8 SC2 MIB トラップとしてリレーされる iRMC S2 SEL エントリ

エラーコード	iRMC S2 SEL エントリ	トラップテキスト	アラーム ID	トラップ名
070005	Power unit: power supply redundancy lost	Power supply redundancy in cabinet XY at server XY lost. System will become critical if a power supply fails.	2036	sc2Trap Power Supply Redundancy Lost
070009	'PSU XY': Redundant power supply DC failed	DC power failure in cabinet XY of server XY.	2041	sc2TrapDc Fail
070010	'PSU XY': Power supply fan failure	Fan failure at power supply 'PSU XY' in cabinet XY of server XY.	2039	sc2Trap Power SupplyFan Failure
07000A	'PSU XY': Power supply critical temperature	Temperature at power supply 'PSU XY' in cabinet XY of server XY has reached the critical level.	2037	sc2Trap Power Supply Critical Temperature
07000F	'PSU XY': Power supply fan prefailure	Fan failure is predicted at power supply 'PSU XY' in cabinet XY of server XY.	2038	sc2Trap Power SupplyFan Failure Prediction
0C0004	'CPU XY': CPU internal error (IERR)	Internal error (IERR) occurred on CPU 'CPU XY' in cabinet XY of server XY.	2082	sc2TrapCpu lerr
0C0021	'CPU XY': Uncorrected CPU Machine Check Architecture (MCA) error			
0C0007	'CPU XY': CPU clock automatically throttled	CPU speed at server XY changed to XY percent of its maximum speed.	2080	sc2TrapCpu Speed Changed

表 4: iRMC S2 SEL エントリ - SC2 MIB トラップ

エラーコード	iRMC S2 SEL エントリ	トラップテキスト	アラーム ID	トラップ名
0C0017	'CPU XY': CPU failure predicted	CPU failure is predicted for CPU 'CPU XY' in cabinet XY.	2081	sc2TrapCpu Prefail
0C000B	'CPU XY': CPU disabled	CPU 'CPU XY' in cabinet XY of server XY is disabled.	2083	sc2TrapCpu Disabled
120030	PCI system error (SERR): Slot 0x%1	The system was restarted after a severe problem at cabinet XY of server XY. See server management message log (recovery log) for detailed information.	2006	sc2Trap Severe System Error
120031	PCI parity error (PERR): Slot 0x%1			
120034	PCI bus parity error indicated by onboard device (PERR): Bus: %1 Device: 0x%2 Function: 0x%3			
120035	PCI bus system error indicated by onboard device (SERR): Bus: %1 Device: 0x%2 Function: 0x%3			
120042	CPU front side bus (FSB) error			
120047	Fatal NMI			
150000	'Voltage XY': Voltage OK	Power supply voltage 'BATT XY' in cabinet XY at server XY is within normal range again.	2050	sc2Trap VoltageOk
150030	Battery voltage 'BATT XY' OK			
150012	'Voltage XY': Voltage low critical: % Volt	Power supply voltage 'Voltage XY' in cabinet XY at server XY is too low.	2051	sc2Trap VoltageToo Low
150032	Battery voltage 'BATT XY' low critical: % Volt			

表 4: iRMC S2 SEL エントリ - SC2 MIB トラップ

3.8 SC2 MIB トラップとしてリレーされる iRMC S2 SEL エントリ

エラーコード	iRMC S2 SEL エントリ	トラップテキスト	アラーム ID	トラップ名
150017	'Voltage XY': Voltage high critical: % Volt	Power supply voltage 'Voltage XY' in cabinet XY at server XY it too high.	2052	sc2Trap VoltageToo High
150031	Battery voltage 'BATT XY' low warning: % Volt	Battery voltage 'BATT XY' in cabinet XY at server XY: Battery is predicted to fail in near future.	2054	sc2Trap Battery Voltage Prefail
190003	'DIMM XY' Memory: Uncorrectable error (ECC)	Uncorrectable memory error at module 'DIMM XY' in cabinet XY of server XY.	2065	sc2Trap UncorrectableMemError Module
190040	'DIMM XY': Uncorrectable Parity memory error			
190007	Memory: Uncorrectable error (ECC)	Uncorrectable memory error in cabinet XY of server XY.	2067	sc2Trap UncorrectableMemError
190008	Correctable memory error disabled	Too many correctable memory errors in cabinet XY at server XY. Error logging was disabled. If logging was disabled and not automatically enabled again, you have to reboot your server to enable memory error logging again. If logging is disabled, prefailure detection is also not active!	2071	sc2Trap Mem Error Logging Disabled

表 4: iRMC S2 SEL エントリ - SC2 MIB トラップ

エラーコード	iRMC S2 SEL エントリ	トラップテキスト	アラーム ID	トラップ名
190017	'DIMM XY': Memory replaced by spare memory	Memory module 'DIMM XY' in cabinet XY of server XY had failed and was replaced by a hot-spare module.	2070	sc2Trap MemError Module Replaced
19001A	'DIMM XY': Memory module failed predicted	Memory module failure is predicted for module 'DIMM XY' in cabinet XY of server XY.	2068	sc2Trap MemError Module Prefail
19001F	Memory: redundancy lost	Memory configuration in cabinet XY of server XY has lost redundancy.	2074	sc2Trap MemError Redundancy Lost
190035	'DIMM XY': Memory module error	Memory module 'DIMM XY' in cabinet XY of server XY is failing. Too many errors have occurred.	2069	sc2Trap MemError Module Failing
190036	'DIMM XY': Memory module failed (disabled)			
340002	Housing opened	The front door or housing of cabinet XY was opened on server XY.	2110	sc2Trap Intrusion Assertion
340003	Housing closed	The front door of housing of cabinet XY was closed on server XY.	2111	sc2Trap Intrusion Deassertion

表 4: iRMC S2 SEL エントリ - SC2 MIB トラップ

4 アラーム設定

イベントマネージャのアラーム設定では、アラーム処理の設定を定義します。アラームルール、フィルタルールや、全般的な設定を定義できます。アラームルールでは、サーバから通知されるイベントに対して、どのアクションを実行するかを定義します。(41 ページ の「アラームルール」の項をご覧ください。) フィルタルールでは、除外するアラームのタイプを定義します。(54 ページ の「フィルタルール」の項をご覧ください。) 全般的な設定では、フィルタ処理されていないすべての着信アラームの処理について定義します。(57 ページ の「共通設定」の項をご覧ください。) コンポーネントの起動方法については、15 ページ の「イベントマネージャの起動」の項をご覧ください。

アラーム設定を選択すると、次の画面が表示されます。

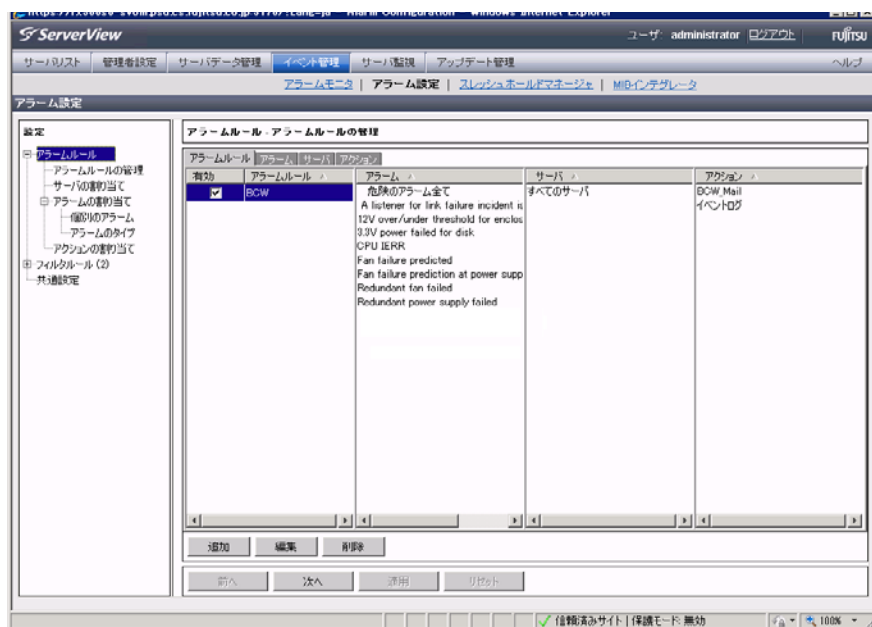


図 6: アラーム設定

画面左側のメニューツリーにより、アラーム処理の各ダイアログを表示します。

この画面を最初に開いたときに右側に表示されるのは、アラームルール – アラームルールの管理画面です。前へボタンと次へボタンにより、アラームルールの設定画面を 1 つずつ切り替えることができます。また、メニューツリーの項目をクリックすると、該当する画面を直接表示できます。

ボタン

各画面には、次のボタンがあります。

追加

新しい設定を定義します。

編集

既存の設定を編集します。

削除

既存の設定を削除します。

前へ

前の画面に戻ります。

適用

変更をデータベースに保存します。設定を変更した場合には、画面を閉じる前に適用をクリックする必要があります。設定変更後、適用ボタンをクリックせずに別の画面に移動しようとする、警告メッセージが表示されます。

リセット

変更した内容が取り消され、前回適用ボタンでデータベースに保存した設定に戻されます。

次へ

次の画面に移動します。

OK

新しい設定を保存して画面を閉じます。

キャンセル

変更を保存しないで画面を閉じます。

ヘルプ

ヘルプを表示します。

4.1 アラームルール

アラームルールにより、各種サーバから通知される特定のアラームに対して各アクションを実行します。アラームルールを定義するには、次の4つの手順を実行します。

- アラームルールの名前を定義します。(41 ページ の「アラームルールの管理」の項をご覧ください。)
- アラームルールに1つまたは複数のサーバを割り当てます。(45 ページ の「サーバの割り当て」の項をご覧ください。) アラームルールは、割り当てたサーバからのアラームに対してのみ適用されます。
- アラームルールに1つまたは複数のアラームを割り当てます。(47 ページ の「アラームの割り当て」の項をご覧ください。)
- 着信アラームに対するアクションを定義します。(51 ページ の「アクションの割り当て」の項をご覧ください。) 通知先の指定を行ったり、各アクションに基づいた設定を行います。(プログラム実行、メール転送など)。

新しいアラームルールを定義する場合は、アラームルールを設定する各画面が、順番に表示されます。既存のアラームルールを変更する場合も、メニューツリーから各ダイアログ画面を直接表示することができます。

4.1.1 アラームルールの管理

アラームルール – アラームルールの管理画面には、設定されているすべてのアラームルールの内容が表示されます。アラームルール、アラーム、サーバ、アクションのタブがあり、選択したタブに応じて、設定済みのアラームルールがそれぞれ異なる画面で表示されます。

新しいアラームルールを追加するには、追加ボタンをクリックして表示された画面に、新しいアラームルールの名前を入力します。既存のアラームルールを変更するには、編集ボタンを使用します。選択したアラームルールを削除するには、削除ボタンを使用します。

4.1 アラームルール

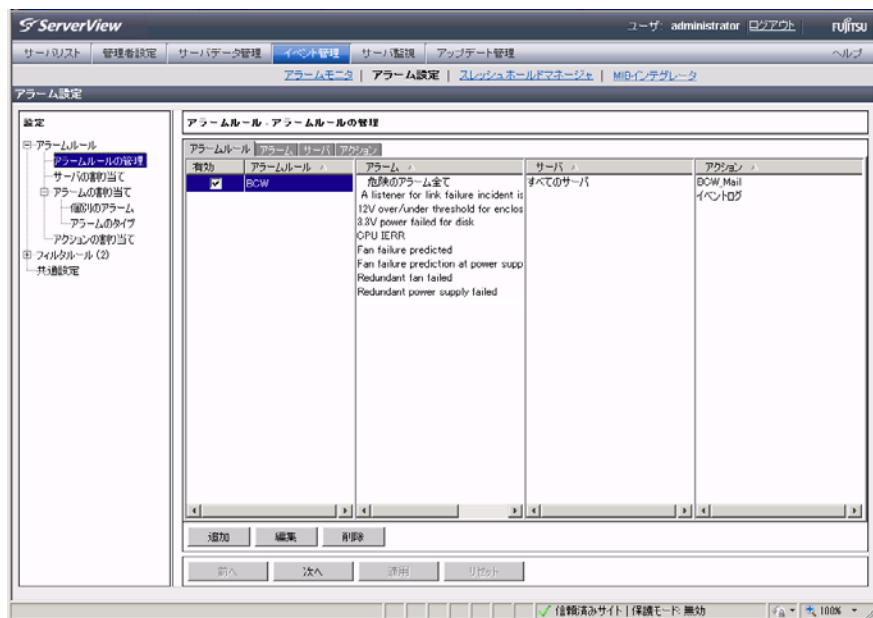


図 7: アラームルール - アラームルール管理

アラームルールタブ

アラームルールタブは、アラームルールを、アラーム、サーバ、アクションに割り当てるときに使用します。

一番左の欄には、設定済みのアラームルールが一覧表示されます。有効の欄は、アラームルールが有効（チェックマークあり）か無効かを示します。チェックマークのオンとオフを切り替えるには、チェックボックスをクリックします。新しい設定を保存するには、**適用**ボタンをクリックします。

左から 2 番目の欄には、選択したアラームルールに割り当てられているアラームが一覧表示されます。アクションが実行されるのは、アラームルールに割り当てられているアラームのみです。

左から 3 番目の欄には、選択したアラームルールに割り当てられているサーバが表示されます。アラームルールによってアクションが実行されるのは、割り当てられているサーバからのアラームのみです。

一番右の欄には、選択したアラームルールでの着信アラームによって実行されるアクションが表示されます。

新しいアラームルールを定義するには、**追加**ボタンをクリックして表示された画面に、新しいアラームルールの名前を入力します。既存のアラームルールを選択して変更するには、**編集**ボタンを使用します。既存のアラームルールを削除するには、**削除**ボタンを使用します。

アラームタブ

アラームタブには、どのアラームが、どのアラームルールに割り当てられているかが表示されます。これにより、アラームに割り当てられているアクション（割り当てられている場合）をすばやく確認できます。

一番左の欄には、設定可能なアラームがアルファベット順に一覧表示されます。アラームは複数の異なるベンダによって定義されているので、同じ名前が重複して表示されることがあります。

左から 2 番目の欄には、選択したアラームが割り当てられている、すべてのアラームルールが一覧表示されます。

左から 3 番目の欄には、2 番目の欄で選択したアラームルールに割り当てられているサーバが表示されます。アラームルールによってアクションが実行されるのは、割り当てられているサーバからのアラームのみです。

一番右の欄には、選択したアラームルールでの着信アラームによって実行されるアクションが表示されます。

4.1 アラームルール

サーバタブ

サーバタブには、どのサーバに、どのアラームルールが割り当てられているかが表示されます。これにより、サーバからのアラームに対して、どのアクションが実行されるかを確認できます。

一番左の欄には、サーバリストに登録されているサーバが、フィルタ処理されずに、アルファベット順で一覧表示されます。(55 ページの「[サーバのフィルタ](#)」の項をご覧ください。) リスト内のエントリをクリックすると、特定のサーバの詳細が表示されます。

左から 2 番目の欄には、選択したサーバが割り当てられている、すべてのアラームルールが一覧表示されます。

左から 3 番目の欄には、選択したアラームルールに割り当てられているアラームが表示されます。

一番右の欄には、選択したアラームルールによる着信アラームによって実行されるアクションが表示されます。

アクションタブ

アクションタブには、着信アラームが、どのアラームルールによって、どのアクションが実行されるかが表示されます。

一番左の欄には、設定済みのアクションが一覧表示されます。

左から 2 番目の欄には、選択したアクションに着信アラームを転送する、すべてのアラームルールが一覧表示されます。

左から 3 番目の欄には、選択したアラームルールに割り当てられているサーバが一覧表示されます。

一番右の欄には、選択したアラームルールに割り当てられている、すべてのアラームが表示されます。

新しいアクションを定義するには、[追加ボタン](#)をクリックし、新規アクションの種類画面において、新しいアクションを選択します。既存のアクションを変更するには、[編集ボタン](#)を使用します。既存のアクションを削除するには、[削除ボタン](#)を使用します。デフォルトで表示されているイベントログとポップアップのアクションは削除できません。イベントログのアクションは変更もできません。

4.1.2 サーバの割り当て

アラームルール - サーバの割り当て画面では、アラームルールに割り当てるサーバ、またはサーバグループを定義します。

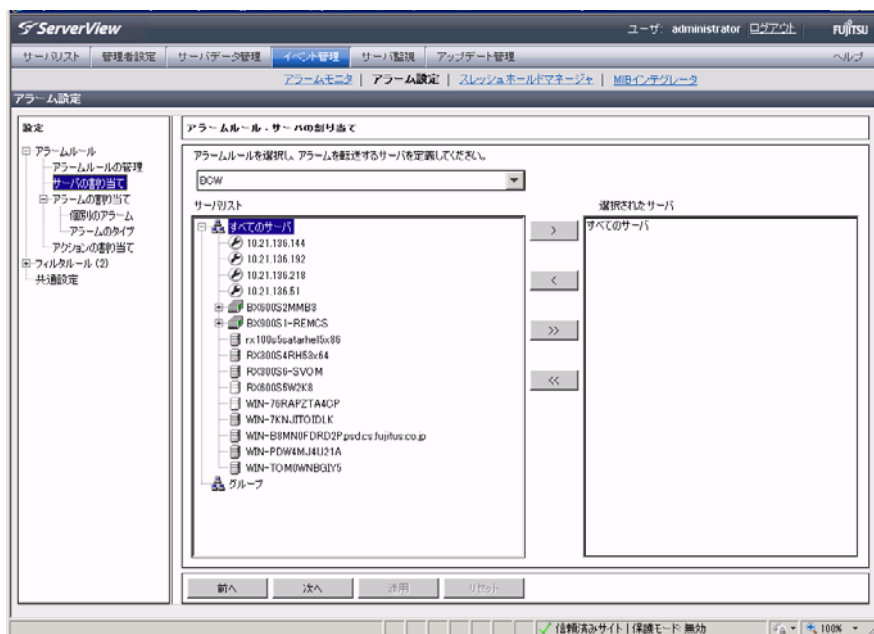


図 8: アラームルール - サーバの割り当て

ドロップダウンリストから、編集したいアラームルールを選択します。サーバリストのファイルツリーには、サーバリストに登録されているサーバがフィルタ処理されずに表示されます。選択されたサーバ画面には、選択したアラームルールに割り当てられているサーバとサーバグループが一覧表示されます。

i サーバグループを選択されたサーバに移動しても、関連付けられているサブグループは同時には移動しません。サブグループは個別に移動する必要があります。この制限は、すべてのサーバは該当しません。

4.1 アラームルール



異なるサーバグループに同じ名前が付いている場合、アラーム設定では、グループ階層によってサーバグループが表示されます。

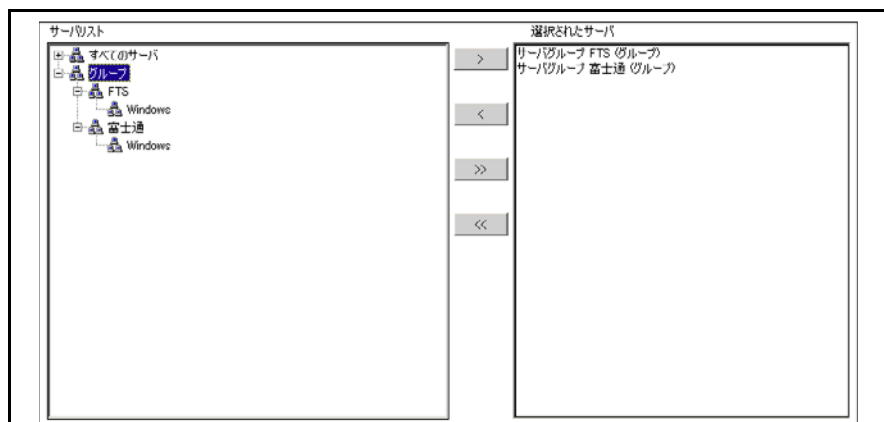


図 9: アラームルール - サーバの割り当てのサーバグループ階層

次のボタンを使用して、アラームルールに割り当てるサーバを指定できます。

>

選択したサーバをアラームルールに追加します。

<

選択したサーバをアラームルールから削除します。

>>

リスト内にあるすべてのサーバをアラームルールに追加します。

<<

リスト内にあるすべてのサーバをアラームルールから削除します。

コンテキストメニューからサーバの情報を表示するを選択すると、選択したサーバの詳細情報が表示されます。割り当てられていないサーバのみ表示を選択すると、サーバリストに、アラームルールに割り当てられていないサーバだけが表示されます。全てのサーバを表示を選択すると、すべてのサーバが再表示されます。

新しい設定を保存するには、適用ボタンをクリックします。リセットボタンをクリックすると、最後に保存した設定に戻ります。

変更した設定を適用せずにウィンドウを閉じようとしたり、アラームルールに必要な要素が欠落していると、その旨の警告メッセージが表示されます。

4.1.3 アラームの割り当て

「アラームルール」「アラームの割り当て」の順に選択し、「個別のアラーム」ダイアログボックスで、アラームルールに対してアラームを定義し、割り当てられているアラームの詳細をすべて表示できます。「アラームのタイプ」ダイアログボックスで、選択したアラームルールに対してどんな種類のアラームを転送するかを定義できます。



図 10: アラームルール - アラームの割り当て

「個別のアラーム」ダイアログボックスの上部ドロップダウンリストには、既知のアラームルールの名前が表示されます。ここから、編集したいアラームルールを選択します。

未知のアラームが発生した場合、そのアラームにアラームルールを割り当てるができます。

i 未知のアラームが発生した場合は、フィルタルール - アラームのフィルタダイアログのフィルタ設定を使用して、未知のアラームを明示的に許可する必要があります。(55 ページの「アラームのフィルタ処理」をご覧ください。)

割り当て済は、このアラームルールに現在割り当てられているアラームの数と、すべての既知のアラームの数を示します。

4.1 アラームルール

チェックされた数は、アラームがフィルタ処理されているかどうかに関係なく、チェックボックスがオンになっているすべてのアラームの数を示します。

選択された数は、アラームリスト内で現在選択されているアラームの数を示します。


画面下側のアラームリストでは、チェックボックスにより、アラームルールに割り当てられているアラームがわかります。また、アラーム名（アラームの名前）、重要度（重要度）、アラームが定義されている MIB ファイル（MIB）、トラップ名（OID）が表示されます。

選択したアラームルールに割り当てられているアラームは、チェックボックスにチェックマークが表示されます。チェックボックスを選択または選択解除するには、チェックボックスをクリックします。

変更したアラームルール設定を保存するには、適用ボタンをクリックします。設定を保存すると、割り当て済の値がチェックされた数の値と一致します。

アラームリスト内のアラームはすべて、異なる基準でソートまたはフィルタ処理することができます。これにより、特定のアラームのみを表示できます。

アラームをソートするには、アラームリストのヘッダにある関連カラムをクリックします。アラームの名前、重要度、MIB、または OID の各基準で、アラームをアルファベット順にソートできます。

アラームをフィルタにかけるには、アラームリストのヘッダにある対応するフィルタアイコンをクリックします。

選択したアラーム（チェックボックスを選択）、アラームの名前、重要度、または MIB に応じて、アラームをフィルタ処理できます。フィルタアイコンをクリックすると、対応するダイアログが表示されます。例えば、重要度を選択すると、エラーの重要度を指定するダイアログが表示され、重要度を選択できます。選択後、OK ボタンをクリックして確定します。選択した内容により、画面にフィルタ処理されたアラームだけが表示されます。適用されているフィルタは、青色のフィルタアイコンで表示されます。

標準フィルタ（標準）では、選択肢はすべてチェックボックスで選択します。カスタマイズされたフィルタ（カスタム）では、直接入力により（例：MINOR）、またはワイルドカードとしてアスタリスクを使用して選択します。例えば、重要度の場合、M* と指定すると、Major および Minor が選択されません。

アラームリストには右クリックメニューがあり、次の項目を選択できます。

選択されたアラームの情報を表示する

選択したアラームの追加情報を表示します。

すべてのアラームにチェックを入れる

現在のすべての既知のアラームをアラームルールに追加します。

選択したアラームにチェックを入れる

選択したアラームをアラームルールに追加します。

すべてのアラームのチェックをはずす

現在のすべての既知のアラームを、アラームルールから削除します。

選択したアラームのチェックをはずす

選択したアラームをアラームルールから削除します。

新しい設定を保存するには、適用ボタンをクリックします。リセットボタンをクリックすると、最後に保存した設定に戻ります。

「アラームルール」 「アラームの割り当て」の順に選択し、「アラームのタイプ」ダイアログボックスで、選択したアラームに対してどのような種類のアラームを転送するかを定義できます。

4.1 アラームルール

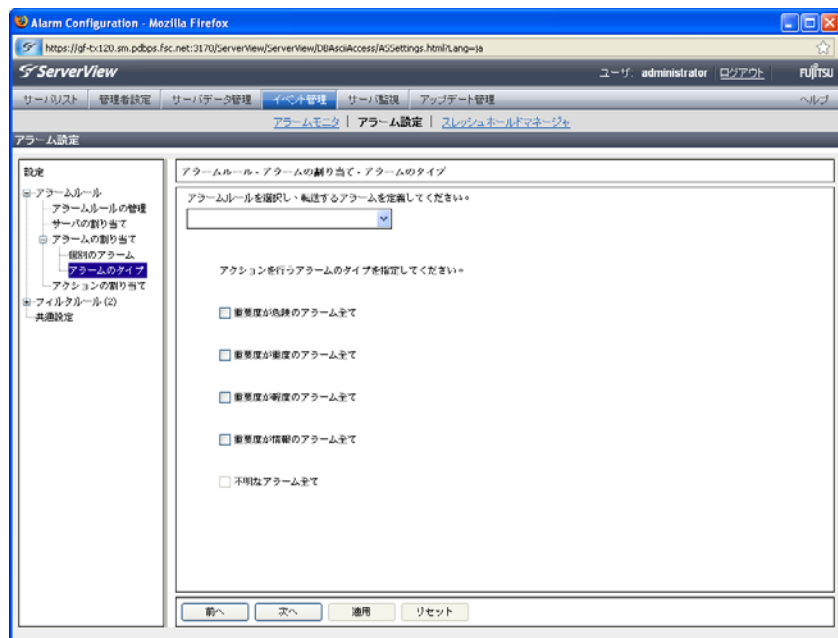


図 11: 「アラームルール」- 「アラームの割り当て」- 「アラームのタイプ」

上部ドロップダウンリストには、既知のアラームルールの名前がすべて表示されます。編集するアラームルールを、ここで選択できます。次のフィルタ設定をアクティブまたは非アクティブにできます。

重要度が「危険」(CRITICAL) のすべてのアラーム

重要度が「危険」のすべてのアラームが、アラームルールに従って処理されます。

重要度が「重度」(MAJOR) のすべてのアラーム

重要度が「重度」のすべてのアラームが、アラームルールに従って処理されます。

重要度が「軽度」(MINOR) のすべてのアラーム

重要度が「軽度」のすべてのアラームが、アラームルールに従って処理されます。

重要度が「情報」(INFORMATIONAL) のすべてのアラーム

重要度が「情報」のすべてのアラームが、アラームルールに従って処理されます。

重要度が「不明」(UNKNOWN)のすべてのアラーム

重要度が「不明」のすべてのアラームが、アラームルールに従って処理されます。

4.1.4 アクションの割り当て

アラームルール - アクションの割り当て画面では、アラームのアクションに関する設定を行います。アラームルールを選択し、特定のアラームメッセージへの応答として、このアラームルールのサーバに対して実行する処理を定義します。

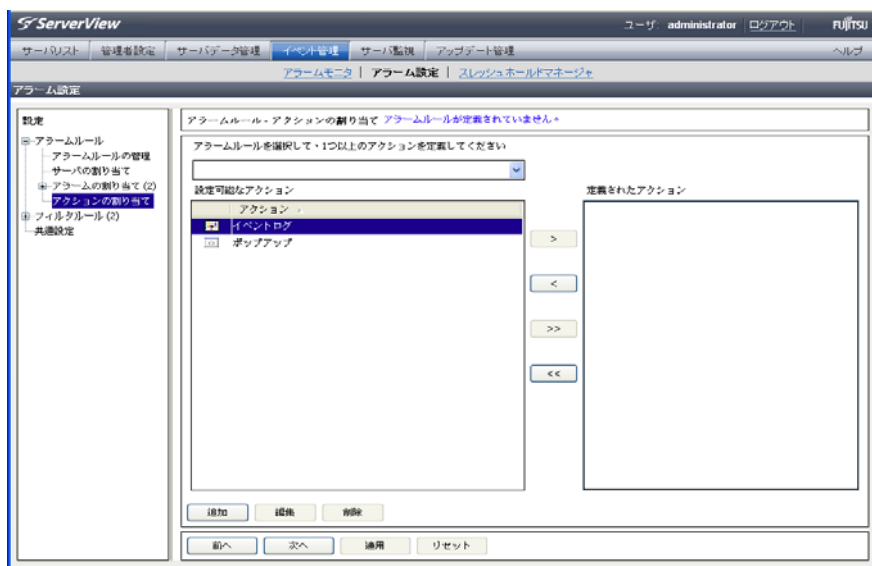


図 12: アラームルール - アクションの割り当て

上部のドロップダウンリストには、すべての既知のアラームルールの名前が含まれています。ここから、編集したいアラームルールを選択します。設定可能なアクションボックスには、すべての既知のアクションが表示されます。定義されたアクションボックスには、アラームルールに割り当てられているアクションが一覧表示されます。

4.1 アラームルール

新しいアクションを定義するには、追加ボタンを使用します。既存のアクションを変更するには、編集ボタンを使用します。既存のアクションを削除するには、削除ボタンを使用します。

Automatic Service Mail のアクションは削除できません。また、定義されたアクションには移動できません。

アラームの転送を有効 / 無効にするには、次のボタンを使用します。

>
選択したアクションをアクティブにします。

<
選択したアクションを無効にします。

>>
すべての既知のアクションを有効にします。

<<
すべての既知のアクションを無効にします。

新しい設定を保存するには、適用ボタンをクリックします。リセットボタンをクリックすると、最後に保存した設定に戻ります。

アラームルールには、次の応答を定義できます。

- アラームをメールで送信します（メール）
- アラームをポップアップで表示します（ポップアップ）
- アラームをイベントログに書き込みます（イベントログ）
- アラームをポケットベルに送信します（ポケットベル）
- プログラムを実行します（プログラム実行）
- 複数の端末にブロードキャスト送信します（ブロードキャスト）
- 他の端末にトラップを送信します（アラーム転送）
- 特殊なサービスアドレスにメールを送信する
(*Automatic Service Mail*)

新しいアクションを定義するには、追加ボタンをクリックします。次の画面が表示され、使用可能なアクションが表示されます。

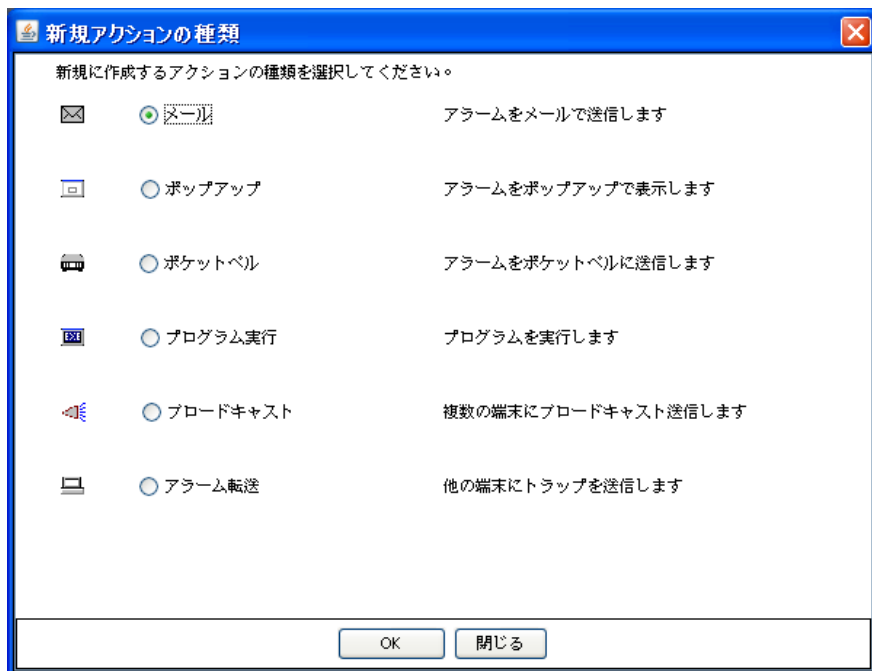


図 13: 新規アクションの追加

OK ボタンをクリックすると、選択した内容に応じて、さらに詳細な設定を行う別の画面が表示されます。この画面の各種タブを使用して、転送に必要なすべてのパラメータを定義できます。対応するヘルプボタンをクリックすると、各画面の詳細説明が表示されます。各画面の詳細情報は、それぞれの転送処理と設定の項 (58 ページ以降) をご覧ください。



– SMTP AUTH について

メールの送信には、SMTP AUTH がサポートされています。

サポートされる認証方式：CRAM MD5/LOGIN/PLAIN

メール送信時に使用される認証方式は送信先の SMTP サーバが対応している認証方式に応じて自動的に切り替わり、最も安全なものが選択されます。

ユーザおよびパスワードの入力を省略した場合は、認証なしの SMTP で送信されます。

- メール の 件名 および メッセージ に 使用 さ れ る 文 字 セ ャ ッ ト は 「UTF-8」 です。

Windows または Linux OS でメールの転送を選択すると、日本語 OS とは異なり、メールのヘッダ部の文字セットで、これに合致した変換が行われません。そのため、文字セットを自動判別するメールサーバやメールブラウザでも、日本語部分が正しく表示されません。

その場合は、メール設定を適宜調整して、メッセージを英数字に変更してください。

日本語 Windows OS には、次の内容が設定されます。

Content-Type: text/plain; charset=iso-2022-jp

Content-Transfer-Encoding: quoted-printable

4.2 フィルタルール

フィルタルールでは、アラームを除外するサーバまたはサーバグループを定義し（[55 ページ](#) の「[サーバのフィルタ](#)」の項をご覧ください）、除外対象のアラームを指定します（[55 ページ](#) の「[アラームのフィルタ処理](#)」の項をご覧ください）。



フィルタルールはアラームルールに優先します。アラームがフィルタルールが原因で無視されると、そのアラームに割り当てられているアラームルールはアクティブ化されません。

4.2.1 サーバのフィルタ

フィルタルール –サーバのフィルタ画面では、アラームを除外したいサーバまたはサーバグループを定義します。サーバ上でイベントマネージャが実行され、サーバリストに他のサーバが存在しない場合には、このサーバが自動的にローカルホストとして表示されます。この場合、今後の設定は不要です。

サーバリスト枠には、サーバリスト内のすべてのサーバとサーバグループが表示されます。受信しないサーバ枠には、アラームを受信しないサーバまたはサーバグループが表示されます。

サーバのフィルタを設定するには、次のボタンを使用します。

>

サーバリスト枠内から選択したサーバまたはサーバグループからのアラームを無視します。

<

受信しないサーバ枠内から選択したサーバまたはサーバグループからのアラームを受信します。

>>

サーバリスト内のすべてのサーバまたはサーバグループからのすべてのアラームを無視します。

<<

受信しないサーバ枠内のサーバまたはサーバグループからのアラームを受信します。サーバリスト内のすべてのサーバまたはサーバグループからのアラームが受信されます。

サーバリスト画面でサーバを選択する場合、コンテキストメニューのサーバの情報を表示するを使用して、サーバの詳細情報を表示できます。

新しい設定を保存するには、適用ボタンをクリックします。リセットボタンをクリックすると、最後に保存した設定に戻ります。

4.2.2 アラームのフィルタ処理

フィルタルール –アラームのフィルタ画面では、アラームのタイプによってフィルタ設定を有効または無効にできます。

4.2 フィルタルール

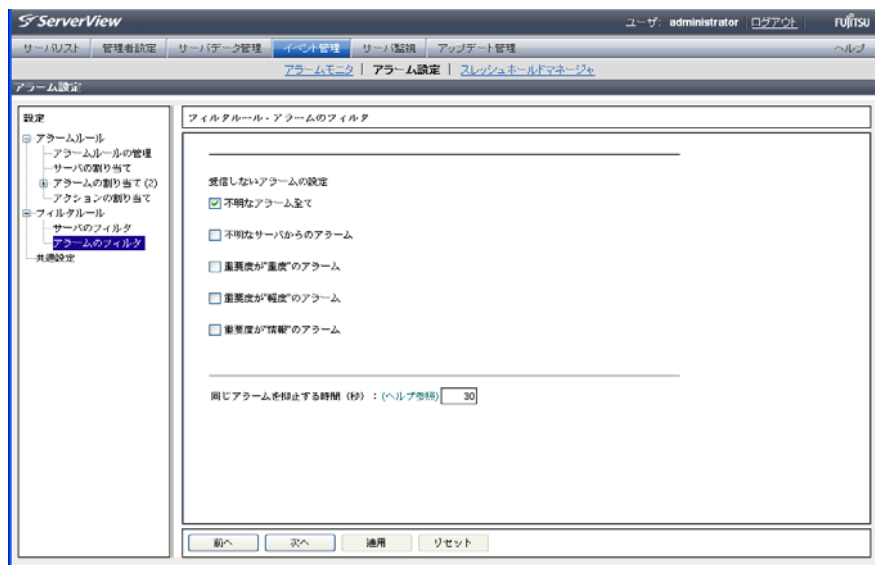


図 14: アラームタイプのフィルタ設定

次のフィルタの設定が可能です。

不明なアラーム

不明なアラームを受信しません。不明なアラームとは、統合されただの **MIB** にも定義されていないアラームです。

不明なサーバからのアラーム

不明なサーバからのアラームを受信しません。

重要度が " 重大 " のアラーム

重要度レベルが重大 (**major**) のアラームを受信しません。

重要度が " 軽度 " のアラーム

重要度レベルが軽度 (**minor**) のアラームを受信しません。

重要度が " 情報 " のアラーム

重要度レベルが情報 (**informational**) のアラームを受信しません。

同じアラームを抑止する時間 (秒) 入力フィールドで、同じサーバから同じアラームが続けて複数回発信された場合の受信を許可するまでの間隔を指定できます。これにより、正常に起動されていないサーバから管理用サーバに、同じアラームが大量に転送されるのを防ぐことができます。

例えば「同じアラームを抑止する時間 (秒)」に **30** 秒を設定した場合、重要度ごとのフィルタ間隔は次のようになります。

アラームの重要度	重要度の値	フィルタ間隔を求める式	フィルタ間隔
危険	1	30 秒 × 1	30 秒
重度	2	30 秒 × 2	60 秒
軽度	3	30 秒 × 3	90 秒
情報	4	30 秒 × 4	120 秒

表 5: 重要度ごとのフィルタ間隔

4.3 共通設定

「共通設定」画面で、アラーム処理の全般的な設定を定義できます。

アラームを受信するごとに、アラームグループに関係なく、デフォルトで実行される処理を定義できます。

次の処理を定義できます。

- － 認証エラー（**Authentication failure**）アラームの受信を抑止します。
- － サーバブレードからのアラームについて、アラームを発信したサーバブレードのホスト名から、該当サーバブレードを搭載しているブレードシャーシの名前に変換して表示します。

受信したエラーの重要度ごとに、アラームを **OS** イベントログリストに書き込む、管理用サーバにメッセージを出力する、アラームモニタ画面を前面に表示するなどの設定ができます。これらは組み合わせて設定することもできます。

アラームを削除するタイミングを指定できます。アラームが受信から一定時間が経過した時点、またはエントリ数が一定数に達した時点で削除できます。エントリ数が一定数に達すると、リスト内の最も古いアラームが削除されます。

新しい設定を保存するには、適用ボタンをクリックします。リセットボタンをクリックすると、最後に保存した設定に戻ります。



共通設定では、イベントログはアラームルールとは別個に書き込まれます。設定によっては、同じアラームに対して **2** つのイベントログ書き込みが行われる場合もあります。

4.4 全般的なメール転送

MAPI をメールプロトコルとして設定する際の注意

MAPI をメールプロトコルとしてメール転送を設定するには、Microsoft Mail がインストールされているかどうかを確認する必要があります。

Microsoft メールシステムがインストールされていない場合は、オペレーティングシステムのセットアッププログラムを再実行して、メールシステムをインストールする必要があります。

詳しくは、ServerView のインストールディレクトリにある Readme ファイルをご覧ください。

Readme ファイルの場所

- Windows の場合：

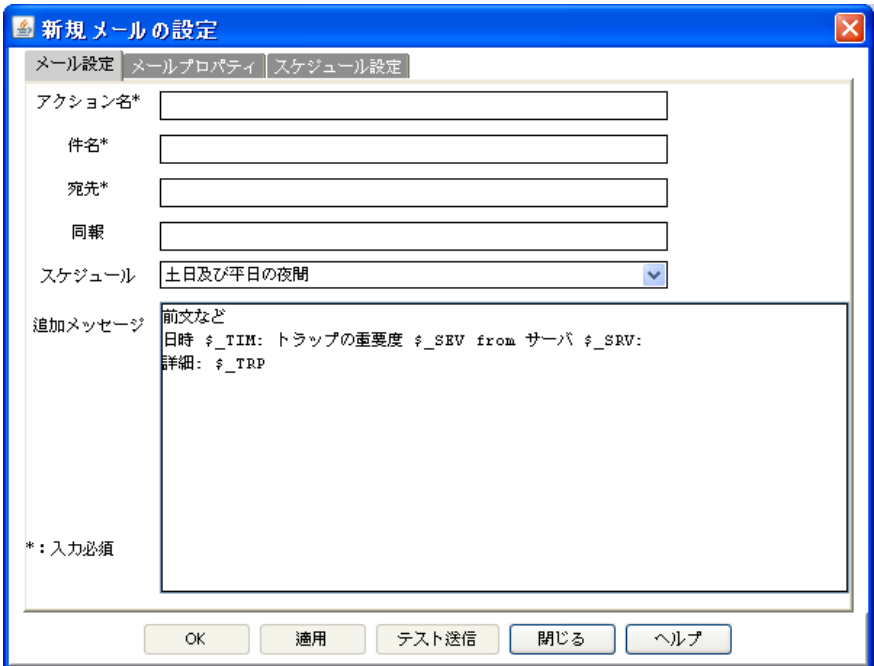
`<wwwroot>/ServerView/common/readme.txt`

- Linux の場合：

`/usr/share/doc/fujitsu/README`

メール設定

転送方法としてメールを選択すると、次の新規メールの設定画面が表示されます。



新規メールの設定

メール設定 メールプロパティ スケジュール設定

アクション名*

件名*

宛先*

同報

スケジュール 土日及び平日の夜間

追加メッセージ

前文など
日時: \$_TIM: トラップの重要度 \$_SEV from サーバ \$_SRV:
詳細: \$_TRP

*: 入力必須

OK 適用 テスト送信 閉じる ヘルプ

図 15: 新規メールの設定

この画面のメール設定、メールプロパティ、スケジュール設定タブを使用して、転送に必要なすべてのパラメータを定義できます。*が付いているフィールドは必須入力、その他のフィールドは任意入力です。

4.4 全般的なメール転送

メール設定タブ

メール設定タブには、メール設定用のフィールドがあります。一部のフィールドには、定義済みの値が表示されます。
メール設定画面の入力フィールドの意味は、次のとおりです。

フィールド名	意味
アクション名	メール設定の名前 既存のメール転送のメール設定を変更する 場合は、 51 ページ の「 アクションの割り当て 」の項の編集ボタンをご覧ください。このフィールドには既存の名前が表示され、変更はできません。
件名	メールの件名 メールの件名にはマクロを使用できます。 (76 ページ の「 マクロ 」の項をご覧ください。) 件名に表示できない文字が含まれている場合は、表示可能な文字に置換されます (16 進コード など)。
宛先	アラームを送信したい担当者の電子メールアドレス。 複数のアドレスを指定する場合は、セミコロンまたはカンマで区切る必要があります。
同報	アラームのコピーを送信したい担当者の電子メールアドレス (任意)。
スケジュール	アラーム転送のタイミングを示すタイムモデル ドロップダウンリストから定義済みのタイムモデルを選択します。スケジュール設定タブを使用して、独自のタイムモデルを設定することもできます。
追加メッセージ	アラームメッセージを定義するテキストフィールド 各種マクロを使用して、サーバの関連情報を挿入できます。 (76 ページ の「 マクロ 」の項をご覧ください。) 容易に指定できるように、推奨する内容が表示されます。必要に応じて、削除または変更してください。

表 6: メール設定画面の入力フィールド

メールプロパティタブ

メールプロパティタブには、メールサーバ用のフィールドがあります。使用するメールプロトコルに応じて、**MAPI** (Windows のみ) または **SMTP** (Windows、Linux) を選択する必要があります。

選択したメールサービスに応じて、メールプロパティ画面で有効になる入力フィールドが異なります。入力フィールドの意味は、次のとおりです。

フィールド名	意味
差出人	送信者 (SMTP)
サーバ	SMTP サーバ (SMTP)
ユーザ (任意)	ユーザ名 (SMTP)
パスワード (任意)	メールシステムの認証情報 (SMTP では任意)
パスワード確認 (任意)	パスワードの確認入力 (SMTP では任意)
ポート	ポート番号 (SMTP) ポート番号のデフォルト値は、25 です。
プロファイル名	メールシステムの識別名 (MAPI) Microsoft Mail の設定時に割り当てたプロファイル名を指定する必要があります。異なるプロファイル名を指定すると、メール機能が正しく動作しません。
パスワード	メールシステムの認証情報 (MAPI) MAPI の場合、 Microsoft Mail の設定時に割り当てたパスワードを指定する必要があります。異なるプロファイル名と異なるパスワードを指定すると、メール機能が正しく動作しません。
パスワード確認	パスワードの確認入力 (MAPI)

表 7: メールプロパティ画面の入力フィールド

4.5 サービスプロバイダへのメール転送（本機能は未サポートです）

スケジュール設定タブ

スケジュール設定タブでは、タイムモデルの選択、追加、変更ができます。アラームの転送時刻を、週全体にわたって 1 時間単位で定義できます。

テスト送信ボタンをクリックすると、設定を確認するためのテストメールが送信されます。

OK ボタンをクリックすると、設定が保存され、前の画面に戻ります。

その他のボタンは、転送タイプと選択したタブに応じて表示されます。

([40 ページ](#) の「ボタン」をご覧ください。)

McAfee ウィルススキャナ

McAfee ウィルススキャナには、登録されていない電子メールの送信を抑制する設定が含まれます。

メール送信者を登録するには、対応するプログラム名を入力する必要があります。Windows の場合は *blat.exe*、Linux の場合は *smtpm* と入力します。

4.5 サービスプロバイダへのメール転送（本機能は未サポートです）

イベントマネージャでは、電子メールによってサービスプロバイダにアラームを自動的に転送できます。

サービスプロバイダへのメール転送を有効にすると、特定のトラップが発生するごとに、電子メールによりサーバの状態がサービスプロバイダに通知されます。メールを転送するトラップのグループは、サービスプロバイダが定義し、サービスプロバイダによってのみ変更できます。

4.5 サービスプロバイダへのメール転送（本機能は未サポートです）

メール転送の有効化

サービスプロバイダへのメール転送を有効にするには、アラームルール – アクションの割り当てアクションの割り当て画面の **Automatic Service Mail** を選択し、表示された画面で設定します。

編集ボタンをクリックすると、**Mail Settings** 画面で、サービスプロバイダへのメール転送に必要な設定を行うことができます。

Mail Settings 画面の入力フィールドの意味は、次のとおりです。


フィールド名	意味
Mail To	Service Center の電子メールアドレス
Cc	サービスメールのコピーの送信先となる電子メールアドレス（任意）
Identnumber	サーバ固有の ID 番号  サービスプロバイダの番号と一致している必要があります。
Name	サーバ管理者の名前
Phone	サーバ管理者の電話番号
E-mail Address (任意)	Service Center がフィードバック用に使用する電子メールアドレス（任意）
Country ID (任意)	2 文字の ISO 国別コード（任意） (例：ドイツの場合は DE)
Customer ID (任意)	カスタマコード（任意） プロバイダのカスタマコードと一致している必要があります。

表 8: Service Mail Settings 画面の入力フィールド

4.5 サービスプロバイダへのメール転送（本機能は未サポートです）

この設定を有効 / 無効にするには、**Enabled** オプションを使用します。

Mail Properties タブをクリックすると、この画面でメールサービスの追加情報を指定できます。メールサービスに応じて、**MAPI** (Windows のみ) または **SMTP** (Windows、Linux) を選択する必要があります。

選択したメールサービスに応じて、**Mail Properties** 画面で有効になる入力フィールドが異なります。入力フィールドの意味は、次のとおりです。


フィールド名	意味
From	送信者 (SMTP)
Server	SMTP サーバ (SMTP)
ユーザ (任意)	ユーザ名 (SMTP)
Password (任意)	メールシステムの認証情報 (SMTP では任意)
Confirm Password (任意)	パスワードの確認入力 (SMTP では任意)
Port	ポート番号 (SMTP) デフォルト値は、 Port 25 です。
Profilename	メールシステムの識別名 (MAPI) Microsoft Mail の設定時に割り当てたプロファイル名を指定する必要があります。異なるプロファイル名を指定すると、メール機能が正しく動作しません。
Password	メールシステムの認証情報 (MAPI) MAPI の場合、Microsoft Mail の設定時に割り当てたパスワードを指定する必要があります。異なるプロファイル名と異なるパスワードを指定すると、メール機能が正しく動作しません。
Confirm Password	パスワードの確認入力 (MAPI)


表 9: Mail Properties 画面の入力フィールド

Service Mail Settings 画面の **Test Address** ボタンをクリックすると、サービスプロバイダにテストメールが送信されます。**Service Center** は、受信したすべてのテストメールに対して、自動的に応答電子メールを送信します。この場合、**E-mail** 入力フィールドに指定したアドレスが使用されます。

同じメールの送信インターバルは、最低 **600** 秒以上に設定されます。これは、重複メッセージの送信を防ぐためです。

アラームモニタでは、サービスメールによって転送されたトラップは、次のように識別されます。

- 

このアイコンは、サービスメール機能によって転送されたトラップを示します。
- 

このアイコンは、通常のメール機能とサービスメール機能の両方によって転送されたトラップを示します。

4.6 ポップアップの設定

転送方法としてポップアップを選択すると、新規ポップアップの設定画面が表示されます。この画面のポップアップ設定タブとスケジュール設定タブを使用して、ポップアップ転送に必要なすべての設定を行うことができます。

ポップアップ設定タブ
ポップアップ設定タブには、ポップアップ設定用のフィールドがあります。一部のフィールドには、定義済みの値が表示されます。ポップアップ設定画面の入力フィールドの意味は、次のとおりです。

フィールド名	意味
アクション名	ポップアップ設定の名前 既存のポップアップ転送のポップアップ設定を変更する場合は（51 ページ の「アクションの割り当て」の項の編集ボタンをご覧ください）、このフィールドに既存の名前が表示され、変更はできません。
スケジュール	アラームを受け取ってからポップアップメッセージを表示するまでのタイミングを示すタイムモデル ドロップダウンリストから定義済みのタイムモデルを選択します。スケジュール設定タブを使用して、独自のタイムモデルを設定することもできます。

表 10: ポップアップ設定画面の入力フィールド

4.6 ポップアップの設定

フィールド名	意味
追加メッセージ (任意)	ポップアップ画面のメッセージを定義するテキスト フィールド 各種マクロを使用して、サーバの関連情報を挿入で きます。(76 ページ の「マクロ」の項をご覧ください。) Windows 2008 では、 255 文字を超える出力は切り 捨てられます。

表 10: ポップアップ設定画面の入力フィールド

スケジュール設定タブ

スケジュール設定タブでは、タイムモデルの選択、追加、変更がで
きます。アラームの転送時刻を、週全体にわたって 1 時間単位で定義で
きます。



Linux の注意事項

1. 転送されたアラームメッセージを受信するには、ユーザが **Linux** システムコンソールにログオンする必要があります。どのユーザもログオンしていない場合、転送されたアラームメッセージは保存されません。つまり、ユーザが次回システムコンソールにログオンしても、これらのメッセージは出力されません。
2. **Linux** システムでは、ユーザは仮想システムコンソールにログオンするため、グラフィカルインタフェース (**Gnome** や **KDE** などの **GUI** セッション) とコマンドラインインタフェース (**CLI** セッション) のどちらも使用できます。どちらを使用するかによって、レイアウトの表示が異なります。

CLI セッションでは、ログオンユーザは転送されたアラームメッセージを、プレーンテキストメッセージとして受信します。

GUI セッションでは、転送されたアラームメッセージが (非モダルの) ポップアップ画面に出力されます

3. 転送サービスは、**/var/run/utmp** にあるデータベースを使用して、システムコンソールに接続しているユーザの情報を取得します。したがって、このデータベースに正しいエントリが含まれている必要があります。

システムコンソールで **startx** プログラムでグラフィックセッションを開始した場合、**/var/run/utmp** に必要なエントリが作成されません。この場合、転送されたアラームは出力されません。

転送されたアラームメッセージを、**ServerView** 管理用サーバ上でポップアップメッセージとして受信するには、**Linux** オペレーティングシステムの起動後、システムをグラフィックモード (**runlevel 5**) で開始する必要があります。

転送サービスでは、**Xconsole** にはアラームは転送されません。

4.7 ポケットベル設定 / COM ポートとモデム
 (本機能は未サポートです)

転送方法としてポケットベルを選択すると、New Pager Configuration 画面が表示されます。この画面の Pager Settings タブと Modem Settings タブを使用して、シリアルインタフェースと接続モデム (ポケットベルの種類) に関する各種の設定を行うことができます。

次の値を定義できます。

- 使用可能なインタフェース名 (COM2 または COM4 など)
- 最大伝送速度 (ボーレート)
- データフロー制御の種類
- モデムの初期化チェーンとリセットチェーン

New Pager Configuration 画面の入力フィールドの意味は、次のとおりです。


フィールド名	意味
Description	ポケットベル設定の名前
Owner	所有者の名前
Com Port	シリアルインタフェースの名前 ドロップダウンリストに使用可能なインタフェース名が含まれています。特定のインタフェース名または Any Available エントリを選択できます。後者を選択すると、 COM ポートに使用可能な任意のインタフェースに接続できます。接続デバイスが頻繁に変更される場合は、このエントリを使用すると便利です。
Pager Number	ポケットベルの (電話) 番号 <div> 宛先番号のテキストメッセージには、関連するポケットベルサービスの追加プレフィクスが必要になることがあります。 例： ドイツの D1 サービス：49171XXXXXXX (XXXXXXX = ポケットベル ID) 49171 (00 を付けない) のプレフィクスが必要 ドイツの D2 サービス：0049172XXXXXXX 0049172 は任意</div>

表 11: Mail Settings 画面の入力フィールド

4.7 ポケットベル設定 / COM ポートとモデム (本機能は未サポートです)


フィールド名	意味
Time Model	アラーム転送のタイミングを示すタイムモデル ドロップダウンリストから定義済みのタイムモデルを選択します。 Time Model Settings タブを使用して、独自のタイムモデルを設定することもできます。
Retry Delay	2 回のポケットベル呼び出し間の遅延 (分単位) サービスプロバイダによってはポケットベルの呼び出しに数分かかることがあるので、この遅延はあまり短く設定しないでください。また、サーバ管理用サーバに到達するまでの所要時間を考慮してください。この遅延は、 5 分以上 にするのが適当です。
Retries	メッセージが表示されるまで、ポケットベルにアラームを転送する最大試行回数
Pager Type	ポケットベルタイプ (signal/numeric/alpha/SMS1 Service/SMS2 Service/NTT Service)  ポケットベルの種類を誤って選択すると、通信プロトコルが無効になり、転送は無視されます。

表 11: Mail Settings 画面の入力フィールド

ポケットベル設定

ポケットベルサービスを指定するには、**Pager**、**SMS-1**、**SMS-2** タブを使用します。

Server Num タブには、サーバ名に割り当てられているサーバ番号が表示されます。サーバ番号は、**numeric** のポケットベルタイプに送信されます。

設定をテストするには、**Test** ボタンをクリックします。

各サービス番号について、データビット、パリティ、ストップビットを設定し、ポケットベルサービスがメッセージに使用するプロンプトを定義します。**SMS1** と **SMS2** サービスでは、**GSM** モバイルに対して、プロトコルの異なる 2 つのサービスを設定できます。**SMS1** は **TAP** プロトコル、**SMS2** は **UCP** プロトコルを使用します。

ボーレート	2400 bps、1200 bps、または 300 bps
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
ダイヤルプレフィクス	ATDP0,01691

表 12: Deutsche Telekom の「Cityruf」ポケットベルサービスの設定例

i

シリアルインタフェース用の設定を定義した場合は、アラームによるポケットベルまたは携帯電話への呼び出しのアクションを定義できます。(51 ページ の「アクションの割り当て」の項もご覧ください。)

4.8 実行プログラムの設定

転送方法としてプログラム実行を選択すると、新規プログラム実行の設定画面が表示されます。この画面のプログラム実行設定タブとスケジュール設定タブで、実行プログラム転送に必要なすべての設定を行うことができます。

プログラム実行設定タブ

プログラム実行設定タブには実行プログラム設定用のフィールドがあります。一部のフィールドには、定義済みの設定値が表示されます。プログラム実行設定画面の入力フィールドの意味は、次のとおりです。

フィールド名	意味
アクション名	実行プログラム設定の名前 既存の実行プログラム転送の実行プログラム設定を変更する場合は（ 51 ページ の「 アクションの割り当て 」の項の編集ボタンをご覧ください）、このフィールドに既存の名前が表示され、変更はできません。
コマンド	実行するコマンドの名前 この名前には、コマンド行として引数を付けて入力できます。各種マクロを使用して、これらの引数にサーバの関連情報を挿入できます。（ 76 ページ の「 マクロ 」の項をご覧ください。）
作業フォルダ (任意)	実行するコマンドが存在するディレクトリの名前
スケジュール	アラームによりこのコマンドを呼び出すタイミングを示すタイムモデル ドロップダウンリストから定義済みのタイムモデルを選択します。スケジュール設定タブを使用して、独自のタイムモデルを設定することもできます。

表 13: プログラム実行設定画面の入力フィールド

スケジュール設定タブ

スケジュール設定タブでは、タイムモデルの選択、追加、変更ができます。アラームの転送時刻を、週全体にわたって 1 時間単位で定義できます。



Windows Server 2008 の場合、CUI コマンドは、プログラムの実行のために使用できる唯一のコマンドです。

4.9 ブロードキャストの設定

転送方法としてブロードキャストを選択すると、新規ブロードキャストの設定画面が表示されます。この画面のブロードキャスト設定タブとスケジュール設定タブで、ブロードキャスト転送に必要なすべての設定を行うことができます。

ブロードキャスト設定タブ

ブロードキャスト設定タブには、ブロードキャスト設定用のフィールドがあります。一部のフィールドには、定義済みの設定値が表示されます。
ブロードキャスト設定画面の入力フィールドの意味は、次のとおりです。

フィールド名	意味
アクション名	ブロードキャスト設定の名前 既存のブロードキャスト転送の設定を変更する場合は(51 ページ の「アクションの割り当て」の項の編集ボタンをご覧ください)、このフィールドに既存の設定がある場合、変更することはできません。
スケジュール	アラーム転送のスケジュール設定 ドロップダウンリストから定義済みのスケジュールを選択します。スケジュール設定タブを使用して、独自のスケジュールを設定することもできます。

表 14: ブロードキャスト設定画面の入力フィールド

フィールド名	意味
モード	ブロードキャストの転送モード
特定ユーザに送信	ここに名前を入力した特定のユーザだけに通知します。
ドメイン内の全てのユーザに送信	転送先の同じドメインに属するすべてのユーザに通知します (Windows でのみ有効、デフォルト)。Windows 2008 では、ドメインはサポートされなくなりました。
接続中の全てのユーザに送信	任意のセッションで、転送に関連するすべてのユーザに通知します (Linux でのデフォルト)。
追加メッセージ (任意)	ブロードキャスト画面のメッセージを定義するテキストフィールド 各種マクロを使用して、サーバの関連情報を挿入できます。(76 ページ の「マクロ」の項をご覧ください。) Windows 2008 では、255 文字を超える出力は切り捨てられます。

表 14: ブロードキャスト設定画面の入力フィールド

スケジュール設定タブ

スケジュール設定タブでは、スケジュールの選択、追加、変更ができます。アラームの転送時刻を、週全体にわたって 1 時間単位で定義できます。



Linux の注意事項

転送サービスは、`/var/run/utmp (utmp(5))` にあるデータベースを使用して、接続しているユーザとセッションのタイプ（GUI または CLI）の情報を取得します。したがって、すべてのセッション（ローカルまたはリモート）が `utmp` データベースに正しく登録されている必要があります。

SuSE Linux と RedHat Linux の場合、KDE セッションによって起動したコンソールやエミュレーションでは `utmp` エントリが作成されません。したがって、これらの画面には転送されたアラームメッセージは出力されません。

この制約は、SuSE Linux と RedHat Linux の GNOME セッションや、Caldera OpenLinux の KDE セッションには適用されません。

Windows の注意事項

Windows Messenger Service に障害があると、ブロードキャスト転送に失敗することがあります。障害がないかどうかは、`net send` コマンドで確認できます。

4.10 トラップの設定

転送方法としてアラーム転送を選択すると、新規アラーム転送の設定画面が表示されます。この画面のアラームの転送設定タブとスケジュールの設定タブで、トラップ転送に必要なすべての設定を行うことができます。

アラーム転送設定タブ

アラーム転送設定タブには、トラップ設定用のフィールドがあります。一部のフィールドには、定義済みの設定値が表示されます。アラーム転送設定画面の入力フィールドの意味は、次のとおりです。

フィールド名	意味
アクション名	トラップの転送先となるステーションの名前 既存のトラップ転送の設定を変更する場合は (51 ページ の「アクションの割り当て」の項の編集ボタンをご覧ください)、このフィールドに既存の設定がある場合、変更することはできません。

表 15: アラーム転送設定画面の入力フィールド

フィールド名	意味
コミュニティ	トラップの転送先のコミュニティの名前 デフォルト値は、 public です。
スケジュール	アラーム転送のスケジュール設定 ドロップダウンリストから定義済みのスケジュールを選択します。スケジュール設定タブを使用して、独自のスケジュールを設定することもできます。
IP アドレス	インターネットプロトコルアドレス
転送モード	転送モード
通常	このモードは、アラームを評価して、管理用サーバに転送します。
パススルー	このモードは、このオプションおよび透過オプションで使用できます。 このオプションでは、アラームが直接、管理用サーバに送信されます。アラームは、サーバから直接送信されたように処理されます。このモードでは、トラップが転送されるのは 1 回だけです。
透過	透過オプションでは、受信したトラップがそのまま管理用サーバに転送されます。トラップがエージェントから送信されたのか、イベントマネージャによって転送されたのかは判別することはできません。

表 15: アラーム転送設定画面の入力フィールド

スケジュール設定タブ

スケジュール設定タブでは、タイムモデルの選択、追加、変更ができます。アラームの転送時刻を、週全体にわたって 1 時間単位で定義できます。

4.11 マクロ

以下に、アラームの転送（メール、ポケットベルなど）に使用できるマクロの一覧を示します。

これらのマクロは、アラームを報告したサーバの対応情報に置換されます。

名前	意味
<code>\$_SRV</code>	サーバの名前
<code>\$_TRP</code>	アラームメッセージのテキスト
<code>\$_TYP</code>	アラームの簡単な説明
<code>\$_IPA</code>	サーバの IP アドレス
<code>\$_CTY</code>	コミュニティ
<code>\$_SEV</code>	アラームの重要度 (critical、major、minor、informational、unknown)
<code>\$_TIM</code>	タイムモデル (形式: yyyy-mm-dd-hh.mm.ss) アラーム転送に適用される、管理用サーバのローカルタイムスケジュール
<code>\$_IDN</code>	サーバの ID 番号

表 16: マクロ

5 トラップ

ネットワークコンポーネントにイベントが発生すると、**SNMP** エージェントから管理者に、イベントを通知するメッセージが送信されます。このメッセージを **SNMP** トラップと呼びます。送信されたトラップに基づき、ネットワーク上のイベントに対処してください。

トラップのメッセージは、トラップ ID と MIB OID によって特定できます。

5.1 トラップ情報の表示

イベントマネージャがサポートするデフォルトの **MIB** とトラップについての詳細は、イベントマネージャのヘルプをご覧ください。

トラップ情報の概要画面は、イベントマネージャのスタート画面またはアラームモニタ画面から表示します。

- イベントマネージャのスタート画面からトラップ情報を表示する場合
 - ▶ イベントマネージャを起動します。
 - ▶ ヘルプの目次を選択します。
 - ▶ イベント管理の下のアラームモニタを選択します。
 - ▶ 表示された画面で、イベントマネージャリンクをクリックします。
 - ▶ アラームタブで、エージェント - アラーム情報オプションを選択します。
- アラームモニタ画面からトラップ情報を表示する場合
 - ▶ イベントマネージャを起動します。
 - ▶ イベント管理の下のアラームモニタを選択します。
 - ▶ アラームモニタ画面で、メニューバーからヘルプ – アラームモニタのヘルプの順に選択します。
 - ▶ 表示された画面で、イベントマネージャリンクをクリックします。
 - ▶ アラームタブで エージェント - アラーム情報オプションを選択します。



トラップ情報は、**ServerView Operations Manager** のスタート画面から同様に表示できます。

5.1 トラップ情報の表示

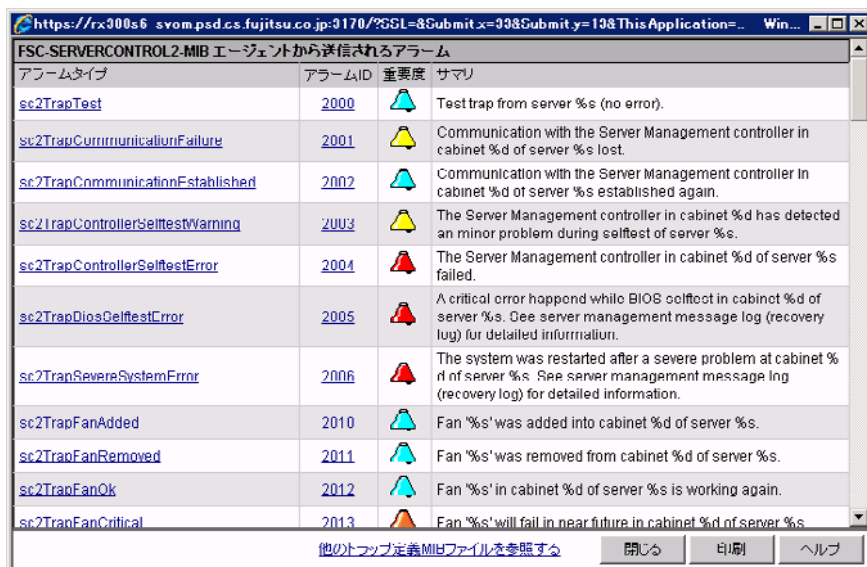
アラーム *MIB* 画面が表示されます。



図 16: イベントマネージャの MIB 概要の例

5.2 Windows のイベントログにトラップを表示する

MIB を 1 つ選択すると、次のような画面が表示され、詳細なトラップ情報を確認できます。



アラームタイプ	アラームID	重要度	サマリ
sc2TrapTest	2000		Test trap from server %s (no error).
sc2TrapCommunicationFailure	2001		Communication with the Server Management controller in cabinet %d of server %s lost.
sc2TrapCommunicationEstablished	2002		Communication with the Server Management controller in cabinet %d of server %s established again.
sc2TrapControllerSelftestWarning	2003		The Server Management controller in cabinet %d has detected an minor problem during selftest of server %s.
sc2TrapControllerSelftestError	2004		The Server Management controller in cabinet %d of server %s failed.
sc2TrapDiosSelftestError	2005		A critical error happend while BIOS selftest in cabinet %d of server %s. See server management message log (recovery log) for detailed information.
sc2TrapSevereSystemError	2006		The system was restarted after a severe problem at cabinet %d of server %s. See server management message log (recovery log) for detailed information.
sc2TrapFanAdded	2010		Fan %s' was added into cabinet %d of server %s.
sc2TrapFanRemoved	2011		Fan %s' was removed from cabinet %d of server %s.
sc2TrapFanOk	2012		Fan %s' in cabinet %d of server %s is working again.
sc2TrapFanCritical	2013		Fan %s' will fail in near future in cabinet %d of server %s.

[他のトラップ定義MIBファイルを参照する](#)

図 17: MIB からのトラップに関する詳細情報の例

印刷ボタンをクリックすると、この内容を印刷できます。

5.2 Windows のイベントログにトラップを表示する

Windows エージェントのインストール時に、Fujitsu MIB (HD.MIB、Mylex.MIB など) から送信されるトラップを Windows のイベントログに書き込むかどうかを指定できます。イベントログのトラップ ID は、本章で説明するアラーム ID (specific) に 10000 加えた数で表示されます (例えば、トラップ ID 「275」の mylexBBUFound は、イベントログでは「10275」と表示されます)。

 イベントマネージャでは、Windows、または Linux のイベントログへの書き込みにアラーム転送を使用できます。

5.3 トラップの概要

イベントマネージャに統合できる MIB の概要を次の表に示します。表に続いてトラップの主要なタイプについての概要を説明した後、トラップの一覧をカテゴリごとに記載します。トラップ一覧では、各カテゴリはカテゴリ名順に記載し、カテゴリ内はトラップ名（アラームタイプ）順に記載しています。

次の表の備考欄は、トラップ一覧が記載されているページを示しています。イベントマネージャを使ってトラップ一覧を印刷することもできます。詳しくは、[77 ページ](#) の「[トラップ情報の表示](#)」の項をご覧ください。

MIB	トラップの発信元	備考
aac.mib	Adaptec controller	
ADICLIBMIB-v2.mib		112 ページ 参照
adptinfo.mib		
Asmpro.mib	ASM PRIVATE COMMIB traps	156 ページ 参照
baspcfg.mib		
baspcstat.mib		
baspctrap.mib	Broadcom Advanced Server traps	
BIOS.mib		
BUS.mib		
clariion1.mib	FibreCat	
clariion_fsc_2.mib	FibreCat	
Cmc32.mib	Rittal rack monitor	
CMS-TC.mib		
Ddm.mib	DuplexDataManager traps	99 ページ 参照
dec.mib	Compaq StorageWorks Enterprise Array Manager	119 ページ 参照
desktrap.mib	DeskView traps	
dhtraps.mib		
domagt.mib		
dptscsi.mib	DPT SCSI traps	97 ページ 参照

表 17: MIB の概要

MIB	トラップの発信元	備考
Duralink.mib	ADAPTEC Duralink traps	86 ページ参照
DW.mib	DuplexWrite traps	102 ページ参照
egeneraV1.mib		
Ether.mib		
eurologic.mib	FibreCat	
F5emt2o.mib	HP OpenView Network Node Manager	
fcswitch.mib	Fibre Channel switch	
FSC-AC-MIBV1.mib		
FSC-KVMS3-TRAP.mib		
FSC-RCA4PLUS-TRAP.mib		
FSC-S21611-TRAP.mib		
Hd.mib	ServerView agent: disks	104 ページ参照
HPI-MIBV1.mib		
INTELLAN_V1.mib		
INVENT.mib		
iommib.mib	Adaptec	
Ldcm.mib	LAN Desk Client Manager from Intel traps	157 ページ参照
Ldsm.MIB	LAN Desk Server Manager from Intel traps	158 ページ参照
log3v1.mib	PRIMEPOWER log entries	113 ページ参照
Lsi1030.mib		
LSIRAID-IDE.mib		
Megaraid.mib	RAID adapter from American Mega Trends Inc.	123 ページ参照
Mlxraid.mib	MylexDiskArrayController traps	

表 17: MIB の概要

5.3 トラップの概要

MIB	トラップの発信元	備考
MMB-COM-MIB.mib		
MMB-ComTrap-MIB.mib		
mp.mib	MultiPath traps	105 ページ参照
Mylex.mib	RAID controller (Mylex DAC 960)	107 ページ参照
net-snmp.mib		
netapp.mib	Network Appliance traps	
NT.mib		
NTCluster.MIB	Microsoft Cluster	94 ページ参照
NW.mib		
OS2.mib		
pcihotplug.mib	SCSI device hot-plug traps	112 ページ参照
Powernet.mib	American Power Conversion traps	86 ページ参照
Ppc.mib	UPS traps 2	166 ページ参照
primepower_xscf.mib	PRIMEPOWER hardware diagnostics	112 ページ参照
promiseraid.mib		
promisev1.mib	Promise RAID controller traps	166 ページ参照
PSA-COM-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-ComTrap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-ExternalFileUnitTrap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-LIN-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-LinBcm5700Trap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	

表 17: MIB の概要

MIB	トラップの発信元	備考
PSA-LinEmulexTrap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-LinGdsTrap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-LinGlsTrap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-LinGrmpdTrap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-LinIntelE1000Trap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-LinIntelE100Trap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-LinLanComTrap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-LinLsiLogicTrap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-LinScsiComTrap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-LinTg3Trap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-WIN-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-WinBcm5700Trap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	

表 17: MIB の概要

5.3 トラップの概要

MIB	トラップの発信元	備考
PSA-WinEmulexTrap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-WinIntelE1000Trap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-WinIntelE100Trap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-WinLsiLogicTrap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
RAID.mib		
RFC1157.mib		
RFC1213.mib		
RFC1285.mib		
RFC1628.mib		
RMS-C_SNMPv1_contact.mib		
RMS-C_SNMPv1_humidity1.mib		
RMS-C_SNMPv1_humidity2.mib		
RMS-C_SNMPv1_main.mib		
RMS-C_SNMPv1_output.mib		

表 17: MIB の概要

MIB	トラップの発信元	備考
RMS-C_SNMPv1_temp2.mib		
Rompilot.mib	RomPilot traps	126 ページ参照
S31.mib	Blade server traps	
SANMgrV1.mib	Pathlight SAN Data Gateway	
SC.mib	ServerControl traps	127 ページ参照
SC2.mib		
SECURITY.mib		
Servervi.mib	FUJITSU ServerVisor traps	
ServerView.mib	ServerView traps	141 ページ参照
Status.mib	ServerView status traps	141 ページ参照
tapealrt.mib	Tape driver traps	142 ページ参照
Threshold.mib		
TOK.mib		
Trap.mib	ServerView traps	159 ページ参照
trap1493.mib	Switch traps	
trap1757.mib	Switch traps	
unicorn-trap.mib		
uniserv.mib	PRIMEPOWER Enterprise Server	115 ページ参照
UNIX.mib		
Upsman.mib	Enterprise Specific Top Level MIB by Quazar GmbH, UPS traps 1	165 ページ参照
v1_fscHaCl.mib	PRIMECLUSTER traps	
VMWARE-TRAPS-MIB.mib		
VV.mib		
WFM.mib	Wired-for-Management traps	
wsatrap.mib	PRIMEPOWER hardware	

表 17: MIB の概要

5.3 トラップの概要

5.3.1 Adaptec からのトラップ (Duralink.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.795.3.1.2.3

Adaptec からのトラップです。

アラームタイプ	specific	説明	重要度
duralinkStatusTrap	1	The link status has changed.	informational
failoverStatusTrap	1	The failover status has changed.	informational

表 18: Adaptec からのトラップ

5.3.2 APC からのトラップ (Powernet.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.318

APC からのトラップです。

アラームタイプ	specific	説明	重要度
baseFanFailure	25	The base module bypass power supply is defective.	critical
batteryPackComm Established	27	The UPS can communicate with the external battery pack.	informational
batteryPackCommLost	26	Communication with external battery packs interrupted.	minor
bypassPowerSupply Failure	24	The base module bypass power supply is defective.	critical
calibrationStart	28	A test to determine the battery strength has been initiated by the UPS.	informational
codeAuthentication Done	32	Authentication based on the agent code image has been completed.	informational

表 19: APC からのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
communication Established	8	Communication is established between the agent and power supply.	informational
communicationLost	1	Communication between the agent and power supply was interrupted.	critical
contactFault	18	One of the contacts on the Measure UPS has changed from its default position.	critical
contactFaultResolved	19	An error on one of the Measure UPS contacts has been resolved.	informational
hardwareFailure Bypass	20	The UPS is on bypass due to a hardware failure.	critical
lowBattery	7	The UPS system batteries are low and will soon be exhausted. If utility power is not restored the UPS will put itself to <i>sleep</i> and immediately cut power to the load.	critical
powerRestored	9	Utility power has been restored after the occurrence of an <i>upsOnBattery</i> condition.	informational
restartAgent	29	The agent was restarted on the command of the manager.	informational
returnFromBypass	23	The UPS has returned from bypass mode.	informational
returnFromLowBattery	11	The UPS has returned from a <i>lowBattery</i> condition.	informational

表 19: APC からのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
smartAvrReducing	31	The UPS has enabled SmartAVR voltage reduction.	minor
smartBoostOn	6	The UPS has enabled <i>SmartBoost</i> .	minor
softwareBypass	21	The UPS has been set to bypass by a user via software or via the UPS front panel.	minor
switchedBypass	22	The UPS has been set to bypass by a user via the switch on the back.	minor
upsBatteryNeeds Replacement	17	The UPS batteries require immediate replacement.	critical
upsDiagnosticsFailed	3	Internal UPS self-test failed.	critical
upsDiagnosticsPassed	10	Internal UPS self-test passed.	informational
upsDipSwitchChanged	16	The UPS DIP switch settings have been changed.	minor
upsDischarged	4	The UPS batteries are discharged. If utility power fails an immediate low battery condition will exist. Sufficient runtime for necessary action cannot be guaranteed.	critical
upsOnBattery	5	The UPS is now providing battery backup power.	major
upsOverload	2	The UPS has sensed a load greater than 100% of its rated capacity.	critical

表 19: APC からのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
upsRebootStarted	15	The UPS has started the reboot sequence. The UPS will reboot itself at this time.	major
upsSleeping	13	The UPS is entering <i>sleep</i> mode.	major
upsTurnedOff	12	The UPS has been switched off by a management station.	major
upsTurnedOn	30	The UPS is turned on.	informational
upsWokeUp	14	The UPS has woken up from <i>sleep</i> mode. Power to the load has been restored.	informational

表 19: APC からのトラップ

5.3.3 ブレードシステムからのトラップ (s31.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.7244.1.1.1

ブレードシステムからのトラップです。

アラームタイプ	specific	説明	重要度
s31LivetimeError	1644	The lifetime of the blade system has exceeded the limited count.	informational
s31MgmtBladeAdded	1601	A management blade was added to the blade system.	informational
s31MgmtBladeCriticalError	1605	The management blade status at the blade system is critical.	critical

表 20: ブレードシステムからのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
s31MgmtBladeError	1604	The management blade status at the blade system is error.	major
s31MgmtBladeOk	1603	The management blade status at the blade system is ok.	informational
s31MgmtBladeRemoved	1602	A management blade was removed from the blade system.	informational
s31NicDetectionFail	1646	The management blade NIC detection has failed.	informational
s31PowerOverBudget	1645	The server blade at the blade system power on failed because of over power budget.	informational
s31ServerBladeAdded	1606	A server blade was added to the blade system.	informational
s31ServerBladeCritical Error	1610	The server blade status at the blade system is critical.	critical
s31ServerBladeError	1609	The server blade status at the blade system is error.	critical
s31ServerBladeHot Replace	1640	A server blade was added by hot replace.	informational
s31ServerBladeNewAdd	1639	A server blade was added on an empty slot of the blade system.	informational
s31ServerBladeOk	1608	The server blade status at the blade system is ok.	informational

表 20: ブレードシステムからのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
s31ServerBladeRemoved	1607	A server blade was removed from the blade system.	informational
s31ServerBootError	1633	No bootable operating system is found at the server blade of the blade system.	informational
s31ServerBootWatchdog Expired	1636	Boot watchdog at the server blade of the blade system was expired.	informational
s31ServerPostError	1632	The Power On Self Test status of the server blade at the blade system is error.	informational
s31ServerPowerOff	1641	The server blade was powered off.	informational
s31ServerPowerOn	1631	The server blade at the blade system is powered on.	informational
s31ServerShutdown	1634	The server blade at the blade system is shut down.	informational
s31ServerSoftware WatchdogExpired	1635	Software watchdog at the server blade of the blade system was expired.	informational
s31SwitchBladeAdded	1611	A switch blade was added to the blade system.	informational
s31SwitchBladeCritical Error	1615	The switch blade status at the blade system is critical.	critical

表 20: ブレードシステムからのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
s31SwitchBladeError	1614	The switch blade status at the blade system is error.	major
s31SwitchBladeOk	1613	The switch blade status at the blade system is ok.	informational
s31SwitchBladeRemoved	1612	A switch blade was removed from the blade system.	informational
s31SysFanAdded	1616	A system fan was added to the blade system.	informational
s31SysFanCriticalError	1620	The system fan status at the blade system is critical.	critical
s31SysFanError	1619	The system fan status at the blade system is error.	major
s31SysFanOk	1618	The system fan status at the blade system is ok.	informational
s31SysFanRemoved	1617	A system fan was removed from the blade system.	informational
s31SysPowerSupplyAdded	1626	A power supply unit was added to the blade system.	informational
s31SysPowerSupplyCriticalError	1630	The power supply unit status is critical.	critical
s31SysPowerSupplyError	1629	The power supply unit at the blade system failed.	major
s31SysPowerSupplyOk	1628	The power supply unit at the blade system is working again.	informational

表 20: ブレードシステムからのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
s31SysPowerSupplyRemoved	1627	A power supply unit was removed from the blade system.	informational
s31SysTempCriticalError	1623	The temperature at the system temperature sensor of the blade server has reached the critical level.	critical
s31SysTempError	1622	The temperature at the system temperature sensor of the blade server is out of normal range.	major
s31SysTempOk	1621	The temperature at the system temperature sensor of the blade server is within normal range.	informational
s31SysTempSensorAdded	1642	A system temperature sensor was added to the blade system.	informational
s31SysTempSensorBroken	1625	The system temperature sensor of the blade server is broken or not connected.	major
s31SysTempSensorOK	1624	The system temperature sensor of the blade server is working again.	informational
s31SysTempSensorRemoved	1643	A system temperature sensor was removed from the blade system.	informational
s31TestTrap	1600	A test trap was sent from the blade system (no error).	informational

表 20: ブレードシステムからのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
s31TrapEventLog	1638	An error was recorded on the blade system. See the server management event error log (Recovery) for detailed information.	major
s31UserAuthentication Failure	1637	An user authentication failure was detected at the blade system. Performing the protocol.	major

表 20: ブレードシステムからのトラップ

5.3.4 クラスターからのトラップ (NTCluster.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231

クラスターからのトラップです。

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sniWpChange ClusterActiveAgain	811	The SNMP agent has established the connection with the cluster service.	informational
sniWpChange ClusterNoLonger Active	812	The SNMP agent has lost the connection with the cluster service.	critical
sniWpChange ClusterNotFound Active	810	The SNMP agent has started the cluster service but could not communicate with it.	critical
sniWpChange GroupAdded	851	A new resource group was created.	informational
sniWpChange GroupDeleted	850	A resource group was deleted.	critical

表 21: クラスターからのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sniWpChange GroupProperty	853	The settings for a resource group have been changed.	major
sniWpChange GroupState	852	A resource group has changed its status.	major
sniWpChange NetInterfaceAdded	921	A new network interface was created.	informational
sniWpChange NetInterfaceDeleted	920	A network interface was deleted.	critical
sniWpChange NetInterfaceProperty	923	The settings for a network interface have been changed.	major
sniWpChange NetInterfaceState	922	A network interface has changed its status.	major
sniWpChange NetworkAdded	911	A network was added to the cluster.	informational
sniWpChange NetworkDeleted	910	A network was deleted from the cluster.	critical
sniWpChange NetworkProperty	913	The settings for a network have been changed.	major
sniWpChange NetworkState	912	A network has changed its status.	major
sniWpChange NodeAdded	831	A new node was added to the cluster.	informational
sniWpChange NodeDeleted	830	A node has been permanently deleted from the cluster.	informational
sniWpChange NodeState	832	A cluster node has changed its status.	major
sniWpChange RegistryAttributes	895	The registry attributes of the cluster were changed.	informational

表 21: クラスターからのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sniWpChange RegistryKey	896	A registry key of the cluster was created or deleted.	informational
sniWpChange RegistryValue	897	A registry value of a cluster was changed or deleted.	informational
sniWpChange ResourceAdded	861	A new resource was created in the cluster.	informational
sniWpChange ResourceDeleted	860	A cluster resource was deleted.	critical
sniWpChange ResourceProperty	863	The settings of a cluster resource have been changed.	major
sniWpChange ResourceState	862	A cluster resource has changed its status.	major
sniWpChange ResourceTypeAdded	841	A new type of resource was created.	informational
sniWpChange ResourceType Deleted	840	A resource type was deleted.	critical
sniWpChange Unknown	801	The cluster API has returned a note type that does not have an associated trap definition.	critical

表 21: クラスタからのトラップ

5.3.5 DPT からのトラップ (dptscsi.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.1597

DPT からのトラップです。

アラームタイプ	specific	説明	重要度
dptArrayCfgChangeTrap	12	Configuration of a RAID array changed due to one of the following events: <ul style="list-style-type: none"> – creating a new array – deleting an existing array – modifying an array (changing stripe size, etc.) 	informational
dptDevBlock ReassignedTrap	6	The HBA reassigned a block. <i>dptScsiDevBadBlockNumber</i> contains the reassigned block number.	informational
dptDevData InconsistentTrap	7	The RAID verify function found a data inconsistency. <i>dptScsiDevBadBlockNumber</i> and <i>dptScsiDevBadBlockCount</i> contains the starting block number and the number of blocks affected, respectively.	informational
dptDevError ThresholdHitTrap	8	The status of the particular device changed and the error count crossed the device crash threshold.	informational

表 22: DPT からのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
dptDevLocking StatusChangedTrap	10	Locking of drive started/stopped.	informational
dptDevReqSenseTrap	11	Request sense information received from the HBA.	informational
dptDevStatus ChangedTrap	9	Status of the SCSI device changed.	informational
dptHbaCorrected HardRAMErrorTrap	4	The HBA encountered an ECC RAM error and corrected it. <i>dptScsiHbaBadMemoryAddress</i> contains the RAM address.	informational
dptHbaSoftRAM ErrorTrap	3	The HBA encountered an ECC RAM error, but the error is not found on the physical disk block. <i>dptScsiHbaBadMemoryAddress</i> contains the RAM address.	informational
dptHbaTemperature ChangeTrap	2	Normal temperature restored on the HBA.	informational
dptHbaUnCorrectable HardRAMErrorTrap	5	The HBA encountered an ECC RAM error and could not correct it. <i>dptScsiHbaBadMemoryAddress</i> contains the RAM address.	informational
dptHbaVoltage ChangeTrap	1	Low voltage detected on the HBA.	informational
dptUnknownErrorTrap	13	An event has occurred as defined by the value of the object <i>dptScsiEventInfo</i> .	informational

表 22: DPT からのトラップ

5.3.6 DuplexDataManager からのトラップ (Ddm.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.10.2

DuplexDataManager からのトラップです。

アラームタイプ	specific	説明	重要度
FscDdmNewConfig	1400	DuplexWrite グループが新規作成されました。または既存の DuplexWrite グループに新しいディスクが追加されました。(ユーザによる操作)	informational
FscDdmPieceRemoved	1401	DuplexWrite からディスクが削除されました。(ユーザによる操作)	informational
FscDdmConfigRemoved	1402	DuplexWrite グループが削除されました。(ユーザによる操作)	informational
FscDdmStatusSet	1403	DuplexWrite ディスクのステータスが設定されました。(ユーザによる操作)	minor
FscDdmUpdateStatus	1404	DuplexWrite ディスクのステータスがアップデートされました。	minor
FscDdmPieceRecovered	1405	DuplexWrite グループの復旧が正常に完了しました。	informational
FscDdmRecoverAborted	1406	DuplexWrite グループの復旧処理が中止されました。	minor

表 23: DDM からのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
FscDdmReservationConflict	1407	Reservation conflict が発生しました。 DuplexWrite グループは利用できません。グループで、(初期化でなく) オペレーションの conflict が発生すると、エラーになります。	major
FscDdmConfigChanged	1408	構成の変更が検出されました。	informational
FscDdmConfigInvalidated	1409	DuplexWrite グループの構成が無効と判定されました。構成情報は、次回 DuplexWrite グループがこのクラスターエレメントにアクセスする際に再度読み込まれます。	informational
FscDdmActiveLunChanged	1410	DuplexWrite グループの特定のディスクが選択され、リードコマンドが使用されました。	informational
FscDdmPieceFailed	1411	DuplexWrite グループでエラーが検出されました。	critical
FscDdmRootFlagChanged	1412	DuplexWrite グループのルートディスクビヘイビアが変更されました。	informational

表 23: DDM からのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
FscDdmForceActive	1413	DuplexWrite グループのディスクの 1 つが、再起動時に強制活性されるようにマークされました。パートナーディスクはスナップショットとして利用できます。	informational
FscDdmNameChanged	1414	DuplexWrite グループの名前が変更されました。	informational
FscDdmPathFailed	1415	MultiPath グループの 1 つのパスでエラーが検出されました。	critical
FscDdmRetry	1416	MultiPath グループの 1 つのパスでエラーが検出されました。もう一方のパスでコマンドの再試行が成功しました。	major
FscDdmActivePortChanged	1417	MultiPath グループのアクティブパスが変更されました。	informational
FscDdmReconfigured	1418	MultiPath の構成が変更されました。	informational
FscDdmStatusChanged	1419	MultiPath のパスのステータスが変更されました。	informational
FscDdmAutoRecovered	1420	MultiPath グループのパスが有効になりました (自動復旧)。	informational
FscDdmErrorCleared	1421	MultiPath のパスのエラーが解消されました。	informational

表 23: DDM からのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
FscDdmPnPRemove	1422	Plug and Play Removal が検出されました。	informational
FscDdmPnPNew	1423	Plug and Play Add が検 出されました。	informational
FscDdmDdmCluster	1424	DuplexDataManager service により、クラス ター構成の変更が検出 されました。	informational

表 23: DDM からのトラップ

5.3.7 DuplexWrite からのトラップ (DW.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.10.2

DuplexWrite からのトラップです。

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sieDWActiveLunChan ged	1310	A user has changed the read path for a DuplexWrite group to a certain disk.	informational
sieDWConfig Changed	1308	The driver has reread the configuration and found a modified configuration.	informational
sieDWConfigInvalidat ed	1309	The DuplexWrite cluster service has invalidated the configuration information for a disk. The configuration information is reread before the next access of the disk on this cluster element.	informational

表 24: DuplexWrite からのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sieDWDiskRegistered	1351	A user has locked or released a disk for use with DuplexWrite by changing the registration. This setting has no effect on the driver until the system was restarted.	informational
sieDWConfigRemoved	1302	A user has removed a DuplexWrite group. The action was requested by the configuration utility.	informational
sieDWNewConfig	1300	A user has created a new DuplexWrite group or has added a disk to an existing DuplexWrite group as requested by the configuration utility.	informational
sieDWPieceFailed	1311	The driver has detected an error on one of the disks of a DuplexWrite group.	critical
sieDWPieceRecovered	1305	A DuplexWrite group was successfully recovered. Both elements of the DuplexWrite group have the status ONLINE.	informational
sieDWPieceRemoved	1301	A user has removed a disk from a DuplexWrite group. The action was requested by the configuration utility.	informational
sieDWRecoverAborted	1306	A user has aborted the recovery process of a DuplexWrite group.	minor

表 24: DuplexWrite からのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sieDWRefreshFinished	1350	The driver interface has updated the internal data structures.	informational
sieDWReservationConflict	1307	The driver has detected a reservation conflict. A whole DuplexWrite group is no longer accessible. This is not an error if it occurs during the initialization phase.	major
sieDWStatusSet	1303	A user has modified the status of a disk of a DuplexWrite group. The action was requested by the configuration utility.	minor
sieDWUpdateStatus	1304	The driver has updated the status of a DuplexWrite group.	minor

表 24: DuplexWrite からのトラップ

5.3.8 ハードディスク (S.M.A.R.T.) からのトラップ (Hd.mib)

ハードディスクからのトラップです。

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.10.2

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sniSMARTFailurePredicted	750	S.M.A.R.T. がハードディスクの故障を予測しました。	critical
sniSMARTMonitoringDisabled	751	S.M.A.R.T. の構成が変更されました。	informational

表 25: ハードディスクからのトラップ

5.3.9 SNMP 標準トラップ

SNMP 標準のトラップです。

アラームタイプ	specific	説明	重要度
coldStart	0	エージェントが再起動されました。MIB ビューオブジェクトが変更されたかもしれません。	minor
egpNeighborLoss	5	管理対象ノードの EGP 隣接のステートが UP から DOWN に変わりました。	major
linkDown	2	管理対象ノードのインターフェースのステートが UP から DOWN に変わりました。	critical
linkUp	3	管理対象ノードのインターフェースのステートが DOWN から UP に変わりました。	minor
warmStart	1	エージェントが再起動されました。オブジェクトは変更ありません。	minor

表 26: SNMP 標準のトラップ

5.3.10 MultiPath からのトラップ (mp.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.10.2

MultiPath からのトラップです。

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sieMP ActivePortChanged	1202	MultiPath グループのパスが有効または無効にされました。	informational

表 27: MultiPath からのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sieMPAutoRecovered	1205	エラーが発生していた MultiPath グループのパスが、自動復旧によりアクセス可能になりました。	informational
sieMPError	1200	MultiPath グループは現在 1 つのパスだけで構成されており、そのパスでエラーが検出されました。 MultiPath グループは使用できません。	critical
sieMPErrorCleared	1206	MultiPath グループのパスのエラーは解消されました。	informational
sieMPReconfigured	1203	MultiPath グループからパスが削除されました。または、 MultiPath グループにパスが追加されました。	informational
sieMPRetry	1201	MultiPath グループのパスでエラーが検出されました。もう一方のパスでコマンドの再試行が行われています。	critical
sieMPStatusChanged	1204	MultiPath グループの設定（自動復旧やロードバランスのオン／オフ、特定のパスの有効／無効）が変更されました。	informational

表 27: MultiPath からのトラップ

5.3.11 Mylex からのトラップ (Mylex.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.10.2

Mylex からのトラップです。

アラームタイプ	specific	説明	重要度
mylexAdapterDied	221	ディスクアレイコントローラとの接続が中断しました。	critical
mylexAutoRebuild Started	200	ユニットの自動リビルドが開始されました。	critical
mylexAutoRebuild Started2	222	システムドライブの自動リビルドが開始されました。	informational
mylexBBUFound	275	バッテリーバックアップユニットが見つかりました。	informational
mylexBBUPowerLow	276	バッテリーバックアップユニットの電源が低下しています。	critical
mylexBBUPowerOK	277	バッテリーバックアップユニットの電源は正常です。	informational
mylexGamDriver IncorrectVersion	262	間違ったバージョンの GAM ドライバがインストールされています。	minor
mylexGamDriverMissing	261	GAM ドライバがインストールされていないか、起動されていません。	minor
mylexInitialization Cancelled	231	システムドライブの初期化がキャンセルされました。	informational

表 28: Mylex からのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
mylexInitializationDone	230	システムドライブの初期化が正常に完了しました。	informational
mylexInitializationFailed	232	システムドライブの初期化に失敗しました。	major
mylexInitializationStarted	229	システムドライブの初期化が開始されました。	informational
mylexLogicalDriveCritical	215	論理ドライブが危険な状態です。RAID 構成のドライブの 1 つが故障しました。	major
mylexLogicalDriveOffline	214	論理ドライブがオフライン状態です。	critical
mylexLogicalDriveOnline	216	論理ドライブがオンライン状態です。	critical
mylexManualRebuildStarted	201	手動リビルドが開始されました。	informational
mylexManualRebuildStarted2	223	手動リビルドが開始されました。リビルドが正常に完了した後、 <i>mylexRebuildDone2</i> が送信されます。	informational
mylexParityCheckCancelled	210	パリティチェックがキャンセルされました。	informational
mylexParityCheckDone	209	パリティチェックが正常に完了しました。	informational
mylexParityCheckError	212	パリティチェックエラーが検出されました。	major
mylexParityCheckLogicalDriveFailed	213	パリティチェック：論理ドライブが故障しました。	major

表 28: Mylex からのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
mylexParityCheckStarted	208	パリティチェックが開始されました。	informational
mylexParityCheckStatus	211	パリティチェックのステータス。	informational
mylexPhysicalDevice Added	257	物理デバイスが追加されました。	informational
mylexPhysicalDevice Alive	218	物理デバイスがオンライン状態です。	informational
mylexPhysicalDevice Died	217	物理デバイスが停止しています。	critical
mylexPhysicalDevice HardError	251	物理デバイスで永久エラーが発生しました。	minor
mylexPhysicalDevice Hotspare	250	物理デバイスは現在ホットスペア状態です。	informational
mylexPhysicalDevice MiscError	254	物理デバイスで様々なエラーが発生しました。	minor
mylexPhysicalDevice ParityError	253	物理デバイスでパリティエラーが発生しました。	minor
mylexPhysicalDevice Prefailure	255	物理デバイスで障害予兆が報告されました。	major
mylexPhysicalDevice Removed	258	物理デバイスが取り外されました。	major
mylexPhysicalDevice SoftError	252	物理デバイスで標準エラー（ソフトエラー）が発生しました。	minor
mylexPhysicalDevice Unconfigured	256	物理デバイスが構成されていません。	minor
mylexRaidExpansion Done	236	RAID 容量拡張が正常に完了しました。	minor
mylexRaidExpansion Failed	237	RAID 容量拡張が失敗しました。	major

表 28: Mylex からのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
mylexRaidExpansion Started	235	RAID 容量拡張が開始 されました。	informational
mylexRaidTypeChanged	240	システムドライブの RAID タイプが変更さ れました。	informational
mylexRebuildCancelled	203	リビルドがキャンセル されました。	informational
mylexRebuildCancelled2	225	システムドライブのリ ビルドがキャンセルさ れました。	informational
mylexRebuildDone	202	リビルドが正常に完了 しました。	informational
mylexRebuildDone2	224	リシステムドライブの ビルドが正常に完了し ました。	informational
mylexRebuildError	205	リビルドエラーが検出 されました。	major
mylexRebuildError2	226	システムドライブでリ ビルドエラーが検出さ れました。	major
mylexRebuildLogical DriveFailed	207	ディスクアレイアダプ タでのリビルドが完了。 不良ブロックが検出 されました。	major
mylexRebuildLogical DriveFailed2	228	システムドライブのリ ビルド完了。サーバの システムドライブが故障 しました。	major
mylexRebuildNew DeviceFailed	206	リビルド完了。新規デ バイスが故障しまし た。	major
mylexRebuildNewDevice Failed2	227	システムドライブでリ ビルド完了。新規デバ イスが故障しました。	major

表 28: Mylex からのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
mylexRebuildStatus	204	リビルドのステータスです。	informational
mylexSMART ConfigurationChanged	271	S.M.A.R.T の構成が変更されました。	informational
mylexSMART FailurePredicted	270	物理ディスクについて、S.M.A.R.T. が故障の予兆をしました。	critical
mylexStateChange TableFull	220	キャッシュ状態変更テーブルが一杯です。最後の warm start 以降、あまりに多くの構成変更が行われました。	major
mylexSystemDriveBad Block	238	システムドライブで不良ブロックが検出されました。	minor
mylexSystemDrive Created	233	システムドライブが作成されました。	informational
mylexSystemDrive Deleted	234	システムドライブが削除されました。	informational
mylexSystemDrive SizeChanged	239	システムドライブのサイズが変更されました。	informational
mylexWriteBackError	219	コントローラーキャッシュライトバックエラー。	major
mylexWriteBackError2	260	コントローラーキャッシュライトバックエラー。	major

表 28: Mylex からのトラップ

5.3 トラップの概要

5.3.12 PCI HotPlug からのトラップ (pcihotplug.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.10.2

PCI HotPlug からのトラップです。

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sieDeviceHotPlugTrapHotAdd	1022	A SCSI device was added.	informational
sieDeviceHotPlugTrapHotRemoval	1020	A SCSI device was removed.	informational
sieDeviceHotPlugTrapHotReplace	1021	A SCSI device was replaced.	informational
siePciHotPlugTrapEndHotPlugAction	1002	The HotPlug action for the physical slot number held in <i>pciHotPlugTrapPhysicalSlotNumber</i> object was finished.	informational
siePciHotPlugTrapHotRemoval	1000	A Hot Removal action has been started.	informational
siePciHotPlugTrapHotReplace	1001	A Hot Replace action has been started.	informational

表 29: PCI HotPlug からのトラップ

5.3.13 PRIMEPOWER からのトラップ

PRIMEPOWER から送信されるトラップです。

ADICLIBMIB-V2 からのトラップ (ADICLIBMIB-v2.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.3764.3

アラームタイプ	specific	説明	重要度
doorStateChange	2	The door state has changed.	informational
error	6	The device has an error. Error code and error data is displayed.	informational

表 30: ADICLIBMIB からのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
mailboxStateChange	3	The mailbox state has changed.	informational
sac	7	The device has generated a SAC code.	informational
shutdown	5	The device has been shut down. The shutdown state is displayed.	informational
startup	4	The device was started. The shutdown state is displayed.	informational
statusChange	1	The status has changed. Previous status is displayed.	informational

表 30: ADICLIBMIB からのトラップ

DOMAIN-MIB からのトラップ (domagt.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.41

アラームタイプ	specific	説明	重要度
domNodeAdded	52	A client was added to domain.	informational
domNodeDeleted	53	A client was deleted.	informational
domNodeOffline	50	A client went offline.	informational
domNodeOnline	51	A client went online.	informational
domNoManagementServer	55	An agent was stopped.	informational
domStartTrap	54	An agent was started.	informational

表 31: DOMAIN-MIB からのトラップ

FSC-LOG3-MIB からのトラップ (log3v1.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.46.2

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
log3AlertNotice	2	A log3Event has occurred. System, module, error and text is displayed.	critical
log3CriticalNotice	3	A log3Event has occurred. System, module, error and text is displayed.	critical
log3DebugNotice	8	A log3Event has occurred. System, module, error and text is displayed.	informational
log3EmergencyNotice	1	A log3Event has occurred. System, module, error and text is displayed.	critical
log3ErrorNotice	4	A log3Event has occurred. System, module, error and text is displayed.	major
log3InformationalNotice	7	A log3Event has occurred. System, module, error and text is displayed.	informational
log3NoticeNotice	6	A log3Event has occurred. System, module, error and text is displayed.	informational
log3OtherNotice	9	A log3Event has occurred. System, module, error and text is displayed.	informational
log3WarningNotice	5	A log3Event has occurred. System, module, error and text is displayed.	minor

表 32: FSC-LOG3-MIB からのトラップ

UNISERV-MIB からのトラップ (uniserv.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.41

アラームタイプ	specific	説明	重要度
kaiPartitionOffline	700	A partition was powered off.	minor
kaiPartitionOnline	701	A partition was powered on.	informational

表 33: UNISERV-MIB からのトラップ

PRIMEPOWER-XSCF-MIB からのトラップ (primepower_xscf.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.211.1.15.2.1

アラームタイプ	specific	説明	重要度
scfAgentStart	5	XSCF agent has started.	informational
scfHardwareDefectRepair	7	A hardware defect was repaired.	minor
scfHardwareDefectSet	1	A hardware defect has occurred.	critical
scfHardwareDefectUnset	2	A hardware defect was reset.	informational
scfHardwareErrorRepair	6	A hardware error was repaired.	minor
scfHardwareErrorSet	3	A hardware error has occurred.	critical
scfHardwareErrorUnset	4	A hardware error was reset.	informational

表 34: PRIMEPOWER-XSCF-MIB からのトラップ

5.3 トラップの概要

FSC-HACL-MIB からのトラップ (v1_fscHaCl.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.42.2.0

アラームタイプ	specific	説明	重要度
fscHaClApplicationStateChanged	5	Application state has changed.	major
fscHaClClusterInfoAvailable	1	Cluster information is available. InfoOperScope is displayed.	informational
fscHaClClusterInfoNotAvailable	2	Cluster information is no longer available. InfoOperScope is displayed.	major
fscHaClMonitorStateChange	3	Cluster monitoring state has changed.	major
fscHaClResourceStateChange	6	Resource state has changed.	minor
fscHaClSystemStateChange	4	System state has changed.	critical

表 35: FSC-HACL-MIB からのトラップ

WSA-TRAP-MIB からのトラップ (wsatrap.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.41

アラームタイプ	specific	説明	重要度
testTrap	600	Test trap from server (no error).	informational
wsaAgentStart	5	WsaAgent has started.	informational
wsaControllerHardwareDefectSet	307	Defect on controller hardware has occurred.	critical
wsaControllerHardwareErrorSet	308	Error on controller hardware has occurred.	critical

表 36: WSA-TRAP-MIB からのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
wsaControllerRepair	309	Controller was repaired.	minor
wsaDefectRepair	7	A defect was repaired.	minor
wsaDROperationStarted	312	DR operation was started.	informational
wsaDROperationFinished	313	DR operation was terminated.	informational
wsaEnvironmentHardwareDefectSet	301	Defect on environment hardware has occurred.	critical
wsaEnvironmentHardwareErrorSet	302	Error on environment hardware has occurred.	critical
wsaEnvironmentRepair	303	Environment component was repaired.	minor
wsaErrorRepair	6	An error was repaired.	minor
wsaGenLogMessage	900	Error in one module on server has occurred.	informational
wsaGenLogMessageInfo	910	Error in one module on server has occurred.	informational
wsaGenLogMessageCritical	913	Error in one module on server has occurred.	critical
wsaGenLogMessageMajor	912	Error in one module on server has occurred.	major
wsaGenLogMessageMinor	911	Error in one module on server has occurred.	minor
wsaHardwareActiveSet	315	Hardware active was set.	informational
wsaHardwareDeactiveSet	314	Hardware deactive was set.	critical
wsaHWComponentAttached	316	Hardware component has been attached.	informational

表 36: WSA-TRAP-MIB からのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
wsaHWComponentDetached	317	Hardware component has been detached.	informational
wsaLarHardwareDefectSet	1	A hardware defect has occurred.	critical
wsaLarHardwareDefectUnset	2	A hardware defect was repaired.	informational
wsaLarHardwareErrorSet	3	A hardware error has occurred.	critical
wsaLarHardwareErrorUnset	4	A hardware error was repaired.	informational
wsaLUNStateChanged	101	State of LUN has changed.	critical
wsaMonitoringRuleInitialized	311	EEM rule was initialized.	minor
wsaMonitoringRuleMatched	310	EEM rule was matched.	informational
wsaNodeStatusIntegrated	24	A node was integrated.	informational
wsaNodeStatusNotavailable	25	A node is not available.	critical
wsaNodeStatusNotrunning	26	A node is not running.	critical
wsaRAIDControllerDefect	102	Defect on RAID controller has occurred.	critical
wsaRAIDDiskDefect	103	Defect on RAID disk has occurred.	critical
wsaStorageHardwareDefectSet	304	Defect on storage hardware has occurred.	critical
wsaStorageHardwareErrorSet	305	Error on storage hardware has occurred.	critical

表 36: WSA-TRAP-MIB からのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
wsaStorageRepair	306	Storage component was repaired.	minor

表 36: WSA-TRAP-MIB からのトラップ

5.3.14 PXRE からのトラップ (dec.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.36.2.15.21

PXRE からのトラップです。

アラームタイプ	specific	説明	重要度
cacheBatteryFailureTrap	7	A controller cache battery has failed. Replace cache battery or replenish charge.	major
cacheBattery InformationTrap	9	A controller cache battery has <i>GOOD</i> state.	informational
cacheBatteryLowTrap	8	A controller cache battery has <i>LOW</i> state. Replace cache battery or replenish charge.	minor
communication FailureTrap	12	Communication with the subsystem has failed. The Possible causes are data path interruption, communication LUN failure, 2 or more power supplies failed, 2 or more fans failed, temperature overlimit, both controllers failed.	critical
communicationInformationTrap	13	Communication with the subsystem has recovered.	informational

表 37: PXRE からのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
controllerFailureTrap	14	The Secondary Controller in the subsystem has failed. Replace controller. Possible causes are PCMCIA memory card ejected, controller physically removed, actual hardware failure.	major
controllerInformationTrap	15	The Secondary Controller in the subsystem has recovered.	informational
diskFailureTrap	1	A disk drive has failed. The location of the disk is indicated by the disk name. Replace the disk device. The numbers in the name indicate Port, Target, Lun behind the controller pair. Examples: <ul style="list-style-type: none">– DISK10100 is disk location Port 1, Target 01, Lun 00.– DISK30300 is disk location Port 3, Target 03, Lun 00.	major

表 37: PXRE からのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
diskInformationTrap	2	<p>A disk drive has recovered. The location of the disk is indicated by the disk name. The numbers in the name indicate Port, Target, Lun behind the controller pair.</p> <p>Examples:</p> <ul style="list-style-type: none"> – DISK10100 is disk location Port 1, Target 01, Lun 00. – DISK30300 is disk location Port 3, Target 03, Lun 00. 	informational
externalInputFailureTrap	20	The user-defined External Input to the EMU indicates a failure. If the state of the is <i>FAILURE</i> , then one of the user-defined external input devices is reporting a problem.	major
externalInputInformationTrap	21	The user-defined External Input to the EMU indicates a recovery.	informational
fanFailureTrap	5	The fan in the specified location has failed. Replace fan.	major
fanInformationTrap	6	The fan in the specified location was recovered.	informational

表 37: PXRE からのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
lunFailureTrap	16	The LUN has failed and is off-line. Possible cause is too many failed disk drives that make up the LUN, the OS can no longer communicate with the LUN for other reasons.	critical
lunInformationTrap	19	A LUN has become optimal due to successful completion of the reconstruction process.	informational
lunReconstructTrap	17	The LUN has started the reconstruction process but is available for normal use. Possible causes are an available disk drive was created as a spare to be inserted into the set, an existing spare was automatically added to the set for reconstruction upon failure of a member disk device.	minor
lunReducedTrap	18	A LUN has become degraded due to a member disk device failure. Replace the failed disk device; add a spare to the system to cause a reconstruct.	major

表 37: PXRE からのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
powerSupplyFailureTrap	3	The power supply in the specified location has failed. Replace power supply.	major
powerSupply InformationTrap	4	Power supply was recovered.	informational
temperature InformationTrap	11	A temperature sensor indicates temperature below <i>WARNING</i> threshold limit.	informational
temperatureOver ThresholdTrap	10	A temperature sensor has exceeded <i>WARNING</i> threshold limit. Lower environmental temperature or raise internal threshold limit depending upon application.	major

表 37: PXRE からのトラップ

5.3.15 RAID Adapter からのトラップ (Megaraid.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.16.1.1.200

RAID Adapter からのトラップです。

アラームタイプ	specific	説明	重要度
rtBatteryMissing	9020	Adapter-%d: Battery Module is missing.	informational
rtBattery TemperatureHigh	9022	Adapter-%d: Battery Module temperature exceeded Danger Threshold.	informational
rtBatteryVolatageLow	9021	Adapter-%d: Battery Module voltage is low.	informational

表 38: RAID Adapter からのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
rtCheck ConditionStatus	9018	Adapter-%d, Channel-%d, Target-%d: Command completed with Sense_Key-0x%x ASC-0x%x ASCQ-0x%x.	informational
rtCheck ConsistencyAborted	9010	Adapter-%d, Logical Drive-%d: Check consistency aborted by user.	informational
rtCheck ConsistencyCompleted	9009	Adapter-%d, Logical Drive-%d: Check Consistency completed. No inconsistencies found.	informational
rtCheck ConsistencyFailed	9012	Adapter-%d, Logical Drive-%d: Check consistency failed.	informational
rtCheck ConsistencyStarted	9008	Adapter-%d, Logical Drive-%d: Check consistency started.	informational
rtConfigUpdated	9001	Adapter-%d: A new configuration has been written.	informational
rtConsistency Corrected	9011	Adapter-%d, Logical Drive-%d: Check consistency operation completed. Inconsistencies have been cured.	informational
rtInitializeAborted	9006	Adapter-%d, Logical Drive-%d: Initialization aborted by user.	informational
rtInitializeCompleted	9005	Adapter-%d, Logical Drive-%d: Initialization completed successfully.	informational

表 38: RAID Adapter からのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
rtInitializeFailed	9007	Adapter- <i>%d</i> , Logical Drive- <i>%d</i> : Initialization failed.	informational
rtInitializeStarted	9004	Adapter- <i>%d</i> , Logical Drive- <i>%d</i> : Initialization started.	informational
rtLogicalDrive StateChange	9003	Adapter- <i>%d</i> , Logical Drive- <i>%d</i> : State changed from <i>%s</i> to <i>%s</i> .	informational
rtNewDriveInserted	9019	Adapter- <i>%d</i> , Channel- <i>%d</i> , Target- <i>%d</i> : New device inserted.	informational
rtPhysicalDrive StateChange	9002	Adapter- <i>%d</i> , Channel- <i>%d</i> , Target- <i>%d</i> : Drive state changed from <i>%s</i> to <i>%s</i> .	informational
rtPredictiveFailures Exceeded	9016	Adapter- <i>%d</i> , Channel- <i>%d</i> , Target- <i>%d</i> : Reported predictive failure. Drive identification string = <i>%s</i> Sense Key = <i>0x%ax</i> , ASC = <i>0x%ax</i> , ASCQ = <i>0x%ax</i> .	informational
rtPredictiveFailures False	9017	Adapter- <i>%d</i> , Channel- <i>%d</i> , Target- <i>%d</i> : Reported failure prediction threshold exceeded [<i>FALSE</i>]. Drive identification string = <i>%s</i> Sense Key = <i>0x%ax</i> , ASC = <i>0x%ax</i> , ASCQ = <i>0x%ax</i> .	informational
rtReconstruction Completed	9014	Adapter- <i>%d</i> , Logical Drive- <i>%d</i> : Reconstruction completed successfully.	informational

表 38: RAID Adapter からのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
rtReconstructionFailed	9015	Adapter-%d, Logical Drive-%d: Reconstruction failed.	informational
rtReconstruction Started	9013	Adapter-%d, Logical Drive-%d: Reconstruction started.	informational

表 38: RAID Adapter からのトラップ

5.3.16 RomPilot からのトラップ (Rompilot.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.2487

RomPilot からのトラップです。

アラームタイプ	specific	説明	重要度
RomPilotColdReset	258	Phoenix RomPilot was loaded after a cold system reset.	informational
RomPilot DiagnosticReset	259	Phoenix RomPilot was loaded after a diagnostic system reset.	informational
RomPilotFatalError	769	Phoenix RomPilot detected a fatal error.	informational
RomPilotGenericBoot	512	Phoenix RomPilot announces a generic boot (about to load OS).	informational
RomPilotIDEBootReset	260	Phoenix RomPilot was loaded after an IDE Boot system reset.	informational
RomPilotOSStarted	1280	Phoenix RomPilot announces, that the OS has been started.	informational
RomPilot PostWarningError	771	Phoenix RomPilot detected a post warning error.	informational

表 39: ROMPilot からのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
RomPilotPressF1	770	Phoenix RomPilot is running and needs a [F1] key press to continue.	informational
RomPilot UnspecifiedReset	256	Phoenix RomPilot was loaded after an unspecified system reset (assume cold reset).	informational
RomPilotWarmReset	257	Phoenix RomPilot was loaded after a warm system reset.	informational

表 39: ROMPilot からのトラップ

5.3.17 ServerControl からのトラップ (SC.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.10.2

ServerControl (ServerView エージェント (Windows 版 V3.11 以前、Linux 版 V4.10 以前)、BMC) からのトラップです。

アラームタイプ	specific	説明	重要度
cabinetNotConfigured	623	キャビネットが構成されていません。	informational
cabinetSwitchedOff	617	キャビネットの電源が切断されました。	informational
cabinetSwitchedOn	618	キャビネットの電源が投入されました。	informational
correctableMemError	643	訂正可能なメモリエラーが発生しました。	minor
correctableMemError Addr	637	訂正可能なメモリエラーが <i>address</i> で発生しました。	minor
correctableMemError Bank	639	訂正可能なメモリエラーが <i>bank</i> で発生しました。	minor

表 40: ServerControl からのトラップ (SC.mib)

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
correctableMemError Module	641	訂正可能なメモリエラーが <i>module</i> で発生しました	minor
fanCriticalError	622	ファンが危険な状態です。近い将来故障の可能性あります。	informational
fanError	601	ファンが故障しました。	critical
fanOk	629	ファンは正常です。	informational
frontDoorStatusChanged	646	フロント扉の状態が変化しました。	informational
housingOpenStatus Changed	647	筐体カバーの状態が変化しました。	informational
internalError	620	サーバ管理コントローラーで内部エラーが発生しました。	informational
memErrorModuleFailing	669	メモリモジュールが故障しました。	major
memErrorModule Prefailure	668	メモリモジュールの故障が予測されます（故障予兆）。	major
memErrorModule Replaced	670	メモリモジュールが故障し、ホットスワップメモリに切り替わりました。	major
notEnoughCabinets	615	拡張記憶装置の実際の数、構成されている数を下回っています。	major
powerOffTimeReached	645	電源切断時刻になりました。	informational
powerSupplyAdded	625	電源装置が取り付けられました。	informational
powerSupplyFailed	626	電源装置が故障しました。	major

表 40: ServerControl からのトラップ (SC.mib)

アラームタイプ	specific	説明	重要度
powerSupplyOk	627	電源装置が動作を再開しました。	informational
powerSupplyRemoved	624	電源装置が取り外されました。	informational
powerSupplyStatus Critical	628	電源装置の稼動が不十分です。	critical
scbBBUNotdetected	614	BBU が構成されていますが、BBU は検出されませんでした。	informational
scbUnconfiguredBBU Detected	613	BBU が検出されましたが、BBU は構成されていません。	informational
scbUnconfiguredUPS Detected	611	UPS が検出されましたが、UPS は構成されていません。	informational
scbUPSNotdetected	612	UPS が構成されていますが、UPS は検出されませんでした。	major
selftestError	609	サーバ管理コントローラーが故障しました。	critical
selftestWarning	608	セルフテスト中、サーバ管理コントローラーにより軽度の問題が検出されました。	minor
serverManagement Disabled	631	サーバ管理 BIOS が無効です。	informational
serverShutdown	621	サーバがシャットダウンされました。	informational
sieScBootCountZero	666	電源 ON 時にブートリトライカウンタが 0 になりました。	major
sieScBootError	661	ブート可能な OS が見つかりません。	informational

表 40: ServerControl からのトラップ (SC.mib)

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sieScBootWatchdogExpired	662	ブート watchdog が期限切れです。	informational
sieScCpuPrefailure	673	A CPU is predicted to fail (prefailure). CPU の故障が予測されます (故障予兆)。	major
sieScDiagnosticBoot	665	サーバはリセットされ、診断ブートが可能になりました。	informational
sieScMessageLogFull	667	システムイベントログが一杯になりました。これ以上のメッセージはロギングできません。wrap-around ログタイプではこのトラップは発行されません。	minor
sieScMessageLogWarning	672	システムイベントログエントリ数が、警告閾値を超えました。	minor
sieScNoBootCpu	658	有効なブート CPU が見つからないため、システムブートが失敗しました。	informational
sieScPostError	659	電源投入セルフテスト (POST) でエラーが検出されたため、システムブートが失敗しました。	informational
sieScPowerFail	674	特定のキャビネットで DC 電源が故障しました。この状態が発生すると、システムが停止する可能性があります。	critical
sieScPowerOn	657	サーバに電源が投入されました。	informational

表 40: ServerControl からのトラップ (SC.mib)

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sieScSetupEntered	660	BIOS セットアップが開始されました。	informational
sieScSoftwareWatchdog Expired	663	ソフトウェア watchdog が期限切れになりました。	informational
sieScUserAuthentication Failure	664	PPP、FTP、HTTP または telnet で、ユーザ認証失敗が検出されました。	major
sniScCpuSpeedChanged	656	CPU 温度が高温となったため、CPU スピードが変更されました。	informational
sniScFanAdded	653	指定されたホットプラグファンが取り付けられました。	informational
sniScFanRemoved	654	指定されたホットプラグファンが取り外されました。	informational
sniScPowerSupply RedundancyLost	671	電源の冗長性が失われました。	minor
sniScRedundant FanFailed	648	指定された冗長ファンが故障しました。	major
sniScRedundant PowerSupplyFailed	649	冗長ホットリプレース電源が故障しました。	major
sniScShutdown Cancelled	655	サーバのシャットダウンがユーザによりキャンセルされました。	informational
sniScVoltageOk	650	電源装置の電圧が再び正常範囲内に戻りました。	informational
sniScVoltageTooHigh	652	電源装置の電圧が高すぎます。	critical

表 40: ServerControl からのトラップ (SC.mib)

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sniScVoltageTooLow	651	電源装置の電圧が低すぎます。	critical
svCommunicationEstablished	636	サーバ管理コントローラーとの通信が確立されました。	informational
svCommunicationFailure	610	サーバ管理コントローラーとの通信が切断されました。	critical
tempCritical	604	温度が危険レベルに達しました。	critical
tempOk	602	温度は正常範囲内です。	informational
tempSensorBroken	630	温度センサが故障しているか、接続されていません。	major
tempSensorOk	635	温度センサが動作を再開しました。	informational
tempWarn	603	温度が警告レベルに達しました。	major
testTrap	600	トラップ接続を確認するためのテストトラップです。	informational
tooManyCabinets	616	ストレージの実際の数 が、構成されている数 を超えています。	minor
trapAcFail	632	AC 電源が故障しました。	critical
trapDuplicateCabinetId	633	2 つまたはそれ以上の キャビネット（サーバ またはストレージ）が 同じ ID を持っています。	major

表 40: ServerControl からのトラップ (SC.mib)

アラームタイプ	specific	説明	重要度
trapEventLog	634	エラーが記録されました。詳細は、サーバ管理のイベント／エラーログ（復旧）をご覧ください。このイベントは、サーバ管理エージェント起動前にエラーが発生した場合や、特定のトラップがないエラーの場合に発生する可能性があります。	major
trapOnBattery	606	AC 電源が故障しています。キャビネットはバッテリー電源で作動しています。UPS はバッテリー電源またはバックアップ電源ユニット（BBU）からの電流で作動しています。このトラップは、メイン電源が復活するか、システムの電源が切断されるまで、1 分おきに繰り返し送信されます。	critical
trapOnMains	607	AC 電源は正常です。	informational
uncorrectableMemError	644	訂正不可能なメモリエラーが発生しました。	critical
uncorrectableMemErrorAddr	638	訂正不可能なメモリエラーが <i>address</i> で発生しました。	critical
uncorrectableMemErrorBank	640	訂正不可能なメモリエラーが <i>bank</i> で発生しました。	critical

表 40: ServerControl からのトラップ (SC.mib)

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
uncorrectableMemError Module	642	訂正不可能なメモリエラーが <i>module</i> で発生しました。	critical

表 40: ServerControl からのトラップ (SC.mib)

5.3.18 ServerControl からのトラップ (SC2.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.10.2.2.10.20

ServerControl (ServerView エージェント (Windows 版 V4.10 以前、Linux 版 V4.11-06 以降)) からのトラップです。

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sc2TrapAcFail	2040	特定のキャビネットでメイン電源が故障しました。このトラップは、UPS または BBU を持たない拡張記憶装置でのみ発生します。サーバにはこのトラップを送信するだけの時間がありません。	critical
sc2TrapBatteryVoltage Prefail	2054	バッテリーの故障が予測されます。	major
sc2TrapBiosSelftest Error	2005	BIOS セルフテスト中に重大なエラーが発生しました。このエラーに注目し、エラーの原因を解決してください。	critical

表 41: ServerControl からのトラップ (SC2.mib)

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sc2TrapBootMessage LogEntry	2102	エラーメッセージがシステムボードのメッセージログに記録されました。このイベントは、サーバ管理エージェント起動前にエラーが発生した場合や、特定のトラップがないエラーの場合に発生する可能性があります。詳細はサーバ管理メッセージログをご覧ください。	major
sc2TrapBootRetryCount Zero	2095	電源 ON 時にブートリトライカウンタが 0 になりました。	major
sc2TrapCabinetSwitchedOff	2090	キャビネットの電源が切断されました。メインキャビネットの電源が切断された場合は、このメッセージは送信されません。	informational
sc2TrapCabinetSwitchedOn	2091	キャビネットの電源が投入されました。	informational
sc2TrapCommunication Established	2002	サーバ管理コントローラーとの通信が再び確立されました。	informational
sc2TrapCommunication Failure	2001	サーバ管理コントローラーとの通信が切断されました。	minor
sc2TrapControllerSelftestError	2004	サーバ管理コントローラーのセルフテスト中にエラーが発生しました。	critical

表 41: ServerControl からのトラップ (SC2.mib)

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sc2TrapControllerSelftestWarning	2003	サーバ管理コントローラーのセルフテストの警告です。	minor
sc2TrapCorrectableMemErrorAddr	2060	特定のアドレスで訂正可能なメモリエラーが検出されました。	informational
sc2TrapCorrectableMemErrorBank	2062	特定のバンクで訂正可能なメモリエラーが検出されました。	informational
sc2TrapCorrectableMemErrorModule	2064	特定のモジュールで訂正可能なメモリエラーが検出されました。	informational
sc2TrapCorrectableMemError	2066	場所は特定できませんが、訂正可能なメモリエラーが検出されました。	informational
sc2TrapCpuPrefail	2081	CPU の故障が予測されます（故障予兆）。	major
sc2TrapCpuSpeedChanged	2080	CPU 温度が高温となったため、CPU クロック周波数が変更されました。	informational
sc2TrapDcFail	2041	特定のキャビネットで DC 電源が故障しました。 これはシステムの電源センサ監視の結果です。このエラーが発生すると、システムが停止されます。	critical
sc2TrapFanAdded	2010	指定されたホットプラグファンが取り付けられました。	informational

表 41: ServerControl からのトラップ (SC2.mib)

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sc2TrapFanCritical	2013	指定されたファンが、近い将来故障する可能性があります。	major
sc2TrapFanFailed	2014	指定されたファンが故障しました。	critical
sc2TrapFanOk	2012	指定されたファンが正常に戻りました。	informational
sc2TrapFanRemoved	2011	指定されたホットプラグファンが取り外されました	informational
sc2TrapIntrusionAssertion	2110	フロント扉または筐体カバーが開かれました。	major
sc2TrapIntrusionChanged	2112	フロント扉または筐体カバーが開かれる、または閉じられました。	major
sc2TrapIntrusionDeassertion	2111	フロント扉または筐体カバーが閉じられました。	informational
sc2TrapMemErrorModuleFailing	2069	メモリモジュールが故障しました。	major
sc2TrapMemErrorModulePrefail	2068	メモリモジュールの故障が予測されます（故障予兆）。	major
sc2TrapMemErrorModuleReplaced	2070	メモリモジュールが故障し、ホットスワップメモリに切り替えられました。	major

表 41: ServerControl からのトラップ (SC2.mib)

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sc2TrapMessageLogFull	2100	システムイベントログ（メッセージログ）が一杯になりました。これ以上のメッセージはロギングできません。 wrap-around ログタイプではこのトラップは発行されません。	minor
sc2TrapMessageLogWarning	2101	システムイベントログエントリ数が、警告閾値を超えました。	minor
sc2TrapOnBattery	2042	UPS はバッテリー電源またはバックアップ電源ユニット（BBU）からの電流で作動しています。このトラップは、メイン電源が復活するか、システムの電源が切断されるまで、 1 分おきに繰り返し送信 されます。	critical
sc2TrapOnMains	2043	停電後、主電源が回復しました。	informational
sc2TrapPowerOffTimeReached	2092	電源切断時間になりました。	informational
sc2TrapPowerSupplyAdded	2030	1 台のホットリプレース電源 が取り付けられました。	informational
sc2TrapPowerSupplyCritical	2033	電源の状態が危険な状態に近づいています。	critical
sc2TrapPowerSupplyFailed	2034	1 台のホットリプレース電源 が故障しました。	major
sc2TrapPowerSupplyOk	2032	電源が動作を再開しました。	informational

表 41: ServerControl からのトラップ (SC2.mib)

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sc2TrapPowerSupplyRedundancyLost	2036	電源の冗長性 ID が無効になりました。	minor
sc2TrapPowerSupplyRemoved	2031	1 台のホットリブレース電源が取り外されました。	informational
sc2TrapRedundantFanFailed	2015	指定された冗長ファンが故障しました。	major
sc2TrapRedundantPowerSupplyFailed	2035	1 台のホットリブレース電源が故障しました。	major
sc2TrapServerShutdown	2093	サーバの電源切断を予告するメッセージです。	informational
sc2TrapSevereSystemError	2006	重要問題発生後、システムが再起動されました。詳細情報は、サーバ管理メッセージログ (復旧ログ) をご覧ください。	critical
sc2TrapShutdownCancelled	2094	サーバのシャットダウンがユーザによりキャンセルされました。	informational
sc2TrapTempCritical	2022	指定した温度センサで温度が危険レベルに達しました。可能であればシステムがシャットダウンされ、電源が切断されます。	critical
sc2TrapTempOk	2020	指定した温度センサで温度が正常範囲内に戻りました。	informational
sc2TrapTempSensorOk	2023	故障した温度センサが正常に戻りました。	informational
sc2TrapTempSensorBroken	2024	指定した温度センサが故障しました。	major

表 41: ServerControl からのトラップ (SC2.mib)

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sc2TrapTempWarning	2021	指定した温度センサで温度が警告レベルに達しました。	major
sc2TrapTest	2000	トラップ接続を確認するためのテストトラップです。	informational
sc2TrapUncorrectableMemError	2067	場所は特定できませんが、訂正不可能なメモリエラーが検出されました。	critical
sc2TrapUncorrectableMemErrorAddr	2061	特定のアドレスで訂正不可能なメモリエラーが検出されました。	critical
sc2TrapUncorrectableMemErrorBank	2063	特定のバンクで訂正不可能なメモリエラーが検出されました。	critical
sc2TrapUncorrectableMemErrorModule	2065	特定のモジュールで訂正不可能なメモリエラーが検出されました。	critical
sc2TrapVoltageOk	2050	電源装置の電圧が再び正常範囲内に戻りました。	informational
sc2TrapVoltageFailed	2053	電源装置の電圧が既定値外です。	critical
sc2TrapVoltageTooHigh	2052	電源装置の電圧が高すぎます。	critical
sc2TrapVoltageTooLow	2051	電源装置の電圧が低すぎます。	critical

表 41: ServerControl からのトラップ (SC2.mib)

5.3.19 ServerView からのトラップ (ServerView.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.10.2

ServerView からのトラップです。

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sniSvGenericTrap Forward	700	ServerView のアラーム信号を受信しました。	informational
sniSvPagerOff	701	ポケットベルが電源切断されます。	informational
sniSvPassThrough TrapForward	703	イベントマネージャによって転送されたトラップです。オリジナルのサーバ名と重要度は保持されます。	informational
sniSvServerState Changed	702	サーバの状態（管理可能／不可能）が変更されたときに、Operations Manager によって生成されます。	informational

表 42: ServerView からのトラップ

5.3.20 ServerView ステータスからのトラップ (Status.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.10.2

ServerView ステータスからのトラップです。

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sieStTrapStatusChanged	1100	サーバでシステムの状態が変わりました。	informational

表 43: ServerView status からのトラップ

5.3 トラップの概要

5.3.21 テープドライブからのトラップ (tapeAlert.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.11.2.3.9.7.1

テープドライブからのトラップです。

アラームタイプ	specific	説明	重要度
tapeAlertTrap1	1	The tape drive is having problems reading data. No data has been lost, but there has been a reduction in the performance of the tape.	minor
tapeAlertTrap2	2	The tape drive is having problems writing data. No data has been lost, but there has been a reduction in the capacity of the tape.	minor
tapeAlertTrap3	3	The operation has stopped because an error has occurred while reading or writing data which the drive cannot correct.	minor
tapeAlertTrap4	4	Your data is at risk: <ol style="list-style-type: none">1. Copy any data you require from this tape.2. Do not use this tape again.3. Restart the operation with a different tape.	critical
tapeAlertTrap5	5	The tape is damaged or the drive is faulty. Call the tape drive supplier helpline.	critical

表 44: テープドライブからのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
tapeAlertTrap6	6	<p>The tape is from a faulty batch or the tape drive is faulty:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Use a good tape to test the drive. 2. If the problem persists, call the tape drive supplier helpline. 	critical
tapeAlertTrap7	7	<p>The tape cartridge has reached the end of its calculated useful life:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Copy any data you need to another tape 2. Discard the old tape. 	minor
tapeAlertTrap8	8	<p>The tape cartridge is not data-grade. Any data you back up to the tape is at risk. Replace the cartridge with a data-grade tape.</p>	minor
tapeAlertTrap9	9	<p>You are trying to write to a write-protected cartridge. Remove the write-protection or use another tape.</p>	critical
tapeAlertTrap10	10	<p>You cannot eject the cartridge because the tape drive is in use. Wait until the operation is complete before ejecting the cartridge.</p>	informational
tapeAlertTrap11	11	<p>The tape in the drive is a cleaning cartridge. If you want to back up or restore, insert a data-grade tape.</p>	informational

表 44: テープドライブからのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
tapeAlertTrap12	12	You have tried to load a cartridge of a type which is not supported by this drive.	informational
tapeAlertTrap13	13	The operation has failed because the tape in the drive has snapped: 1. Discard the old tape. 2. Restart the operation with a different tape.	critical
tapeAlertTrap14	14	The operation has failed because the tape in the drive has snapped: 1. Do not attempt to extract the tape cartridge. 2. Call the tape drive supplier helpline.	critical
tapeAlertTrap15	15	The memory in the tape cartridge has failed, which reduces performance. Do not use the cartridge for further backup operations.	minor
tapeAlertTrap16	16	The operation has failed because the tape cartridge was manually ejected while the tape drive was actively writing or reading.	critical
tapeAlertTrap17	17	You have loaded a cartridge of a type that is read-only in this drive. The cartridge will appear as write-protected.	minor

表 44: テープドライブからのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
tapeAlertTrap18	18	The directory on the tape cartridge has been corrupted. File search performance will be degraded.	minor
tapeAlertTrap19	19	The tape cartridge is nearing the end of its useful life. It is recommended that you: <ol style="list-style-type: none"> 1. Use another tape cartridge for your next backup. 2. Store this tape cartridge in a safe place in case you need to restore data from it. 	informational
tapeAlertTrap20	20	The tape drive needs cleaning: <ol style="list-style-type: none"> 1. If the operation has stopped, eject the tape and clean the drive. 2. If the operation has not stopped, wait for it to finish and then clean the drive. 	critical
tapeAlertTrap21	21	The tape drive is due for routine cleaning: <ol style="list-style-type: none"> 1. Wait for the current operation to finish. 2. Then use a cleaning cartridge. 	minor

表 44: テープドライブからのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
tapeAlertTrap22	22	The last cleaning cartridge used in the tape drive has worn out: <ol style="list-style-type: none">1. Discard the worn out cleaning cartridge.2. Wait for the current operation to finish.3. Then use a new cleaning cartridge.	critical
tapeAlertTrap23	23	The last cleaning cartridge used in the tape drive was an invalid type: <ol style="list-style-type: none">1. Do not use this cleaning cartridge in this drive.2. Wait for the current operation to finish.3. Then use a valid cleaning cartridge.	critical
tapeAlertTrap29	29	Preventive maintenance of the tape drive is required. Check the tape drive users manual for device specific preventive maintenance tasks or call the tape drive supplier helpline.	minor
tapeAlertTrap30	30	The tape drive has a hardware fault: <ol style="list-style-type: none">1. Eject the tape or magazine.2. Reset the drive.3. Restart the operation.	critical

表 44: テープドライブからのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
tapeAlertTrap31	31	<p>The tape drive has a hardware fault:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Turn the tape drive off and then on again. 2. Restart the operation. 3. If the problem persists, call the tape drive supplier helpline. 	critical
tapeAlertTrap32	32	<p>The tape drive has a problem with the host interface:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Check the cables and cable connections. 2. Restart the operation. 	minor
tapeAlertTrap33	33	<p>The operation has failed:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Eject the tape or magazine. 2. Insert the tape or magazine again. 3. Restart the operation. 	critical
tapeAlertTrap34	34	<p>The firmware download has failed because you have tried to use the incorrect firmware for this tape drive. Obtain the correct firmware and try again.</p>	minor
tapeAlertTrap35	35	<p>Environmental conditions inside the tape drive are exceeding the humidity specifications.</p>	minor

表 44: テープドライブからのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
tapeAlertTrap36	36	Environmental conditions inside the tape drive are exceeding the temperature specifications.	minor
tapeAlertTrap37	37	The voltage supply to the tape drive exceeds specifications.	minor
tapeAlertTrap38	38	A hardware failure of the tape drive is predicted. Call the tape drive supplier helpline.	critical
tapeAlertTrap39	39	The tape drive may have a hardware fault. Run extended diagnostics to verify and diagnose the problem. Check the tape drive users manual for device specific instructions on running extended diagnostic tests.	minor
tapeAlertTrap40	40	The changer mechanism is having difficulty communicating with the tape drive: <ol style="list-style-type: none">1. Turn the autoloader off then on.2. Restart the operation.3. If problem persists, call the tape drive supplier helpline.	critical

表 44: テープドライブからのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
tapeAlertTrap41	41	<p>A tape has been left in the autoloader by a previous hardware fault:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Insert an empty magazine to clear the fault. 2. If the fault does not clear, turn the autoloader off and then on again. 3. If the problem persists, call the tape drive supplier helpline. 	critical
tapeAlertTrap42	42	<p>There is a problem with the autoloader mechanism.</p>	minor
tapeAlertTrap43	43	<p>The operation has failed because the autoloader door is open:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Clear any obstructions from the autoloader door. 2. Eject the magazine and then insert it again. 3. If the fault does not clear, turn the autoloader off and then on again. 4. If the problem persists, call the tape drive supplier helpline. 	critical

表 44: テープドライブからのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
tapeAlertTrap44	44	The autoloader has a hardware fault: 1. Turn the autoloader off and then on again. 2. Restart the operation. 3. If the problem persists, call the tape drive supplier helpline.	critical
tapeAlertTrap45	45	The autoloader cannot operate without the magazine. 1. Insert the magazine into the autoloader. 2. Restart the operation.	critical
tapeAlertTrap46	46	A hardware failure of the changer mechanism is predicted. Call the tape drive supplier helpline.	minor
tapeAlertTrap256	256	The library mechanism is having difficulty communicating with the drive: 1. Turn the library off then on. 2. Restart the operation. 3. If problem persists, call the library supplier helpline.	critical
tapeAlertTrap257	257	There is a problem with the library mechanism. If problem persists, call the library supplier helpline.	minor

表 44: テープドライブからのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
tapeAlertTrap258	258	<p>The library has a hardware fault:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Reset the library. 2. Restart the operation. <p>Check the library users manual for device specific instructions on resetting the device.</p>	critical
tapeAlertTrap259	259	<p>The library has a hardware fault:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Turn the library off and then on again. 2. Restart the operation. 3. If the problem persists, call the library supplier helpline. Check the library users manual for device specific instructions on turning the device power on and off. 	critical
tapeAlertTrap260	260	<p>The library mechanism may have a hardware fault. Run extended diagnostics to verify and diagnose the problem. Check the library users manual for device specific instructions on running extended diagnostic tests.</p>	minor
tapeAlertTrap261	261	<p>The library has a problem with the host interface:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Check the cables and cable connections. 2. Restart the operation. 	critical

表 44: テープドライブからのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
tapeAlertTrap262	262	A hardware failure of the library is predicted. Call the library supplier helpline.	minor
tapeAlertTrap263	263	Preventative maintenance of the library is required. Check the library users manual for device specific preventative maintenance tasks, or call your library supplier helpline.	minor
tapeAlertTrap264	264	General environmental conditions inside the library have exceeded the humidity specifications.	critical
tapeAlertTrap265	265	General environmental conditions inside the library have exceeded the temperature specifications.	critical
tapeAlertTrap266	266	The voltage supply to the library exceeds specifications. There is a potential problem with the power supply or failure of a redundant power supply.	critical

表 44: テープドライブからのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
tapeAlertTrap267	267	<p>A cartridge has been left in a drive inside the library by a previous hardware fault:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Insert an empty magazine to clear the fault. 2. If the fault does not clear, turn the library off and then on again. 3. If the problem persists, call the library supplier helpline. 	critical
tapeAlertTrap268	268	There is a potential problem with a drive ejecting cartridges short or with the library mechanism picking a cartridge from a slot. If the problem persists, call the library supplier helpline.	minor
tapeAlertTrap269	269	There is a potential problem with the library mechanism placing a cartridge into a slot. If the problem persists, call the library supplier helpline.	minor
tapeAlertTrap270	270	There is a potential problem with a drive or the library mechanism loading cartridges, or an incompatible cartridge.	minor

表 44: テープドライブからのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
tapeAlertTrap271	271	The operation has failed because the library door is open: 1. Clear any obstructions from the library door. 2. Close the library door. 3. If the problem persists, call the library supplier helpline.	critical
tapeAlertTrap272	272	There is a mechanical problem with the library media import/export mailslot.	critical
tapeAlertTrap273	273	The library cannot operate without the magazine. 1. Insert the magazine into the library. 2. Restart the operation.	critical
tapeAlertTrap274	274	Library security has been compromised.	minor
tapeAlertTrap275	275	The security mode of the library has been changed. The library has either been put into secure mode, or the library has exited the secure mode.	informational
tapeAlertTrap276	276	The library has been manually turned offline and is unavailable for use.	informational
tapeAlertTrap277	277	A drive inside the library has been taken offline.	informational

表 44: テープドライブからのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
tapeAlertTrap278	278	There is a potential problem with the barcode label or the scanner hardware in the library mechanism. If the problem persists, call the library supplier helpline.	minor
tapeAlertTrap279	279	<p>The library has detected a inconsistency in its inventory.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Redo the library inventory to correct inconsistency. 2. Restart the operation Check the applications users manual or the hardware users manual for specific instructions on redoing the library inventory. 	critical
tapeAlertTrap280	280	A library operation has been attempted that is invalid at this time.	minor

表 44: テープドライブからのトラップ

5.3 トラップの概要

5.3.22 teamserver (Fujitsu) からのトラップ

Fujitsu teamserver からのトラップです。

ASM PRIVATE COMMIB からのトラップ (Asmpro.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.3764.3

アラームタイプ	specific	説明	重要度
trapACFail	13	AC Power failed.	major
trapAssetChange	23	Asset is changed.	major
trapBatteryFail	15	UPS battery fails.	major
trapBusUtilization	8	Percent bus utilization exceeds the threshold value.	major
trapBiosEventLog	20	BIOS has new event log.	major
trapBiosEventLog Utilization	21	BIOS event log utilization exceeds threshold.	major
trapChassisIntrusion	16	Chassis intrusion occurs.	major
trapCPUAbnormal	22	CPU has internal error.	major
trapCPUUtilization	7	Percent CPU utilization exceeds the threshold value.	major
trapECC1BitError	3	An EEC 1-bit error occurs.	major
trapECCMBitError	4	An EEC multi-bit error occurs.	critical
trapFanStop	5	Any fan stops functioning.	major
trapFuseFail	17	Fuse failed.	major
trapMemoryUtilization	9	Percent memory utilization exceeds the threshold value.	major

表 45: ASM PRIVATE MIB からのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
trapNICCounter	11	NIC statistical counter exceeds the threshold value.	major
trapPowerFanFail	14	Any power subsystem fan fails.	major
trapPSFail	12	Any power supply fails.	major
trapRPSFail	18	Redundant power supply is failed.	major
trapRPSFanFail	19	Redundant power supply fan is failed.	major
trapTemperatureCritical	2	Temperatures exceed the second level threshold value.	critical
trapVoltage	6	Any voltage reading exceeds the save operating range.	major
trapVolumeUtilization	10	Percent volume utilization exceeds the threshold value.	major

表 45: ASM PRIVATE MIB からのトラップ

LDCM MIB からのトラップ (Ldcm.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.343.2.5.1.2

アラームタイプ	specific	説明	重要度
ldcmCriticalTrap	5	Manager has reported a severity Critical event.	critical
ldcmFatalTrap	6	Manager has reported a severity Fatal event.	critical
ldcmInfoTrap	2	Manager has reported an Informational event.	informational
ldcmOkTrap	3	Manager has reported a severity OK event.	informational

表 46: LDCM MIB からのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
ldcmUnknownTrap	1	Manager has reported an Unknown event.	informational
ldcmWarningTrap	4	Manager has reported a severity Warning event.	minor

表 46: LDCM MIB からのトラップ

LDSM MIB からのトラップ (Ldsm.mib

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.343.2.5.1.3

アラームタイプ	specific	説明	重要度
ldsmCriticalTrap	4	Manager has reported a “critical” error class event.	critical
ldsmInformationalTrap	2	Manager has reported an “informational” error class event.	informational
ldsmOkTrap	1	Manager has reported an “OK” error class event.	informational
ldsmWarningTrap	3	Manager has reported a “warning” error class event.	minor

表 47: LDSM MIB からのトラップ

5.3.23 スレッシュホールドからのトラップ (Trap.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231

スレッシュホールドからのトラップです。

アラームタイプ	specific	説明	重要度
snilnvDeltaTrap Underflow	131	相対閾値の下限を超えました。このトラップは、投げられた変数の1つが、ユーザに指定された範囲外であることを意味します。変数は snilnvPollAlarm フィールドに入力されます。	informational
snilnvPollDeltaExceed	130	相対閾値を超えました。このトラップは、投げられた変数の1つが、ユーザに指定された範囲外に出ていることを意味します。変数は snilnvPollAlarm フィールドに入力されます。	informational
snilnvPollTrapExceed	128	相対閾値を超えました。このトラップは、投げられた変数の1つが、ユーザに指定された範囲外に出ていることを意味します。変数は snilnvPollAlarm フィールドに入力されます。	informational

表 48: スレッシュホールドからのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
snInvPollTrapUnderflow	129	相対閾値の下限を超えました。このトラップは、投げられた変数の1つが、ユーザに指定された範囲外に出ていることを意味します。変数は snInvPollAlarm フィールドに入力されます。	informational
snInvTrapInvalid	132	閾値が無効になりました。	informational
snInvTrapValid	133	閾値が有効になりました。	informational
snNTAlert	304	NT アラートメッセージがイベントログに書き込まれました。	informational
snNTChangeSecurity	302	セキュリティが変更されました。	informational
snNTChangeTime	305	時刻の変更または、不均衡な時刻の調整が行われました。	informational
snNTDownServer	300	サーバをダウンします。	informational
snNTEventLogError	330	イベントログにエラーエントリが書き込まれました。	informational
snNTEventLogFailure	334	イベントログに、監査失敗エントリが書き込まれました。	informational
snNTEventLogInformation	332	イベントログに、情報エントリが書き込まれました。	informational
snNTEventLogSuccess	333	イベントログに、監査成功エントリが書き込まれました。	informational

表 48: スレッシュホールドからのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sniNTEventLogWarning	331	イベントログに、警告エントリが書き込まれました。	informational
sniNTFileChangeAttr	322	ファイルまたはディレクトリの属性が変更されました。	informational
sniNTFileChangeDirName	321	ディレクトリ名が変更、作成、または削除されました。	informational
sniNTFileChangeLastWrite	324	ファイルの更新時刻が変更されました。	informational
sniNTFileChangeName	320	ファイル名が変更、作成、または削除されました。	informational
sniNTFileChangeSecurity	325	ファイルのセキュリティが変更されました。	informational
sniNTFileChangeSize	323	ファイルサイズが変更されました。	informational
sniNTLoginUser	301	ユーザがサーバにログインしました。	informational
sniNTRegChangeAttr	311	レジストリのキーまたはそのサブツリーの属性が変更されました。	informational
sniNTRegChangeLastWrite	312	レジストリのキーまたはそのサブツリーへの更新時刻が変更されました。	informational
sniNTRegChangeName	310	レジストリのキー名が変更されました。	informational
sniNTRegChangeSecurity	313	レジストリのキーまたはそのサブツリーのセキュリティが変更されました。	informational

表 48: スレッシュホールドからのトラップ

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sniNTTrusteeChange	303	サーバで、トラスティが変更されました。	informational
sniNWActivateScreen	014	サーバで、画面が活性化されました。	informational
sniNWAlert	044	Netware アラートメッセージがコンソールに書き込まれました。	informational
sniNWAllocateConnection	037	接続が割り当てられました。	informational
sniNWChangeSecurity	013	サーバでセキュリティが変更されました。	informational
sniNWChangeTime	051	時刻の調整が行われました。	informational
sniNWClearConnection	009	接続が作成されました。	informational
sniNWCloseFile	050	ファイルがクローズされました。	informational
sniNWCloseScreen	021	サーバで画面が閉じられました。	informational
sniNWCreateBinderyObj	011	バインダリオブジェクトが作成されました (NetWare)。	informational
sniNWCreateObject	046	ディレクトリサービスオブジェクトが作成されました (NetWare)。	informational
sniNWCreateProcess	028	プロセスが生成されました。	informational
sniNWDataMigration	041	ファイルデータが移動されました。	informational
sniNWDataDeMigration	042	ファイルデータが移動先から復元されました。	informational
sniNWDeactivateScreen	018	サーバ上の画面が非活性化されました。	informational

表 48: スレッシュホールドからのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sniNWDeleteBinderyObj	012	バイナリオブジェクトが削除されました (NetWare)。	informational
sniNWDeleteObject	047	ディレクトリサービスオブジェクトが削除されました (NetWare)。	informational
sniNWDestroyProcess	029	プロセスが破壊されました。	informational
sniNWDownServer	004	サーバをダウンします。	critical
sniNWExitToDos	007	サーバは DOS に抜けます。	critical
sniNWKeyWasPressed	017	サーバでキーが押されました。	informational
sniNWLoginUser	010	ユーザがサーバにログインしました。	informational
sniNWLogoutConnection	038	ユーザがサーバからログアウトしました。	informational
sniNWMLIDDeRegister	040	Multiple Link Interface Driver (MLID) がサーバからチェックアウトしました。	informational
sniNWMLIDRegister	039	Multiple Link Interface Driver (MLID) がサーバに登録されました。	informational
sniNWModifyDirEntry	022	サーバでディレクトリエントリが変更されました。	informational
sniNWModule Loaded	027	モジュール (NLM など) が読み込まれました。	informational
sniNWModuleUnloaded	009	モジュール (NLM など) が読み込まれていません。	informational

表 48: スレッシュホールドからのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sniNWNewPublic	032	新規パブリックシンボルが登録されました。	informational
sniNWNoRelinquish Control	023	NLM モジュールが制御を放棄していません。	critical
sniNWOpenScreen	020	サーバ上で画面が表示されました。	informational
sniNWProtocolBind	033	MLID にプロトコルがバインドされました。	informational
sniNWProtocolUnbind	034	MLID からプロトコルがアンバインドされました。	warning
sniNWQueueAction	043	キューが活性化、非活性化、作成、または削除されました。	informational
sniNWRenameObject	048	ディレクトリサービスオブジェクトがリネームされました (NetWare)。	informational
sniNWSysVolume Dismounted	001	サーバでシステムボリュームがディスマウントされました。	critical
sniNWThreadSwitch	025	スレッドが切り替えられました。	informational
sniNWTrusteeChange	019	サーバでトラステイが変更されました。	informational
sniNWUpdateCursor	016	カーソル位置が更新されました。	informational
sniNWUpdateScreen	015	サーバ上の画面が更新されました。	informational
sniNWValueChanged	049	ディレクトリサービスオブジェクトの値が変更されました (NetWare)。	informational

表 48: スレッシュホールドからのトラップ

アラームタイプ	specific	説明	重要度
sniNWVolSysMounted	000	システムボリュームがマウントされました。	informational
sniNWVolumeDismounted	003	サーバでボリュームがディスマウントされました。	informational
sniNWVolumeMounted	002	ボリュームがマウントされました。	informational

表 48: スレッシュホールドからのトラップ

5.3.24 UPS からのトラップ (Upsman.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.1356

UPS からのトラップです。

UPS からのトラップ 1

アラームタイプ	specific	説明	重要度
communicationEstablished	4	UPS との通信を確立しました。	informational
communicationLost	1	UPS との通信が切断されました。	critical
powerRestored	5	UPS の通常電源が回復しました。	informational
testCompleted	8	UPS テストが完了しました。	informational
testStarted	7	UPS テストが開始されました。	informational
upsOnBattery	6	UPS がバッテリー電源に切り替わりました。	major
upsOverload	2	UPS で、処理能力の 100% を超える負荷が検出されました。	critical

表 49: UPS からのトラップ 1

5.3 トラップの概要

アラームタイプ	specific	説明	重要度
upsTurnedOff	3	マネージャにより UPS の電源が切断されました。	major

表 49: UPS からのトラップ 1

UPS からのトラップ 2

アラームタイプ	specific	説明	重要度
boostOn	6	UPS のブースターに電源が投入されました。	major
communicationEstablished	8	UPS との通信が確立されました。	informational
communicationLost	1	UPS との通信が切断されました。	critical
lowBattery	7	バッテリーが低下しており、まもなく空になります。	critical
powerRestored	9	UPS の通常電源が回復しました。	informational
returnFromLowBattery	11	UPS はバッテリー低下状態から回復しました。バッテリーは正常です。	informational
upsDiagnosticsFailed	3	UPS の内部診断チェックに失敗しました。	critical
upsDiagnosticsPassed	10	UPS は内部診断チェックに合格しました。	informational
upsDischarged	4	UPS は今放電を終えたところです。	critical
upsOnBattery	5	UPS がバッテリー電源に切り替わりました。	major
upsOverLoad	2	UPS で、処理能力の 100% を超える負荷が検出されました。	critical

表 50: UPS からのトラップ 2

アラームタイプ	specific	説明	重要度
upsRebootStarted	15	UPS が再起動を開始しました。	major
upsSleeping	13	UPS がスリープモードに切り替わりました。	major
upsTurnedOff	12	マネージャにより UPS の電源が切断されました。	major
upsWokeUp	14	UPS がスリープモードから復帰しました。	informational

表 50: UPS からのトラップ 2

6 MIB の統合

Windows および Linux 上でイベントマネージャをインストールすると、Web ベースの MIB Manager が自動的にインストールされます。

MIB Manager を使うと、プライベート MIB がイベントマネージャに統合され、ServerView によるプライベート MIB のトラップ検出が可能になります。そして万が一エラーが発生した場合、ServerView は必要な措置を実行できます。



次の例は、トラップタイプの記述に必要な形式を示しています。

```
testTrap TRAP-TYPE
ENTERPRISE sniServerMgmt
VARIABLES {
    trapServerName,
    trapTime
}
DESCRIPTION
    "Test trap to verify trap connection."
--#TYPE "Test trap"
--#SUMMARY "Test trap from server %s (no error)."
```

```
--#ARGUMENTS { 0 }
--#SEVERITY INFORMATIONAL
--#TIMEINDEX 1
--#HELP "Note: This is no error condition."
--#HELPTAG
--#STATE OPERATIONAL
::= 600
```

示されている MIB ファイルの場合、サポートされるエンタープライズストリングは 1 つだけです。

MIB Manager の起動

MIB Manager は次のように起動します。

- ▶ イベント管理のメニューで、MIB インテグレータを選択します。

MIB Manager が起動し、次の画面が表示されます。

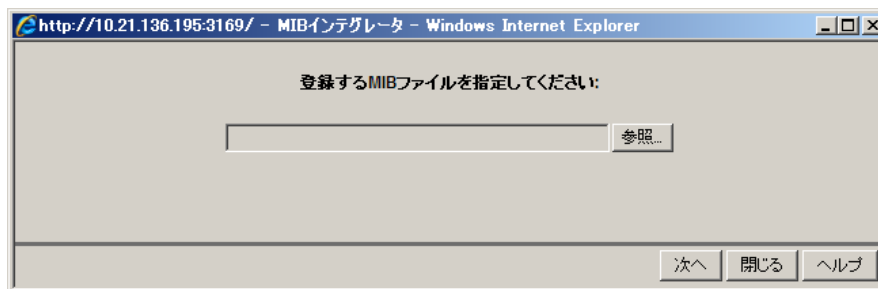


図 18: MIB Manager

プライベート MIB の統合は次のように行います。

- ▶ 参照ボタンをクリックして、MIB が格納されているディレクトリを選択します。
- ▶ MIB を選択し、次へ ボタンをクリックします。MIB Manager によって、MIB の構文が正しいかどうかチェックされ、メッセージ画面でステータスが表示されます。
- ▶ この MIB を登録する同報 ボタンをクリックして MIB を統合します。
- ▶ 閉じるボタンをクリックし、MIB Manager を終了します。



サードパーティ MIB を統合した後は、Windows の **ServerView Services** を再起動してください。Linux では次を使って **SVForwardServer** を再起動するだけで十分です。
`/etc/init.d/sv_fwdserver restart.`

MIB Manager を使わない MIB 統合 (Linux)

Linux 上では、MIB Manager を使用する以外に、プライベート MIB を統合する次の方法もあります。

- ▶ **SVForwardServer** サービスを停止します。
`/etc/init.d/sv_fwdserver stop`

-
- ▶ **MIB** をディレクトリにコピーします。
/opt/fujitsu/ServerViewSuite/web/cgi-bin/ServerView/
common/mibs.
 - ▶ **SVForwardServer** サービスを再起動します。
/etc/init.d/sv_fwdserver start

7 補足

7.1 「4 アラーム設定」の補足記事

- アラーム設定は、3つのカテゴリに分かれます。各設定の順番は前後しても行うことができます。

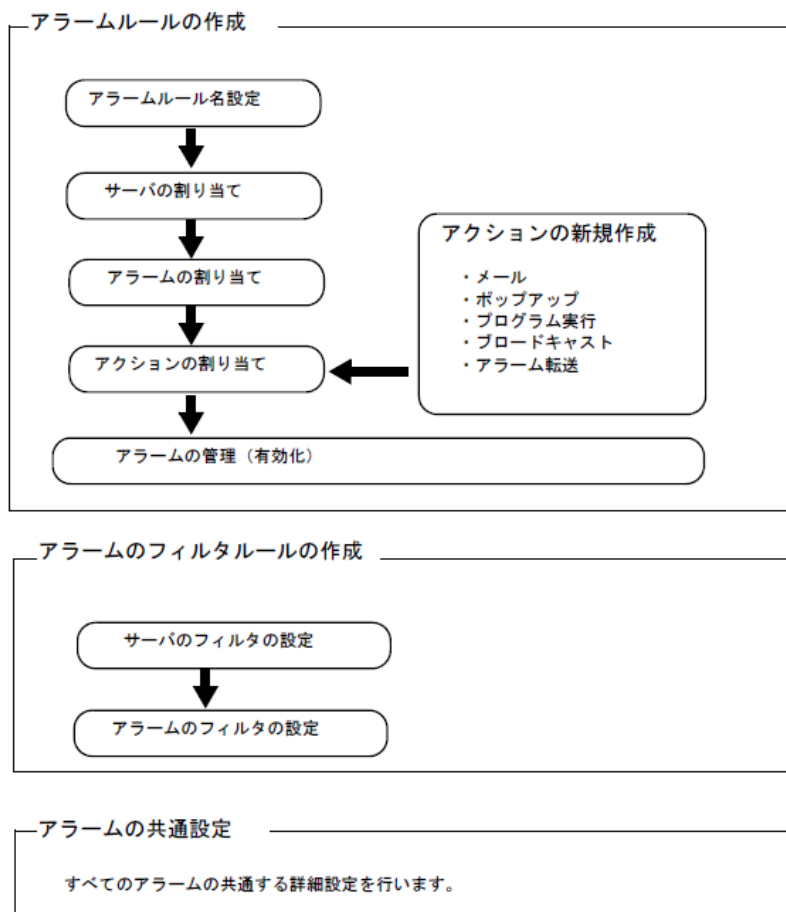


図 19: アラームルールの作成

7.1 「4 アラーム設定」の補足記事

- 変更した設定を適用せずに画面を以降させた場合は次の様な警告が表示されます。

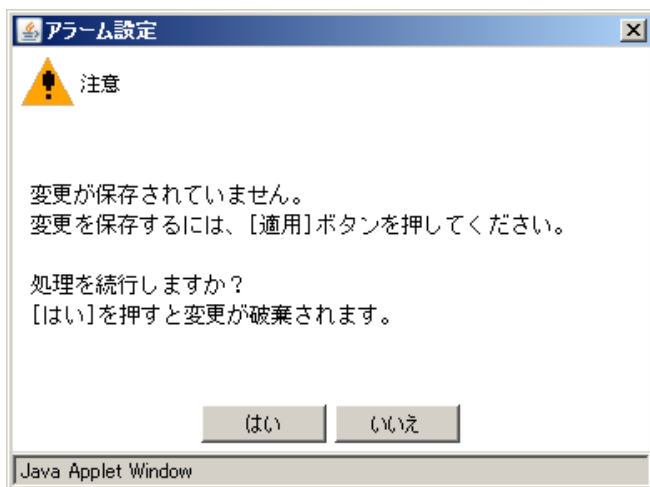


図 20: アラーム設定の警告その 1

アラームルールに必要な要素が欠けている場合にも次のような警告が表示されます。

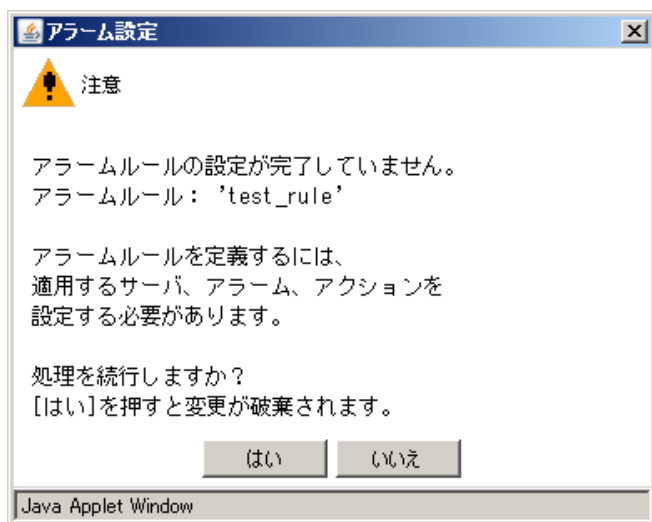


図 21: アラーム設定の警告その 2

7.2 「4.1 アラームルール」の補足記事

アラームルール名には日本語は使えません。また、ルール名の途中に空白を入れる（例：「**test rule**」）こともしないでください。

8 トラブルシューティング

- メール送信テストのエラーコードはどんな意味ですか？

イベントマネージャでメール送信テストを行い、エラー復帰した場合は、次の表をご覧ください。

復帰エラーコードが次の表以外の場合は、弊社にお問い合わせください。

エラーコード	内容
1	SMTP server error
2	Mail server error, wrong from or to address ?
4001	Malloc failed (possibly out of memory).
4002	Error sending data.
4003	Error initializing gensock.dll.
4004	Version not supported.
4005	The winsock version specified by gensock is not supported by this winsock.dll.
4006	Network not ready.
4007	Can't resolve (mailserver) hostname.
4008	Can't create a socket (too many simultaneous links?)
4009	Error reading socket.
4010	Not a socket.
4011	Busy.
4012	Error closing socket.
4013	Wait a bit (possible timeout).
4014	Can't resolve service.
4015	Can't connect to mailserver (timed out if winsock.dll error 10060)
4016	Connection to mailserver was dropped.
4017	Mail server refused connection

表 51: エラーコード

-
- テストトラップがタイムアウトになってしまう

テストトラップがタイムアウトした場合、次の設定を確認してください。

- **SVOM (Windows / Linux)** をインストールしたをインストールした管理用サーバの確認項目

< Windows / Linux 共通 >

- ・ タイムアウト時間が短い

ネットワークの状態によっては、デフォルトのタイムアウト時間では短い場合が考えられます。ネットワーク環境を確認したうえで、タイムアウト時間を延ばしてください。

- ・ アラームモニタの「除外アラーム一覧」において、テストトラップが除外されていませんか？

除外されている場合、「除外アラーム一覧」より、「**Test trap**」(テストトラップ)を選択後、「削除」をクリックして消してください。

< Windows >

- ・ ファイアウォールにより、SNMP トラップ受信ポート (udp 162 番) が遮断されていませんか？

遮断されている場合は、遮断解除設定を行ってください。
ファイアウォールの詳細については、インストールしているファイアウォールソフトウェアのマニュアルをご覧ください。なお、OS 標準のファイアウォールとしては、**iptables**、**tcpwrapper** (/etc/hosts.deny、/etc/hosts.allow) などがあります。

- ・ 「**ServerView Services**」および、「**SNMP Trap Service**」が停止していませんか？

停止している場合は、サービスを起動してください。また、停止していても、異常な状態になっている可能性が考えられますので、サービスを再起動してください。

-
- ・ **Systemwalker** がインストールされていませんか？

Systemwalker がインストールされている場合、**SNMP** トラップが受信できない場合があります。この場合は、コマンドプロンプトで、次のコマンドを実行してください。

> *mpmsts ON*

なお、コマンドの場所については、ファイル検索を行うか、**Systemwalker** のマニュアルをご覧ください。また、コマンドの詳細については、**Systemwalker** のマニュアルをご覧ください。

< Linux >

- ・ ファイアウォールにより、**SNMP** トラップ受信ポート (**udp 162** 番) が遮断されていませんか？

遮断されている場合は、遮断解除設定を行ってください。ファイアウォールの詳細については、インストールしているファイアウォールソフトウェアのマニュアルをご覧ください。なお、OS 標準のファイアウォールとしては、**iptables**、**tcpwrapper** (**/etc/hosts.deny**、**/etc/hosts.allow**) などがあります。

- ・ 「**SVFwdServer** (イベントマネージャ)」および、「**snmptrapd**」が停止していませんか？

停止している場合は、**ServerView** プロセスを起動してください。

(**sv_services restart**)

また、停止していなくても、異常な状態になっている可能性が考えられますので、サービスを再起動してください。

監視対象サーバ (Windows) の確認項目

- ・ **SNMP** サービスのセキュリティ設定において、ご使用のコミュニティに対する権利が、次の設定になっていることを確認してください。

- ・ **Windows Server 2008** / **Windows Server 2003** の場合

「読みとり、書き込み」または「読みとり、作成」

- ・ **SNMP** サービスのトラップ送信先設定に、**SVOM** がインストールされている管理用サーバの **IP** アドレスが設定されていますか？

設定されていない場合は、設定を行ってください。

監視対象サーバ (Linux) の確認項目

・ **snmpd.conf** の **snmp** アクセス設定において、**write** が許可されていますか？

snmpd.conf 内の「**access**」行の **write** 権限設定を確認してください。

例) **access** 行の **write** 部分に **view** 行で設定している「**svView**」が設定されていること

```
#name inl/excl subtree mask(optional)
```

```
view svView included .1
```

```
#group context sec.model sec.level prefix read write notif
```

```
access svGroup "" any noauth exact svView svView none
```

↑ この部分

・ **snmpd.conf** のトラップ送信先設定に、**SVOM** がインストールされている管理用サーバの **IP** アドレスが設定されていますか？

設定されていない場合は、設定を行ってください。

- 受信したトラップの "" サーバ "" がサーバ名や **IP** アドレスとならず、**0.0.0.0** と表示される

SVOM / エージェントでは **SNMP** のバージョン **v1** のみサポートしています。**SNMP** バージョンが **v1** 以外 (**v2** など) になっていないか確認してください。**v1** ではない場合、**v1** に変更してください。

- アラームの削除について

「共通設定」画面で、指定した経過日数以上のアラームを削除するように設定できますが、この削除は指定日数経過後、新たにアラームを受信したときに実行されます。

- 処理中の画面を終了するときの注意

処理中の画面 (例えば、アラームモニタで多くのアラームを削除するような処理を行った場合など) は、処理が完全に終了するまで画面を終了しないでください。処理が完全に終了する前に画面を終了すると、処理が中止され正常に動作しません。

-
- ブロードキャスト転送が実行されない

- Windows Server 2008 以降の場合

Microsoft の仕様変更によりポップアップメッセージには「msg.exe」を使用しています。このため、リモートデスクトップ接続した画面上でのみポップアップメッセージを確認する事が出来ます。

- Windows Server 2003 の場合

ご使用の Windows Messenger サービスの問題により、ブロードキャスト転送が正しく実行されない場合があります。

このサービスが正しく動作しているかどうかをテストするためには、コマンドプロンプトを開いて、次のコマンドを実行してください。

- ・ドメインの全ユーザに対するブロードキャスト転送をテストする場合

```
net send * <message>
```

または

```
net send /domain:<yourdomain> <message>
```

- ・セッション中の全ユーザに対するブロードキャスト転送をテストする場合

```
net send /users <message>
```

- ・特定の全ユーザに対するブロードキャスト転送をテストする場合

```
net send <user> <message>
```

これらのテストが 1 つでも失敗した場合は、ネットワークを確認してください。



テスト結果のメッセージが正常終了であった場合でも、ドメインのアドミニストレータに対する「net send」は常に動作しないように見えます。

索引

A

Ack Alarm 25
Adaptec からのトラップ 86
ADICLIBMIB-v2.mib 112
Alarm View Settings 28
APC からのトラップ 86
ASM PRIVATE COMMIB からのトラップ 156
Asmpro.mib 156

C

COM ポートとモデム
 ポケットベル設定 68
COM ポートとモデムの設定 68

D

Ddm.mib 99
dec.mib 119
Delete 26
domagt.mib 113
DOMAIN-MIB からのトラップ 113
dptscsi.mib 97
DPT からのトラップ 97
DuplexDataManager からのトラップ 99
DuplexWrite からのトラップ 102
Duralink.mib 86
DW.mib 102

F

Filter Settings 26
FSC-HACL-MIB からのトラップ 116
FSC-LOG3-MIB からのトラップ 113

H

Hd.mib 104

L

LDCM MIB からのトラップ 157

Ldcm.mib 157

LDSM MIB からのトラップ 158

Ldsm.mib 158

log3v1.mib 113

M

Megaraid.mib 123
MIB
 ADICLIBMIB-V2.mib 112
 Asmpro.mib 156
 Ddm.mib 99
 dec.mib 119
 domagt.mib 113
 dptscsi.mib 97
 Duralink.mib 86
 DW.mib 102
 Hd.mib 104
 Ldcm.mib 157
 Ldsm.mib 158
 log3v1.mib 113
 Megaraid.mib 123
 mp.mib 105
 Mylex.mib 107
 NTCluster.mib 94
 pcihotplug.mib 112
 Powernet.mib 86
 primepower_xscf.mib 115
 Rompilot.mib 126
 S31.mib 89
 s31.mib 89
 SC.mib 127
 SC2.mib 134
 ServerView.mib 141
 Status.mib 141
 tapealrt.mib 142
 Trap.mib 159
 uniserv.mib 115
 Upsman.mib 165
 v1_fscHaCl.mib 116
 wsatrap.mib 116
概要 80

MIB Manager tool 169, 170

mp.mib 105

MultiPath- トラップ 105

MultiPath からのトラップ 105

Mylex.mib 107

Mylex からのトラップ 107

N

NTCluster.mib 94

O

Operations Manager (Linux)

起動 15

P

PCI HotPlug からのトラップ 112

pcihotplug.mib 112

Powernet.mib 86

PRIMEPOWER-XSCF-MIB からのトラップ 115

primepower_xscf.mib 115

PRIMEPOWER からのトラップ 112

PXRE からのトラップ 119

R

RAID Adapter からのトラップ 123

Rompilot.mib 126

RomPilot からのトラップ 126

S

s31.mib 89

SC.mib 127

SC2.mib 134

Selection Wizard 29

ServerControl からのトラップ 127, 134

ServerView Operations Manager 23

ServerView Operations Manager

(Linux)

起動 15

ServerView.mib 141

ServerView からのトラップ 141

ServerView ステータスからのトラップ 141

SMS の使用 68

Status.mib 141

Suppress 26

T

tapealrt.mib 142

teamserver (Fujitsu) からのトラップ 156

Trap.mib 159

trapTemperatureCritical

ASM PRIVATE COMMIB 157

U

UNISERV-MIB からのトラップ 115

uniserv.mib 115

Upsman.mib 165

UPS からのトラップ 165

UPS からのトラップ 1 165

UPS からのトラップ 2 166

V

v1_fscHaCl.mib 116

W

WSA-TRAP-MIB からのトラップ 116

wsatrap.mib 116

あ

アイコン, 意味 23

アクションの割り当て 51

アラーム

1 ページの表示数の設定 28

MAPI をメールプロトコルとして
設定する際の注意 58

確認 25

削除 26

重要度レベルの動作 9

除外 26

除外のリセット 26

フィルタ 55

ポップアップの設定 65

メール転送 58

ローカルノートの編集 28

アラームエントリ 22

アラーム設定 39

アラームの詳細 24

アラームの情報 24

アラームのフィルタ 47, 55

アラームのフィルタ処理 55

アラームの割り当て 47

アラームモニタ 21

アラームリスト

管理 29

表示内容の変更 22

ページ 24

アラームルール 41

アクションの割り当て 51

アラームルールの管理 41

サーバの割り当て 45

アラームルールの管理 41

アラームレベル

選択 22

い

イベントマネージャ, 起動 15

か

確認, アラーム 25

画面

アラーム表示の設定 28

サーバのプロパティ 24

選択ウィザード 29

ローカルノートの編集 28

管理, アラームリスト 29

き

起動

Operations Manager (Linux) 15

起動, イベントマネージャ 15

く

クラスターからのトラップ 94

こ

コンテキストメニュー

Ack Alarm 項目 25

Alarm View Settings 項目 28

Delete 項目 26

Filter Settings 項目 26

Selection Wizard 項目 29

Suppress 項目 26

ローカルノートの編集項目 28

コンポーネント

アラームモニタ 21

さ

サーバ

接続のテスト 27

フィルタ 55

サーバ, ServerView サーバリストへの追加 24

サーバ情報画面 31

サーバ設定値, 変更 24

サーバの情報 24

サーバのフィルタ 55

サーバの割り当て 45

サーバブラウザ, 起動 24

サーバリストに追加 24

サービスプロバイダへのメール転送 62

削除, アラーム 26

し

実行プログラムの設定 71

重要度レベル, トラップ 9

除外, アラーム 26

す

スレッシュホールドからのトラップ 159

せ

設定

実行プログラム 71

トラップ 74

ブロードキャスト 72

設定, 1 ページのアラーム数 28

設定変更 24

た

タブ

アラームの詳細 24

アラームの情報 24

サーバの情報 24

て

テープドライブからのトラップ 142

テスト, サーバ接続 27

と

トラップ

Adaptec 86

APC 86

ASM PRIVATE COMMIB 156

DOMAIN-MIB 113

DPT 97

DuplexDataManager 99

DuplexWrite 102

FSC-HACL-MIB 116

FSC-LOG3-MIB 113

LDCM MIB 157

LDSM MIB 158

MultiPath 105

Mylex 107

PCI HotPlug 112

PRIMEPOWER 112

PRIMEPOWER-XSCF-MIB 115

PXRE 119

RAID Adapter 123

RomPilot 126

ServerControl 127, 134

ServerView 141

ServerView ステータス 141

teamserver (Fujitsu) 156

UNISERV-MIB 115

UPS 165

UPS 1 165

UPS 2 166

WSA-TRAP-MIB 116

一覧 80

クラスター 94

重要度レベルの動作 9

スレッシュホールド 159

テープドライブ 142

ハードディスク 104

標準 105

ブレードシステム 89

重要度レベル 9

トラップ情報

アラームモニタ画面から起動 77

イベントマネージャのスタート画面から起動 77

トラップの設定 74

は

ハードディスクからのトラップ 104

ひ

表示

サーバ情報 31

標準トラップ 105

ふ

フィルタ

アラーム 55

サーバ 55

フィルタルール 54

アラームのフィルタ 47, 55

サーバのフィルタ 55

ブレードシステムからのトラップ 89

ブロードキャストの設定 72

へ

編集, ローカルノート [28](#)

ほ

ポケットベル, 設定 [68](#)

ポケットベル設定

COM ポートとモデム [68](#)

ボタン [40](#)

ポップアップの設定 [65](#)

本書の表記 [11](#)

ま

マクロ [76](#)

め

メール

メールサービス設定時の注意 [58](#)

メール設定 [59](#)

メール転送, アラーム [58](#)

メール転送の有効化 [63](#)

も

モデム, 設定 [68](#)

り

リセット, アラーム除外 [26](#)

リンク

サーバリストに追加 [24](#)

設定変更 [24](#)

ろ

ローカルノート [28](#)

